都城市文化財調査報告書第39集

KU DAMA -SITE

久 玉 遺 跡

–第７・８次調査概要報告書–

1997.3

宮崎県都城市教育委員会

久玉遺跡遠景

序

本書は、都城広域都市計画事業「郡元・祝吉土地区画整理事業」に伴って都城市教育委員会が埋蔵文化財の発掘調査を実施した、久玉遺跡第７・８次調査の概要報告書であります。

郡元・祝吉地区においては、昭和56年度に行った祝吉第1遺跡の発掘調査以来、すでに十数年にもわたって埋蔵文化財の発掘を継続実施しており、その総件数は今回の調査も含めて、のべ16次、32調査地点に上ります。近年、都城市内でも様々な開発に伴う発掘調査が急増しておりますが、当地区のように継続的かつ広範囲にわたる調査が実施されている例はきわめて稀であり、当地方の中・近世期の様相を明らかにしていく上で大変重要な地域であるといえます。

本書には、平成７年４月から７月にかけて実施した久玉遺跡第7次調査（３地点）と、平成８年４月から８月にかけて行った第８次調査（２地点）で出土した中世～近世の遺構や遺物の概要が収録されています。これまでの調査の成果と合わせて、今回発見された資料が埋蔵文化財への理解と認識を深める一助となるとともに、当地方の中・近世史を解明していく学術資料の一つとして活用していただければ幸いです。

最後に、例年にない猛暑の中で発掘作業に従事していただいた市民の皆様、現場における調査から出土資料の整理に至るまでご指導、ご協力をいただきました多くの先生方、そして関係各機関に対しまして心より厚く御礼申し上げます。

1997年３月31日

都城市教育委員会
教育長　隈　元　幸　美

例　言

1．本書は、都城広域都市計画事業「郡元・祝吉土地区画整理事業」に伴って都城市教育委員会が実施した、久玉遺跡第７・８次発掘調査の概要報告書である。

2．各年次ごとの調査期間は次のとおりである。

［第７次調査］平成７年４月10日～平成７年７月27日

［第８次調査］平成８年４月５日～平成８年８月19日

3．調査の組織は下記のとおりである。

調査主体	都城市教育委員会	
調査責任者	都城市教育長	隈元幸美
調査総括	都城市文化課長	遠矢昭夫
調査事務局	同文化課長補佐	永野元保
	同　文化財係長	中村久司
	同　主事	児島咲子（平成７年度・庶務担当）
	同　主査	矢部喜多夫（平成８年度・庶務担当）
調査担当	同　主事	横山哲英

4．遺構実測図の作成は、作業員の助力を得ながら横山が中心になって行った。また、遺構分布図の作成及び遺物取上げには、遺跡調査システム"SITE"を用いた。

5．出土遺物の実測は、横山、米澤英昭（都城市文化課職員）、猪股幸千代、池谷香代子、雁野あつ子、水光弘子が行い、製図は横山が行った。

6．遺構・遺物の写真撮影は横山が行い、遺跡の空撮は㈱スカイサーベイに委託した。

7．本書で使用した基準方位は磁北であり、レベルは海抜絶対高である。

8．本書に掲載した位置図は、国土地理院発行の25,000分の１図をもとに作成し、周辺地形図は、宮崎県土木部都市公園緑地課作成の1,000分の１図をもとに作成した。

9．本書の執筆・編集は、横山が行った。

11．出土陶磁器については、大橋康二氏（佐賀県立九州陶磁文化館）、渡辺芳郎氏（鹿児島大学法文学部助教授）の鑑定・ご教示を賜った。また、本書を執筆するにあたっては、重永卓爾（都城市文化財専門委員）、矢部喜多夫・楽畑光博（都城市文化課職員）、大盛祐子各氏の助言を得た。

12．本書に関する遺物・記録類（写真・図面等）は、都城市立図書館内埋蔵文化財整理収蔵室で収蔵・保管している。

13．本書では、下記のとおりの略号を用いている。

SB-掘立柱建物　SC-土坑　SD-溝状遺構

SE-井戸　SF-道路状遺構　SS-石組遺構

本文目次

Ⅰ．調査に至る経緯 …… 1
Ⅱ．遺跡の位置と環境 …… 2
Ⅲ．調査の概要 …… 2
　1．基本層序 …… 2
　2．調査区の設定と概要 …… 3
Ⅳ．調査の記録 …… 4
　1．第７次調査 …… 5
　　1）Ａ地区の概要 …… 5
　　2）Ｂ地区の概要 …… 29
　　3）Ｃ地区の概要 …… 40
　2．第８次調査 …… 48
　　1）Ａ地区の概要 …… 48
　　2）Ｂ地区の概要 …… 58
Ⅴ．小　結 …… 67

挿図目次

第１図　久玉遺跡の位置及び周辺遺跡分布図 …… 1
第２図　久玉遺跡（第１～８次）調査区域図 …… 3
第３図　久玉遺跡基本土層柱状図 …… 4
第４図　久玉遺跡（第７・８次調査）遺構分布図① …… 6～7
第５図　久玉遺跡（第７・８次調査）遺構分布図② …… 8～9
第６図　久玉遺跡（第７次調査）Ａ地区遺構分布図 …… 10～11
第７図　久玉遺跡（第７次調査）Ａ地区土層断面図① …… 12
第８図　久玉遺跡（第７次調査）Ａ地区土層断面図② …… 13
第９図　久玉遺跡（第７次調査）Ａ地区土層断面図③ …… 14
第10図　久玉遺跡（第７次調査）Ａ地区土層断面図④ …… 15
第11図　久玉遺跡（第７次調査）Ａ地区SC－５内廃棄礫群平面図 …… 15
第12図　久玉遺跡（第７次調査）Ａ地区SS－１平面・断面図 …… 16～17
第13図　久玉遺跡（第７次調査）Ａ地区出土遺物実測図① …… 18
第14図　久玉遺跡（第７次調査）Ａ地区出土遺物実測図② …… 19
第15図　久玉遺跡（第７次調査）Ａ地区出土遺物実測図③ …… 20

第16図　久玉遺跡（第７次調査）Ａ地区出土遺物実測図④ ……21
第17図　久玉遺跡（第７次調査）Ａ地区出土遺物実測図⑤ ……22
第18図　久玉遺跡（第７次調査）Ａ地区出土遺物実測図⑥ ……23
第19図　久玉遺跡（第７次調査）Ａ地区出土遺物実測図⑦ ……24
第20図　久玉遺跡（第７次調査）Ａ地区出土遺物実測図⑧ ……25
第21図　久玉遺跡（第７次調査）Ｂ地区遺構分布図 …… 30～31
第22図　久玉遺跡（第７次調査）Ｂ地区土層断面図① ……32
第23図　久玉遺跡（第７次調査）Ｂ地区土層断面図② ……33
第24図　久玉遺跡（第７次調査）Ｂ地区出土遺物実測図① ……34
第25図　久玉遺跡（第７次調査）Ｂ地区出土遺物実測図② ……35
第26図　久玉遺跡（第７次調査）Ｃ地区遺構分布図 ……36
第27図　久玉遺跡（第７次調査）Ｃ地区土層断面図① ……37
第28図　久玉遺跡（第７次調査）Ｃ地区SS-１平面・断面図 …… 38～39
第29図　久玉遺跡（第７次調査）Ｃ地区土層断面図② ……40
第30図　久玉遺跡（第７次調査）Ｃ地区出土遺物実測図① ……41
第31図　久玉遺跡（第７次調査）Ｃ地区出土遺物実測図② ……42
第32図　久玉遺跡（第７次調査）Ｃ地区出土遺物実測図③ ……43
第33図　久玉遺跡（第７次調査）Ｃ地区出土遺物実測図④ ……44
第34図　久玉遺跡（第８次調査）Ａ地区遺構分布図 …… 46～47
第35図　久玉遺跡（第８次調査）Ａ地区土層断面図① ……49
第36図　久玉遺跡（第８次調査）Ａ地区土層断面図② ……50
第37図　久玉遺跡（第８次調査）Ａ地区土層断面図③ ……51
第38図　久玉遺跡（第８次調査）Ａ地区出土遺物実測図① ……52
第39図　久玉遺跡（第８次調査）Ａ地区出土遺物実測図② ……53
第40図　久玉遺跡（第８次調査）Ａ地区出土遺物実測図③ ……54
第41図　久玉遺跡（第８次調査）Ａ地区出土遺物実測図④ ……55
第42図　久玉遺跡（第８次調査）Ｂ地区遺構分布図①（東半部） ……58
第43図　久玉遺跡（第８次調査）Ｂ地区・東半部土層断面図① ……59
第44図　久玉遺跡（第８次調査）Ｂ地区・東半部土層断面図② ……60
第45図　久玉遺跡（第８次調査）Ｂ地区遺構分布図②（西半部） ……61
第46図　久玉遺跡（第８次調査）Ｂ地区SS１・２平面・断面図 …… 62～63
第47図　久玉遺跡（第８次調査）Ｂ地区・西半部土層断面図 ……64
第48図　久玉遺跡（第８次調査）Ｂ地区出土遺物実測図① ……65
第49図　久玉遺跡（第８次調査）Ｂ地区出土遺物実測図② ……66

図版目次

巻頭口絵　久玉遺跡群遠景

図版１　KU7A・遺構完掘状況，SD3内廃棄礫出土状況，SS1検出状況……68
SC5内廃棄礫出土状況，SD3完掘状況，KU7A出土舶載磁器
KU7A出土国産磁器①～③
図版２　KU7A出土国産磁器④，KU7A出土国産陶器①～⑦……69
図版３　KU7A出土国産陶器⑧～⑪，KU7A出土土師器①・②……70
KU7A出土銭貨，KU7A出土石製品
図版４　KU7B・遺構完掘状況，遺構検出状況，SD1-1・2掘り下げ状況71
SD2-1～3掘り下げ状況，KU7B出土国産陶器
KU7B出土土製品，KU7B出土国産陶磁器・銭貨・土師器
図版５　KU7C・遺構完掘状況，SS1検出状況①・②，KU7C出土国産磁器……72
KU7C出土舶載・国産磁器，KU7C出土国産陶器①・②
KU7C出土土製品，KU7B出土土師器・銭貨
図版６　KU8A・遺構完掘状況，SD1-1～3掘り下げ状況①・②……73
SD1-1～3内文明降下軽石堆積状況，SD1-1～3完掘状況
KU8A出土舶載・国産磁器①
図版７　KU8A出土舶載・国産磁器②，KU8A出土国産陶器①～⑤……74
KU8A出土国産陶器・土師器・土製品，KU8A出土石製品
図版８　KU8B西・東地区遺構完掘状況，KU8B東地区・遺構検出状況……75
SD1-1～3完掘状況，SS1・SS2検出状況，KU8B出土国産陶磁器
KU8B出土国産陶磁器・土師器・石製品，KU8B出土舶載・国産磁器

表目次

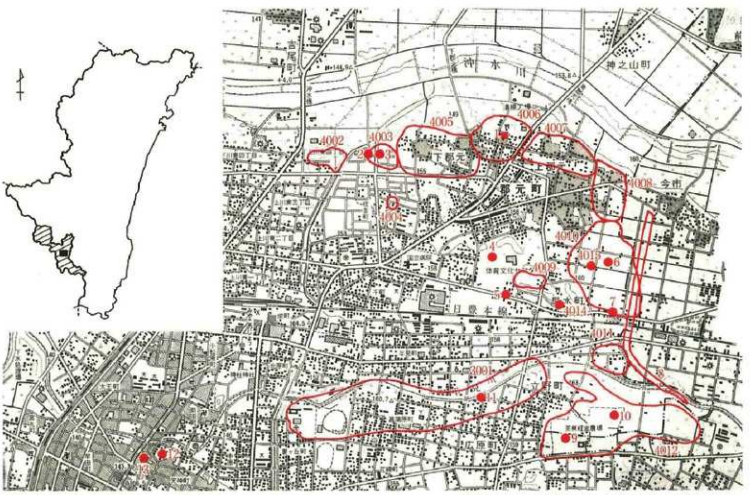
表１　久玉遺跡第７次調査Ａ地区出土遺物観察表①……26
表２　久玉遺跡第７次調査Ａ地区出土遺物観察表②……27
表３　久玉遺跡第７次調査Ａ地区出土遺物観察表③……28
表４　久玉遺跡第７次調査Ｂ地区出土遺物観察表……35
表５　久玉遺跡第７次調査Ｃ地区出土遺物観察表……45
表６　久玉遺跡第８次調査Ａ地区出土遺物観察表①……56
表７　久玉遺跡第８次調査Ａ地区出土遺物観察表②……57
表８　久玉遺跡第８次調査Ｂ地区出土遺物観察表……66

Ⅰ．調査に至る経緯

都城市街地北東部に位置している郡元・祝吉地区では、昭和50年度から土地区画整理事業が実施されており、平成８年度までに計画面積の約85％にあたる約83haで事業が完了している。

同事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査は、昭和55年度の祝吉第１遺跡を皮切りに、祝吉第２遺跡、松原地区遺跡の順で実施されてきており、本書に所収した久玉遺跡の発掘調査もこうした一連の区画整理事業に伴って実施されたものである。なお、これまでに同地区内で実施された埋蔵文化財の発掘調査は、今回の久玉遺跡第８次調査を含めて、のべ16次（32調査地点）に及び、その総調査面積は約5.5ha（施工済面積の約７％）となっている。

今回の調査は、区画整理事業を所管する都城市都市開発課と協議を行い、平成７・８年度の事業予定区域（約３ha）の中で、切土造成を行う宅地換地部分（第８次調査・B地区）と、宅地部分を含む市道新設並びに拡幅部分（第７次・A～C地区、第８次・A地区）を対象に発掘を実施することとした。調査期間は、第７次調査が平成７年４月10日～７月27日、第８次調査が平成８年４月５日～平成８年８月19日である。なお、各年次ごとの総調査面積は、第７次調査が1,058㎡、第８次調査が1,238㎡である。



※枠線内は分布調査に基づく包蔵地の範囲を示す。

第１図　久玉遺跡の位置及び周辺遺跡分布図〔S＝1/25,000〕

Ⅱ．遺跡の位置と環境

久玉遺跡（市内遺跡番号：4006, **第１図の１**）は、都城市郡元町字久玉に所在する。当遺跡を含む郡元・祝吉地区は、都城盆地東部の鰐塚山系の裾野から盆地底中央を北流する大淀川に向かって広がる一万城扇状地の北縁部に位置している。地区内で最も遺跡密度が高い扇状地端部周辺は、大淀川の支流・沖水川によって浸食されており、周囲の低位水田面（沖水川の旧氾濫原面）と比高差約10mを計り、標高約150m前後の河岸段丘状の地形を呈している。

当遺跡の立地している段丘端部一帯では、中・近世の集落跡である松原地区遺跡（市内遺跡番号：4005）や樺山・郡元地区遺跡（**第１図の８**）、弥生後期～古墳初頭・中世の遺跡である祝吉第1遺跡（**第１図の２**）、祝吉第２遺跡（**第１図の３**）などの調査が実施されており、これらに連なるように古墳時代～近世の遺物散布地である永増遺跡（市内遺跡番号：4002）や白拍子遺跡（市内遺跡番号：4007）、村ノ前遺跡（市内遺跡番号：4008）などが帯状に広がりながら立地している。地形的にみると各遺跡の間は谷地形などによって隔絶されているが、本来は関連性の高い一連の遺跡であったと考えられ、段丘端部一帯にかなり大規模な集落跡が広がっていたと推測される。一方、一万城扇状地の内陸域は、中世集落の一部が検出された天神原遺跡（**第１図の７**）や弥生後期～古墳初頭・中世の遺跡である牟田ノ上遺跡（**第１図の４**）、弥生中～後期・中世の池ノ友第1遺跡（**第１図の５**）などが点在する早水池周辺と、弥生後期後半～終末期の年見川遺跡（**第１図の11**）や弥生後期前半頃の向原第１遺跡（**第１図の９**）、弥生後期～古墳初頭頃の向原第２遺跡（**第１図の10**）などが調査されている大淀川支流の年見川流域一帯の２ヶ所に、古代以前の遺跡が集中する傾向が認められる。こうした扇状地内陸域の湧水池や小河川の周辺に営まれていた弥生～古墳時代の集落と、段丘縁辺部一帯の中・近世遺跡の繋がりも含めて、この地域一帯は盆地底の扇状地面における集落形成の在り方を考える上で、きわめて重要な地域であると考えられている。

Ⅲ．調査の概要

１．基本層序［第３図］

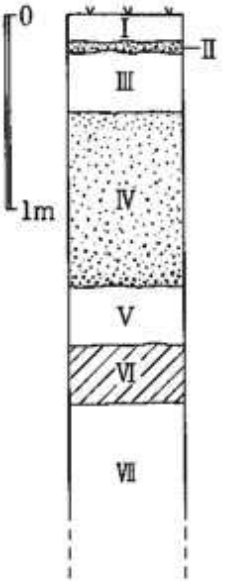
当遺跡の基本層序は、第Ⅰ層：灰オリーブ色砂質シルト層（表土及び現耕作土層）、第Ⅱ層：白色軽石層（文明年間に噴出したとされる桜島起源の軽石層。「文明降下軽石層」）、第Ⅲ層：御池降下軽石を含む黒色粘質シルト層、第Ⅳ層：黄橙色軽石層（約4,200年前に噴出したとされる霧島山系・御池火口起源の軽石層。「御池降下軽石層」）、第Ⅴ層：漆黒色粘質シルト層、第Ⅵ層：アカホヤ火山灰層（Ah）、第Ⅶ層：明黒褐色シルト層…と続くが、第Ⅲ層と第Ⅳ層については、軽石の含有状態等により、第Ⅲa層：御池降下軽石をごくわずかに含む黒色粘質シルト層、第Ⅲb層：御池降下軽石をまばらに含む黒色粘質シルト層、第Ⅳa層：御池降下軽石を多量に含み、堅くしまった黒褐色粘質シルト層（第Ⅳb層の漸移層）、第Ⅳb層：黄橙色軽石

※アミかけ部分が、第7・8次調査区域を示す。

第2図　久玉遺跡（第1～8次調査）調査区域図

層に細分することができる。

このうち、中～近世期の遺物包含層となるのは、第Ⅰ層・第Ⅲa層・第Ⅲb層で、遺構検出面は御池軽石の混入量が多くなる第Ⅲb層下面から第Ⅳa層、もしくは第Ⅳb層上面である。



第３図　久玉遺跡基本土層柱状図

２．調査区の設定と概要

調査は、各調査地点を公共座標軸系のＳ・Ｎ座標線に一致した同一軸上にのせ、それぞれを10m×10mのメッシュでグリッドを区割する方法を用いて行った。なお、各調査地点のグリッド番号については、調査の便宜上、調査区ごとに東西方向をアルファベット、南北方向を算用数字の組み合わせで表記することにしている。今回の調査は、沖水川に面した河岸段丘の端部から約100～200mほど内陸に入った５地点を対象に実施しており、このうちの２地点（第７次調査・A地区、第８次調査・B地区）は、第３～６次調査の各調査区に隣接している。なお、今回の各調査区については、第７次、第８次調査ともに、調査を実施した順に第７次調査A～C地区（略記号：KU7A～7C区）、第８次調査Ａ・Ｂ地区（略記号：KU8A・8B区）と呼称している。

調査の結果、KU7A区では、道路跡や石組を伴う溝状遺構、掘立柱建物跡などが、KU7B・7Cの各区では、東西方向に延びる中世の溝状遺構や掘立柱建物跡が検出されている。また、KU8A区では、KU7B・7C区で検出した中世の溝状遺構と連結する溝や、これに伴う道路状遺構、縄文時代の遺構の可能性がある土坑群など、KU8B区では、近世～近代の硬化面を伴う大溝や石組列などが確認された。

遺物については、遺構と同様に近世の遺物が主勢を占めており、これに中世の遺物がわずかに加わる程度である。また、ほぼすべての遺構で共伴遺物を確認しているが、相対的にみて第７次・第８次調査ともに過去の調査事例に比べて遺物の総出土量は少なく、近世から近代にかけての時期の国産陶磁器類が多量に出土したKU7A区のSD-3のみが他に突出しているという状況であった。

以下、各調査区ごとに出土遺構・遺物の概要について触れ、久玉遺跡全体の中での今回の資料の位置付けについては、Ⅴ．小結で一括して行った。

Ⅳ．調査の記録

1．第７次調査

1）A地区（KU7A区）の概要　［第６図～第20図，表１～３，図版１～３］

KU7A区は第５次調査・Ａ地区の南側、第６次調査・D地区の西側に隣接する地点で、今回の調査でも第６次調査・Ｄ地区で検出された遺構と関連する溝状遺構等が確認されている。調査は、道路新設工事の影響を受ける範囲約659㎡を対象に、平成７年４月10日から同年６月14日にかけて実施した。当区の現状は宅地及び畑地で、建物の基礎などによる攪乱が一部で認められたものの、遺構検出面となる御池降下軽石層の残存状態は概ね良好であった。ただし、当区南側では、第Ⅰ層下部から第Ⅲa層の上部にかけて天地返しを行った後に盛土が施されていたため、文明降下軽石層（第Ⅱ層）の堆積は確認されていない。今回の調査で検出した遺構は、掘立柱建物跡８棟、溝状遺構４条、道路状遺構４条、石組遺構１基、土坑９基、井戸５基、柱穴約600箇である。これらの年代幅は中世から幕末期まで及ぶが、主体となるのは近世後期で、共伴する遺物もこうした時期の国産陶磁器類を中心に約2,000点ほどが出土している。

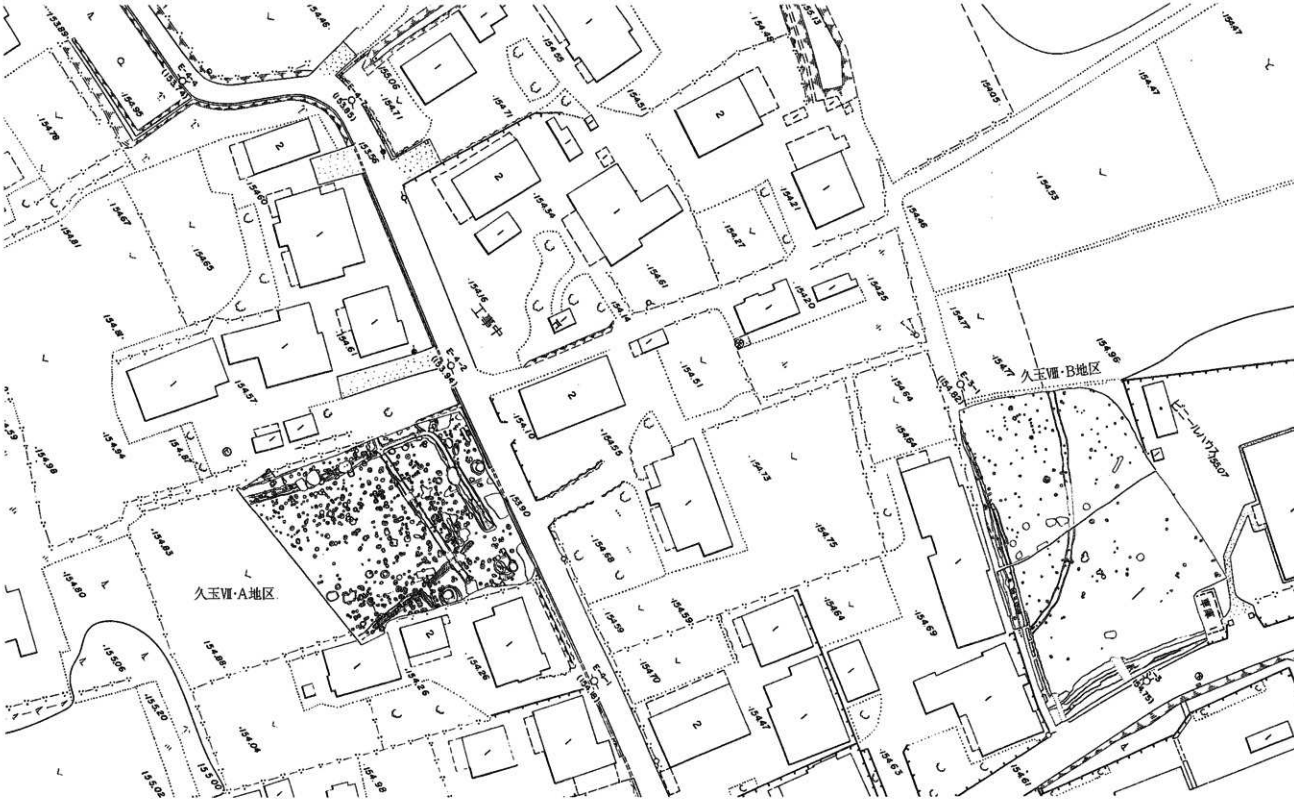
第Ⅲ層を主たる埋土とする遺構としては、SD1・2（１・２号溝）、SF1～3（１～３号道路状遺構）、SC3・4（３・４号土坑）、柱穴群がある。これらの遺構の時期については、共伴遺物が少ないため推測の域を出ないものの、他の遺構及び包含層の出土遺物の傾向からみて、15世紀末～16世紀代を中心に、一部は17世紀代まで下る年代幅を想定している。

調査区東側で確認したSD1は、第６次調査・D地区で検出された溝状遺構（２号溝）と連結して「L」字形を呈しており、区画を意図した溝であると推測される。SD2は第６次調査・D地区の３号溝へと連なり、さらに東側へ延びていたと考えられるが、途中で消失しているため、「L」字形に巡る第６次調査の４・６号溝や、SD2とほぼ直交する１号溝などとともに、方形区画を意識した溝になる可能性も示唆できる。

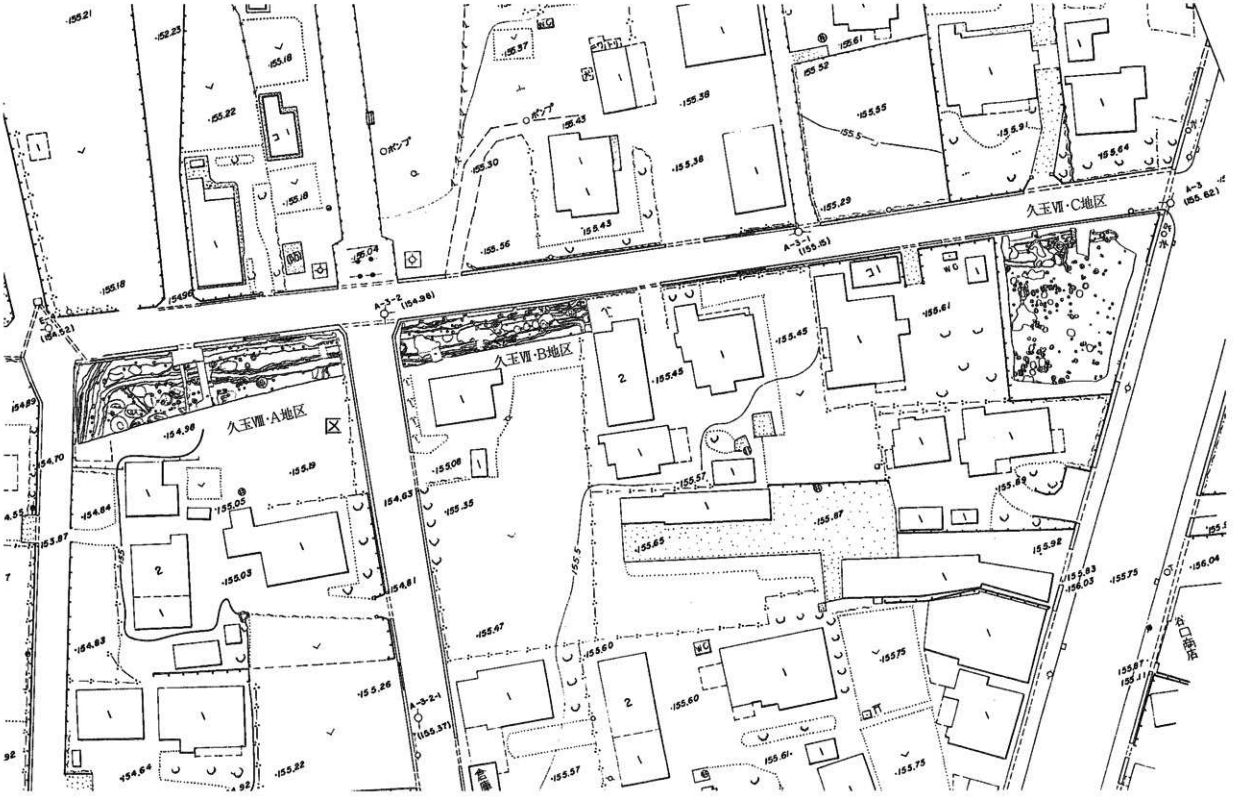
SD1・2の埋没過程で構築され始めるSF1は、当地域で散見される溝を道路として併用する事例（幅員のある溝の床面に、道路として利用した際に形成された硬化面が残っている事例）とは様相が異なり、溝が完全に埋没した後もSD1とほぼ同一軸上に形成され続けていることから、本来溝が果たしてきた境界線としての役割を、その変遷過程において道路状遺構が代替した事象として捉えられるかもしれない。

近世の遺構としては、掘立柱建物跡８棟、溝状遺構２条、道路状遺構１条、石組遺構１基、土坑７基、井戸５基がある。遺物の年代幅が17世紀後半から20世紀前半まで及ぶため、一部の遺構は長期間遺存していたと推測されるが、出土陶磁器が最も卓越して多いのは18世紀末～19世紀代にかけての時期であることから、これらの遺構の中心年代もこの時期に比定している。

調査区南西端から北走し、「L」字形に東折して途切れるSD3は、第６次調査・D地区の８号溝（第５次調査・B地区のSD01と連結）や第４次調査・D地区の５号溝とほぼ平行関係にあり、埋土中に多量の礫や陶磁器類が廃棄されている点も類似していることから、これらと併

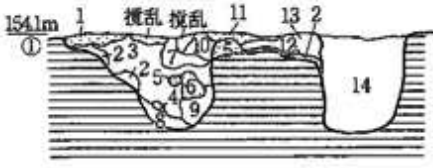


第4図　久玉遺跡（第7・8次調査）遺構分布図①〔S＝1/500〕



第5図　久玉遺跡（第7・8次調査）遺構分布図②〔S＝1/500〕

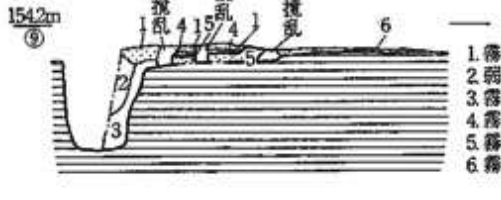
第６図　久玉遺跡（第７次調査）A地区遺構分布図



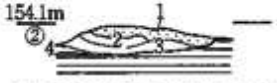
1. 霧島御池軽石をごくわずかに含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
2. 霧島御池軽石を多量に含む黒色シルトブロック
3. 霧島御池軽石をまばらに含む弱粘質黒色シルト層
4. 霧島御池軽石ブロック
5. 黒色粘質シルトブロック（全体的に硬化）
6. 霧島御池軽石をわずかに含み、やや褐色がかかった黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
7. 霧島御池軽石をわずかに含む黒色シルト層
8. 霧島御池軽石をまんべんなく含む黒色粘質シルト層
9. 霧島御池軽石をまんべんなく含む黒色シルト層
10. 霧島御池軽石をまばらに含む黒色シルト層
11. 霧島御池軽石をわずかに含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
12. 霧島御池軽石をまばらに含み、やや褐色がかった黒色シルト層
13. 霧島御池軽石をまんべんなく含む黒褐色シルト層
14. 霧島御池軽石・アカホヤ火山灰・黒色シルトの混土層

1. 霧島御池軽石をわずかに含む黒色シルト層
2. 霧島御池軽石を多量に含む黒色シルト層
3. 霧島御池軽石をごくわずかに含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
4. 霧島御池軽石をわずかに含む弱粘質黒色シルト層（全体的に硬化）
5. 黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
6. 弱粘質黒色シルト層（全体的に硬化）
7. 霧島御池軽石をまんべんなく含む弱粘質黒色シルト層
8. 霧島御池軽石・黒色シルトの混土層

1. 霧島御池軽石を多量に含む弱粘質黒色シルト層
2. 霧島御池軽石をごくわずかに含む黒色シルト層
3. 霧島御池軽石をごくわずかに含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
4. 黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
5. 霧島御池軽石をまんべんなく含む弱粘質黒色シルト層
6. 霧島御池軽石をまばらに含む黒色シルト層
7. 霧島御池軽石を多量に含む黒色シルト層

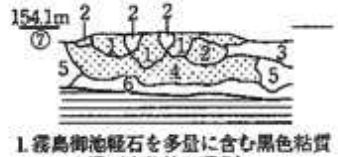


1. 霧島御池軽石をわずかに含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
2. 弱粘質黒色シルト層
3. 霧島御池軽石をわずかに含む黒褐色粘質シルト層
4. 霧島御池軽石をまんべんなく含む黒褐色粘質シルト層（全体的に硬化）
5. 霧島御池軽石の漸移層（部分的に硬化）
6. 霧島御池軽石を多量に含む黒褐色粘質シルト層

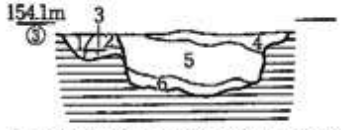


1. 霧島御池軽石をわずかに含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
2. 霧島御池軽石をわずかに含む黒色シルト層
3. 霧島御池軽石を多量に含む黒褐色粘質シルト層
4. 霧島御池軽石の漸移層

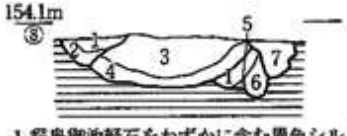
1. 霧島御池軽石を多量に含む黒褐色粘質シルト層
2. 霧島御池軽石をわずかに含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
3. 霧島御池軽石をまんべんなく含む黒褐色粘質シルト層（全体的に硬化・局部的に赤化）
4. 霧島御池軽石をわずかに含む黒色シルト層
5. 霧島御池軽石の漸移層



1. 霧島御池軽石を多量に含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
2. 弱粘質黒色シルトブロック（部分的に硬化）
3. 霧島御池軽石をまんべんなく含む黒色粘質シルト層
4. 黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
5. 霧島御池軽石をごくわずかに含む黒色粘質シルト層
6. 霧島御池軽石を多量に含む弱粘質黒色シルト層



1. 霧島御池軽石をわずかに含む黒色シルト層
2. 霧島御池軽石をまんべんなく含む弱粘質黒褐色シルト層
3. 霧島御池軽石を多量に含む弱粘質黒褐色シルト層
4. 霧島御池軽石をまんべんなく含む黒色粘質シルト層
5. 霧島御池軽石をごくわずかに含む黒色粘質シルト層
6. 霧島御池軽石を多量に含む弱粘質黒色シルト層

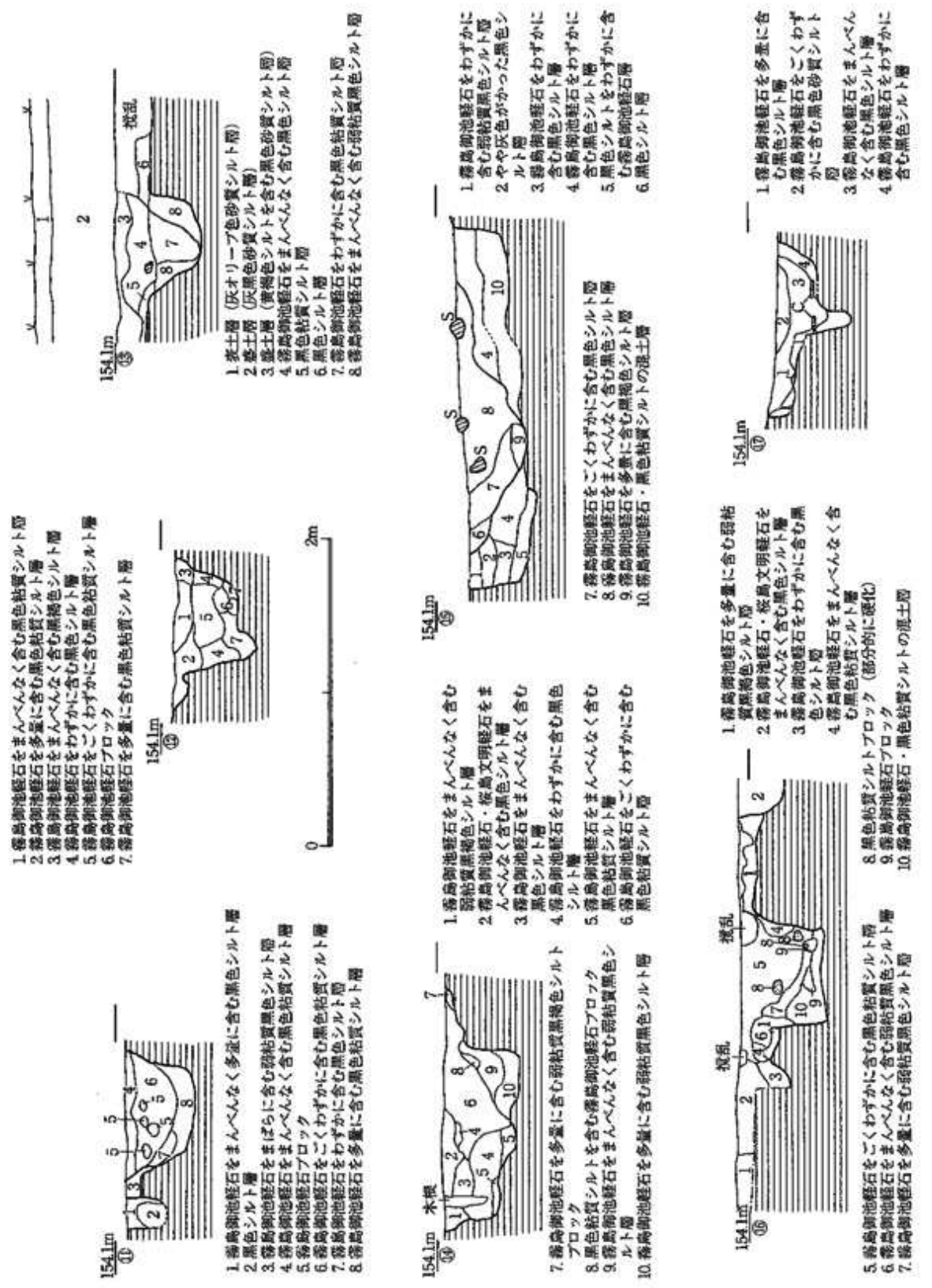


1. 霧島御池軽石をわずかに含む黒色シルト層
2. 霧島御池軽石をまんべんなく含む黒褐色シルト層
3. 霧島御池軽石をごくわずかに含む黒色粘質シルト層
4. 霧島御池軽石を多量に含む黒色粘質シルト層
5. 霧島御池軽石ブロックを含む黒色粘質シルト層
6. 霧島御池軽石をまんべんなく多量に含む黒色シルト層
7. 霧島御池軽石をまばらに含む黒色シルト層
8. 霧島御池軽石をまばらに含む弱粘質黒色シルト層

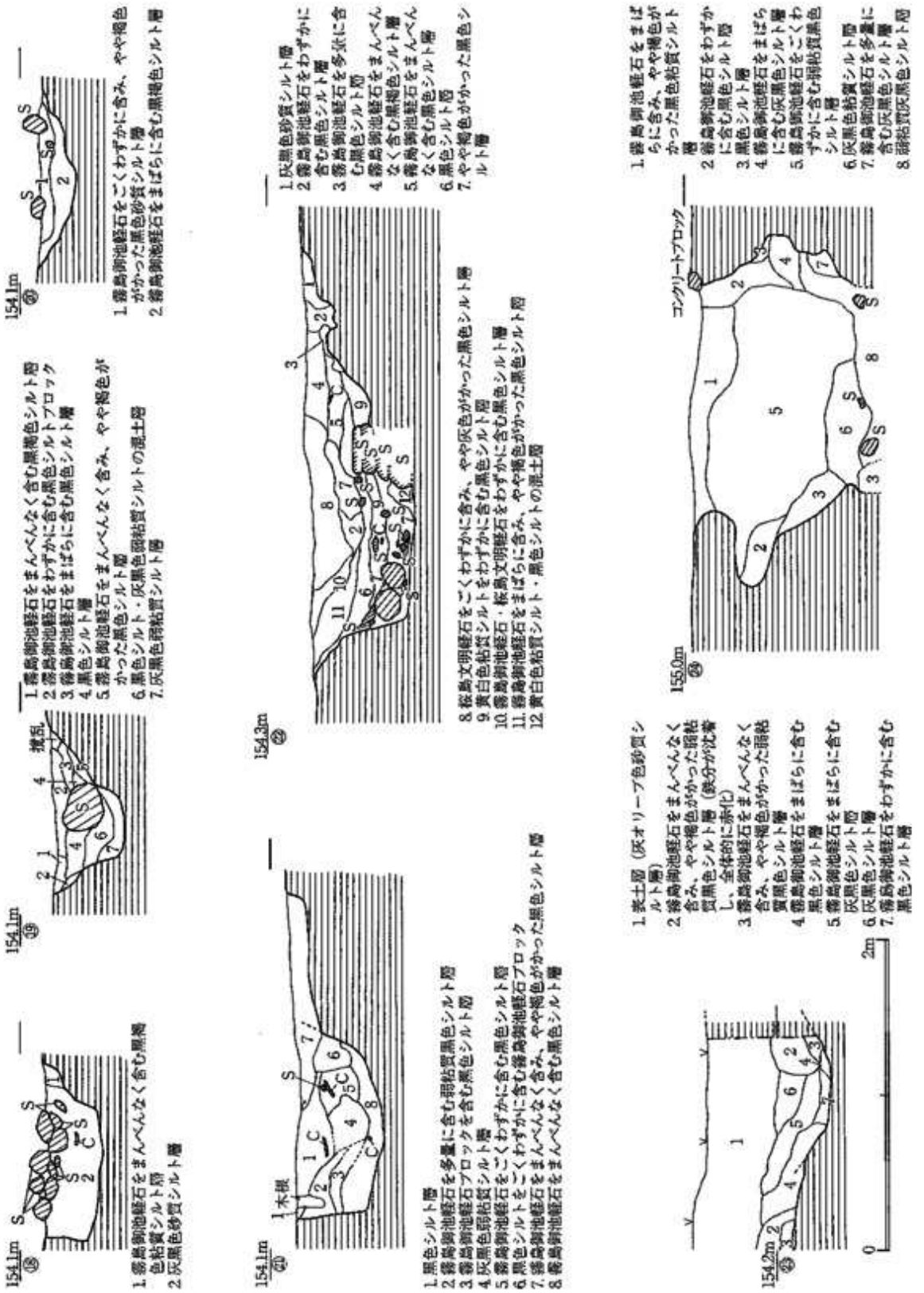
1. 霧島御池軽石をわずかに含む黒色シルト層
2. 霧島御池軽石をまんべんなく含む黒色粘質シルト層
3. 霧島御池軽石を多量に含む弱粘質黒色シルト層
4. 霧島御池軽石をごくわずかに含む黒色粘質シルト層

※アミかけ部分は、硬化体の範囲を示す。

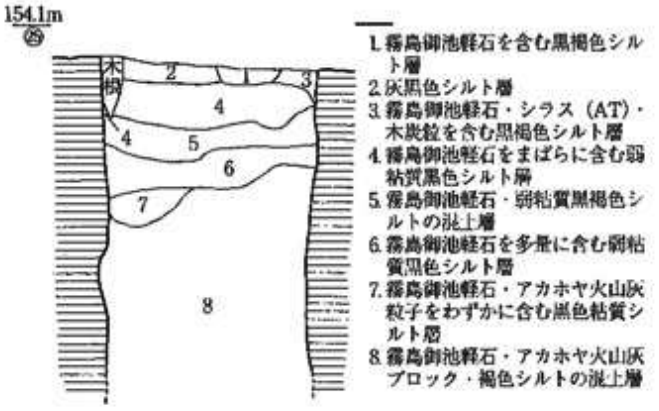
第7図　久玉遺跡（第7次調査）A地区・西半部土層断面図①

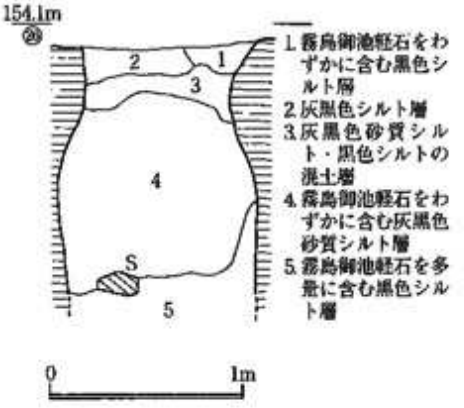


第８図　久玉遺跡（第７次調査）A地区土層断面図②

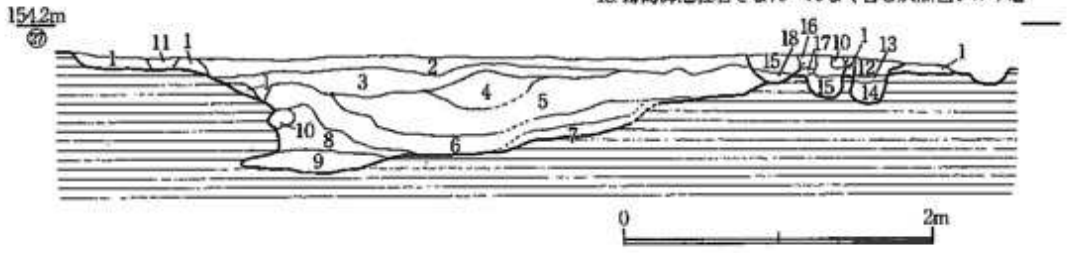


第９図　久玉遺跡（第７次調査）A地区土層断面図③

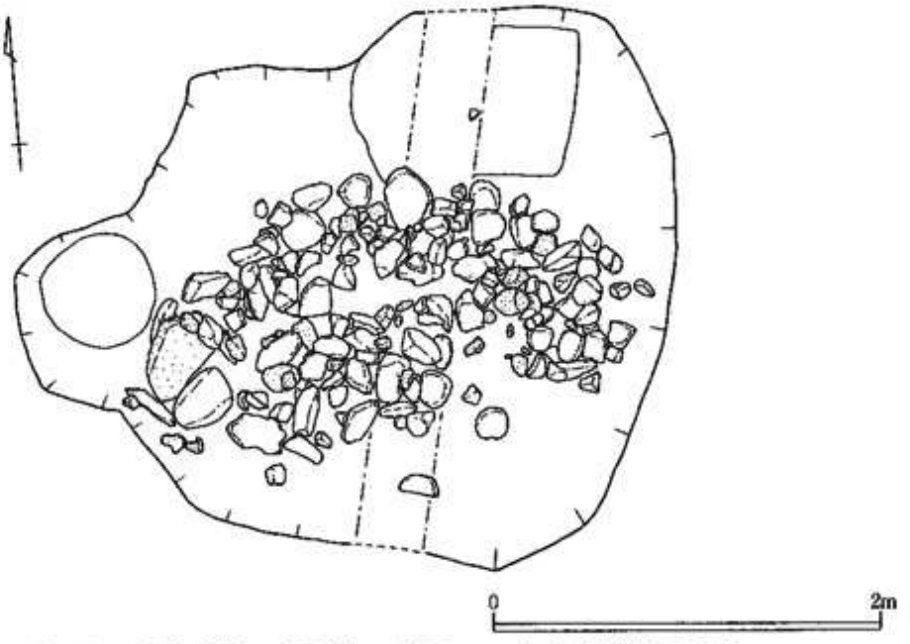




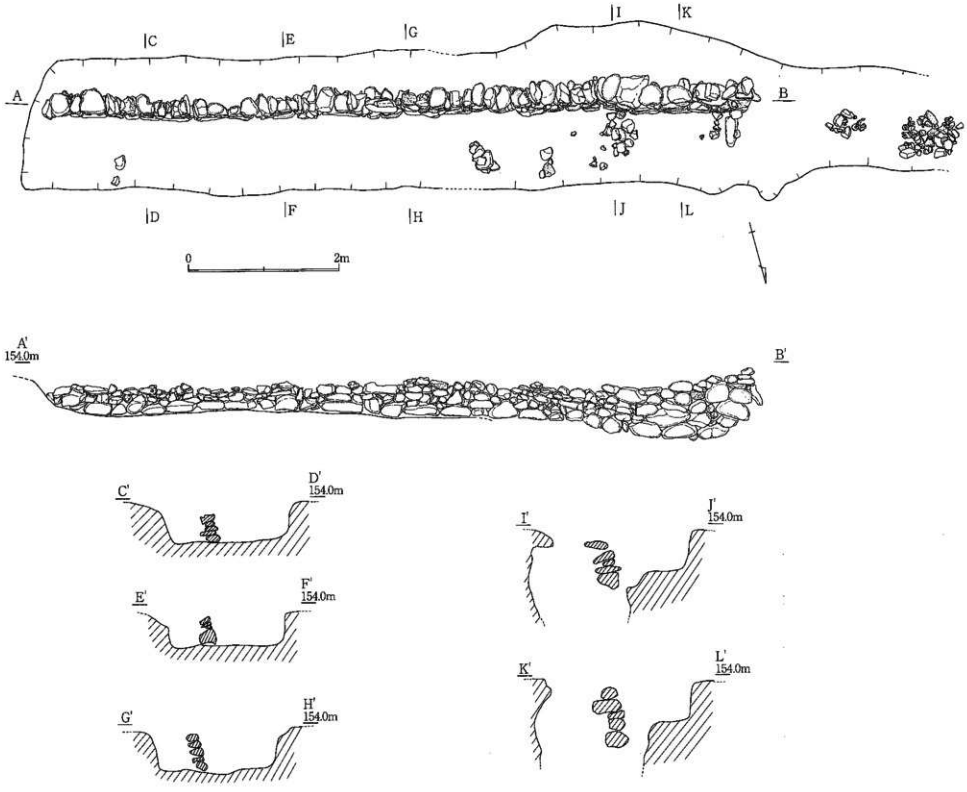
1. 霧島御池軽石をまんべんなく含み、やや褐色がかった黒色シルト層
2. 霧島御池軽石をわずかに含み、やや褐色がかった黒色シルト層
3. 黄褐色シルトを含み、やや灰色がかった黒色砂質シルト層
4. 霧島御池軽石をごくわずかに含む黒色粘質シルト層
5. 霧島御池軽石をまんべんなく含む黒色シルト層
6. 灰白色シルトを含む弱粘質黒色シルト層
7. 弱粘質黒褐色シルト層
8. 黒色シルト層
9. 霧島御池軽石をまんべんなく含む黒褐色シルト層
10. 霧島御池軽石を多量に含む黒色シルトブロック
11. 霧島御池軽石をまんべんなく含み、やや灰色がかった黒色シルト層
12. 霧島御池軽石を多量に含み、やや褐色がかった黒色シルト層
13. 霧島御池軽石をごくわずかに含み、やや灰色がかった弱粘質黒色シルト層
14. 弱粘質灰黒色シルト層
15. 霧島御池軽石・黒色シルトの混土層
16. 黒褐色シルト層
17. 霧島御池軽石・灰白色シルトブロックを含む黒褐色シルトブロック
18. 霧島御池軽石をまんべんなく含む灰黒色シルト層



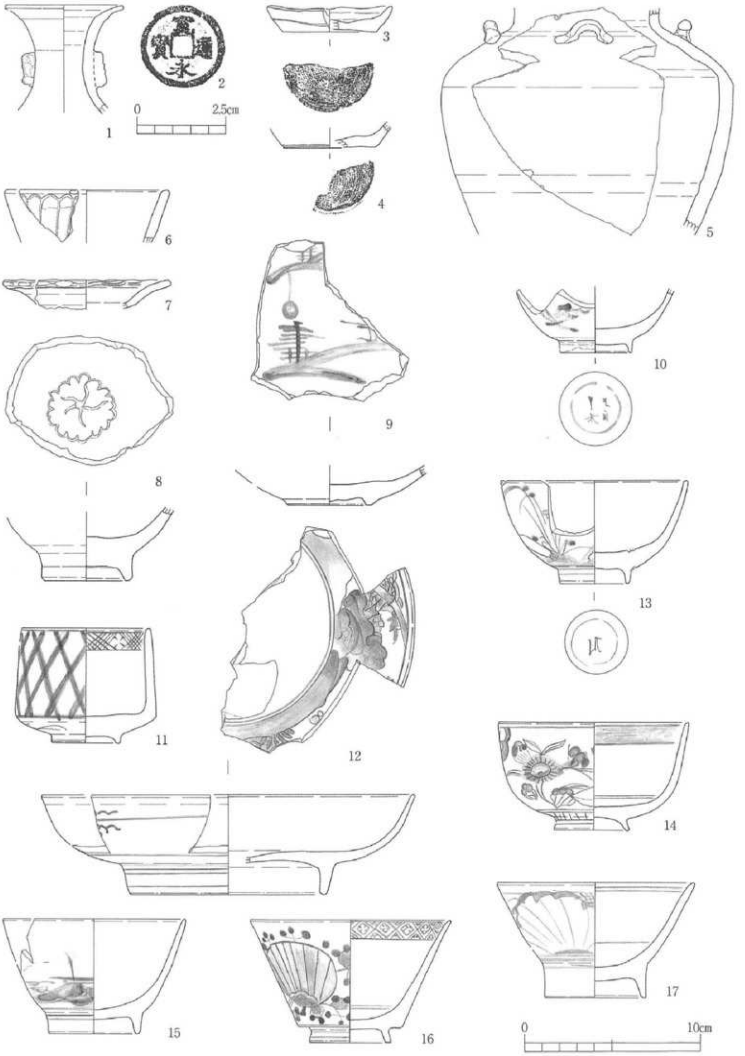
第10図　久玉遺跡（第７次調査）A地区土層断面図④



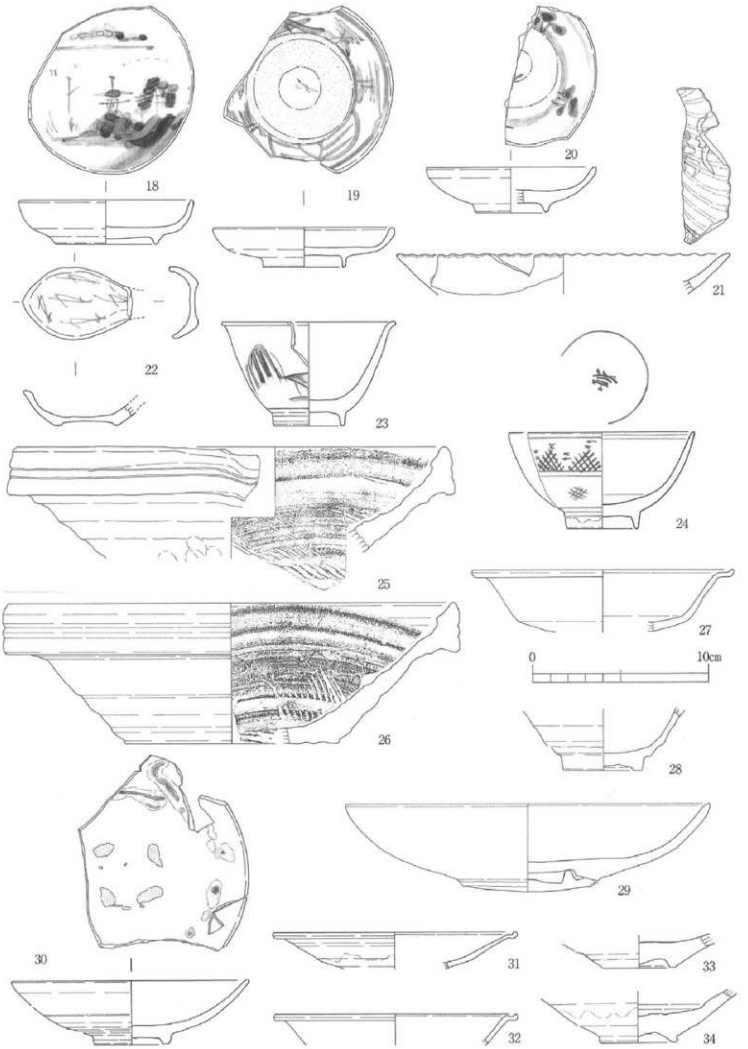
第11図　久玉遺跡（第７次調査）A地区SC-5内廃棄礫群平面図



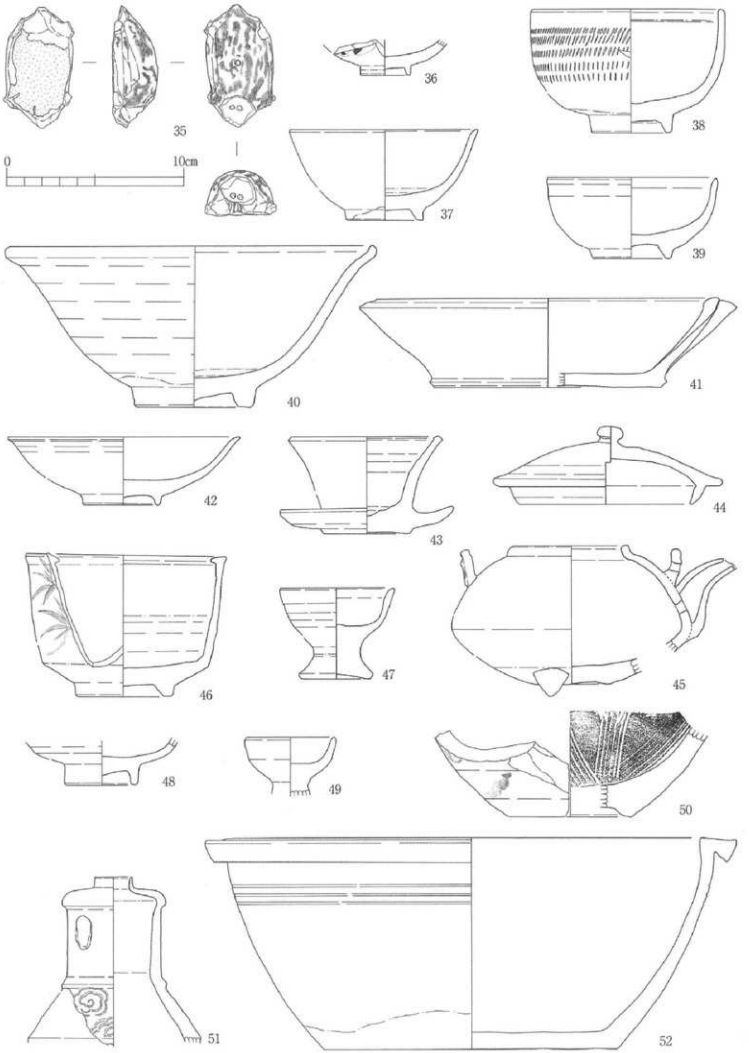
第12図　久玉遺跡（第７次調査）A地区SS-1平面・断面図



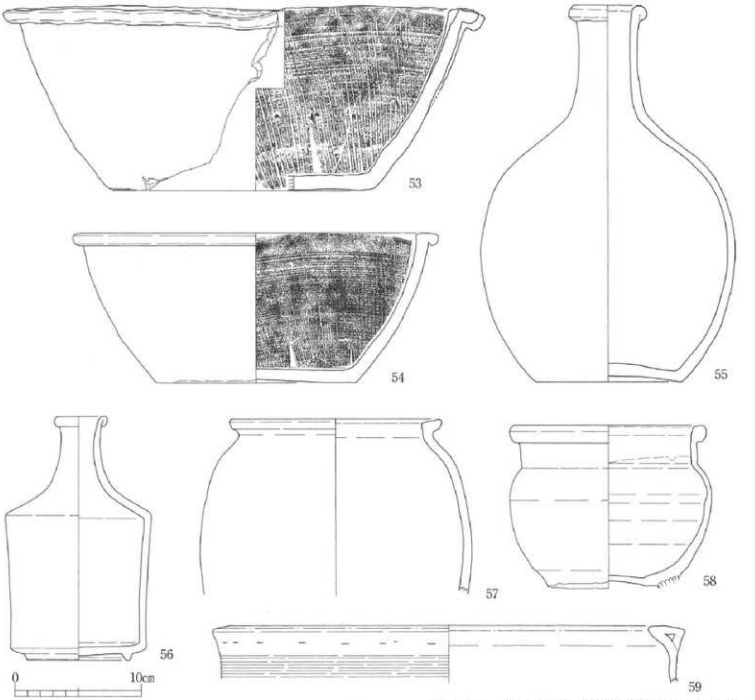
第13図　久玉遺跡（第７次調査）A地区出土遺物実測図①



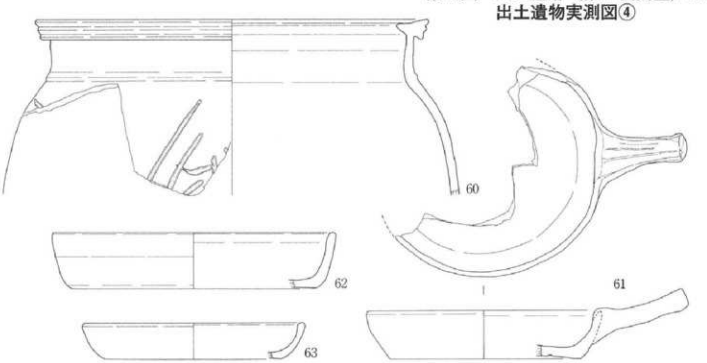
第14図　久玉遺跡（第７次調査）A地区出土遺物実測図②

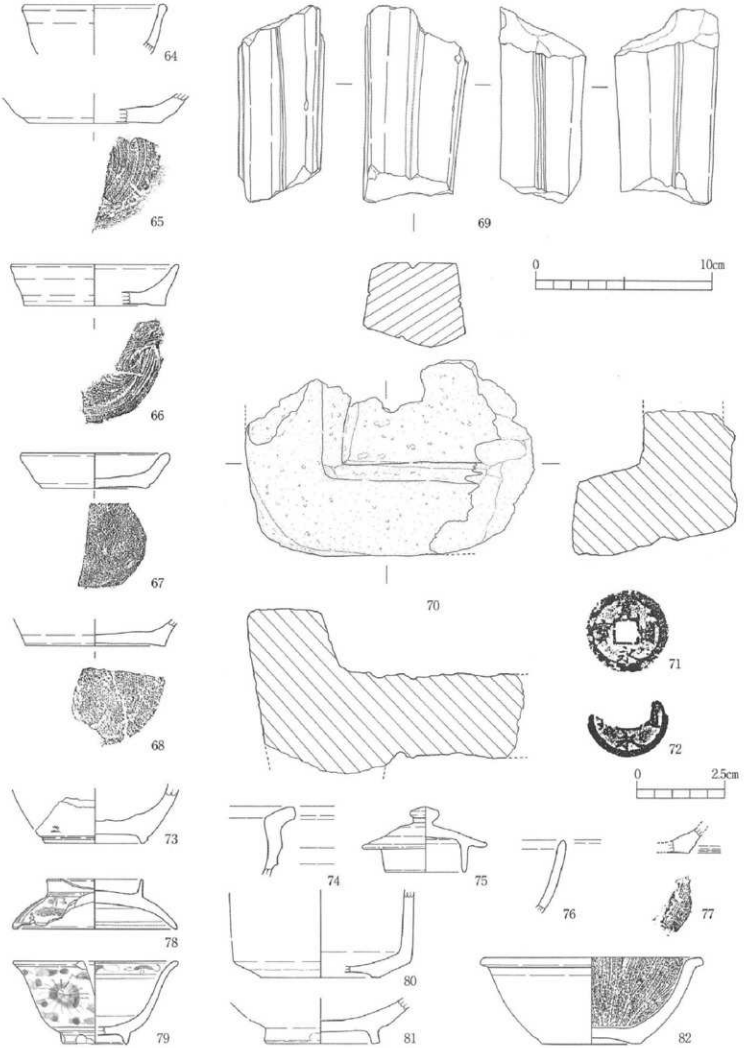


第15図　久玉遺跡（第７次調査）A地区出土遺物実測図③

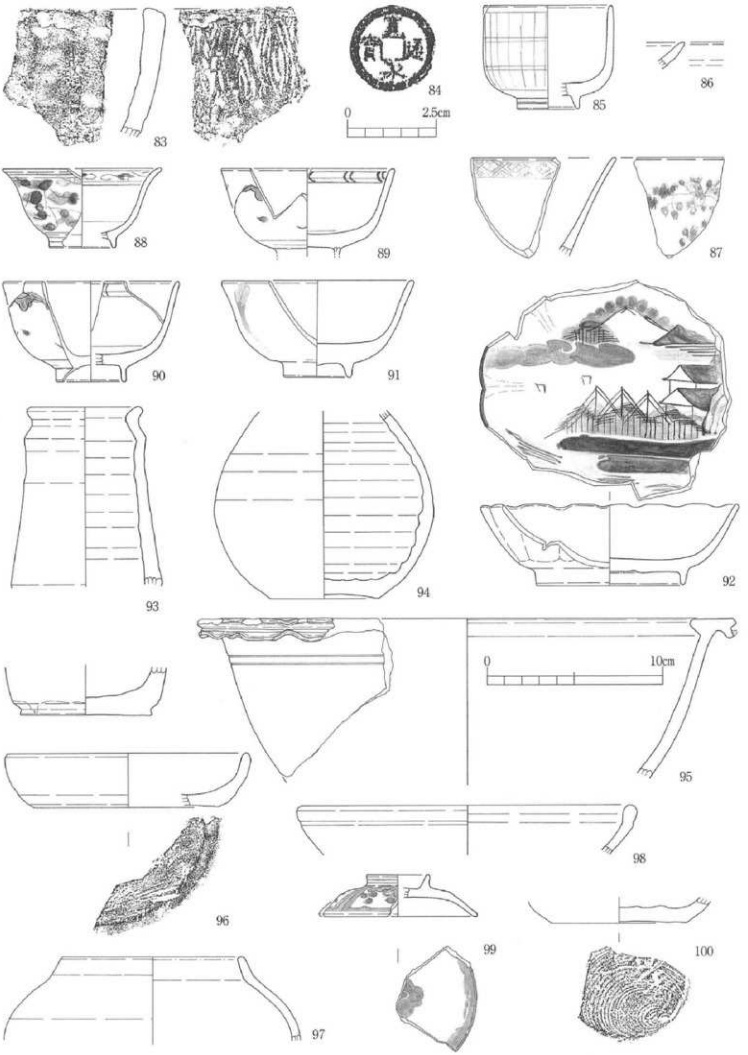


第16図　久玉遺跡（第７次調査）A地区
出土遺物実測図④

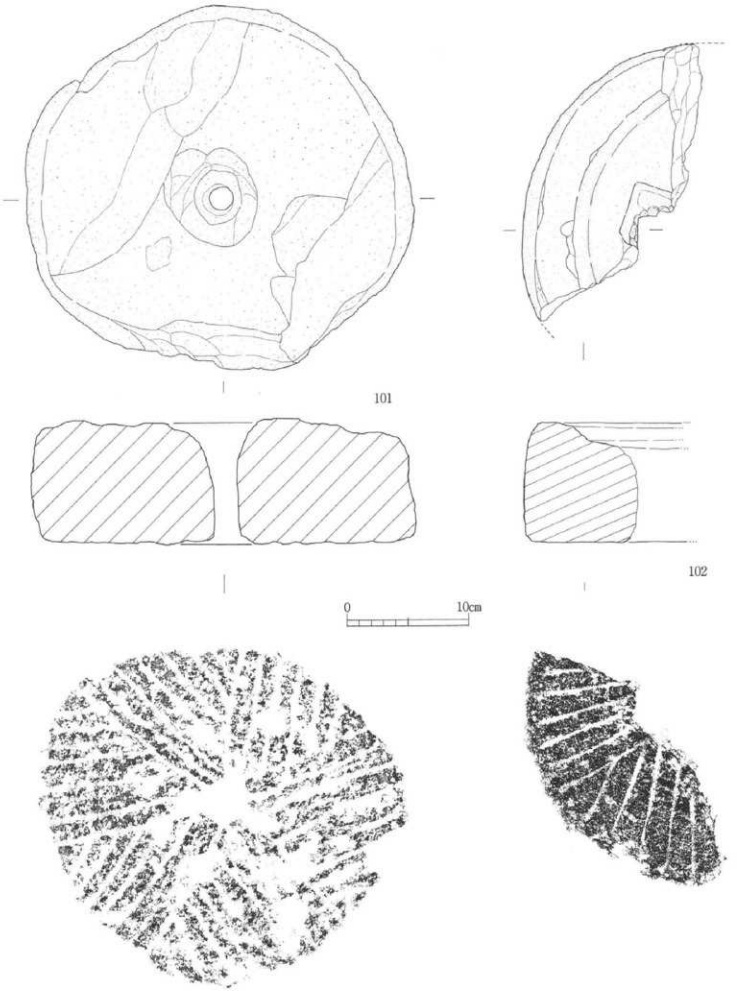




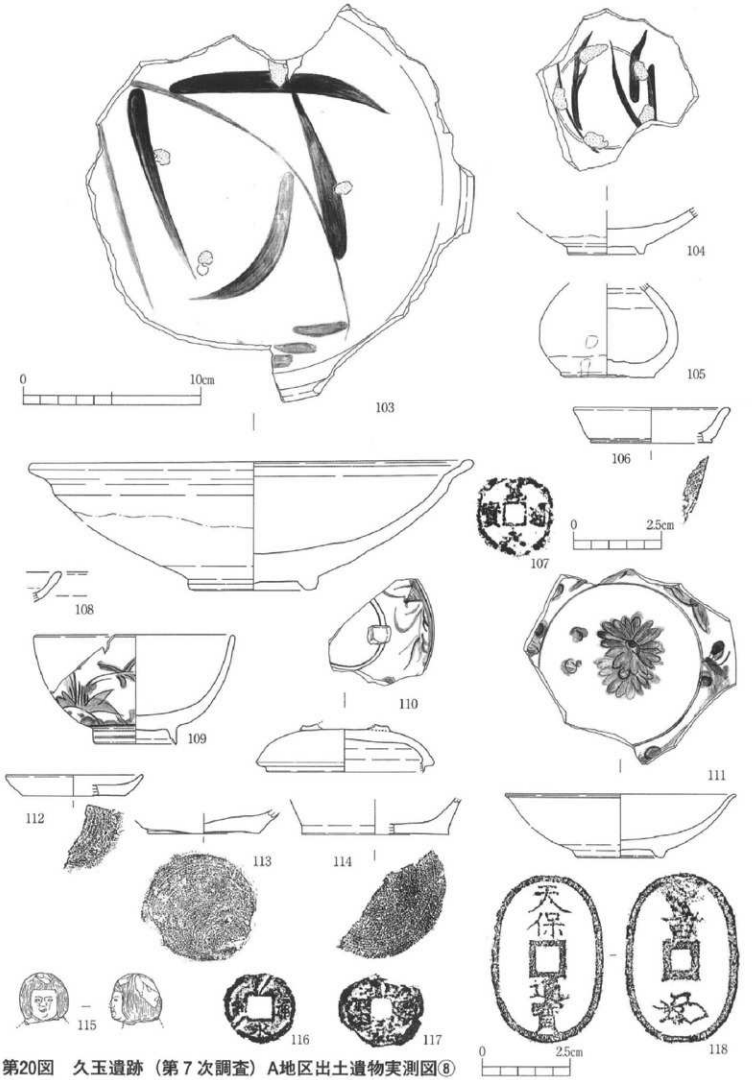
第17図　久玉遺跡（第７次調査）A地区出土遺物実測図⑤



第18図　久玉遺跡（第７次調査）A地区出土遺物実測図⑥



第19図　久玉遺跡（第７次調査）A地区出土遺物実測図⑦



第20図　久玉遺跡（第７次調査）A地区出土遺物実測図⑧

遺物番号	出土地区	遺構	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	特徴備考
1	C-2	SD1	上層	陶器	仏花瓶	6.6	−	−	頸部:貼付二耳 磁器的貼土 薩摩系 19C代?
2	〃	〃	〃	銭貨	寛永通寶	2.3	−	−	「ス」「貝寶」「コ」通頭 古寛永 17C代
3	B-3	SD2	中層	土師器	小皿	7.0	5.3	1.5	底部:糸切り 体部:ヘラ状工具痕
4	〃	〃	〃	〃	〃	−	5.2	−	底部:糸切り 体部下端:工具痕
5	一括	〃	一括	陶器	壺(茶壺)	−	−	−	肩部:貼付耳 信楽焼 17C代
6	〃	SD3	〃	青磁	碗	9.1	−	−	体部:剣先連弁文 龍泉窯系 15C末〜16C前半
7	〃	〃	〃	〃	輪花皿	9.4	−	−	口縁内面:流水文状除刷 龍泉窯系 15C末〜16C前半
8	C-3	〃	中層	〃	碗	−	4.6	−	体部:剣先連弁文? 見込:印花 龍泉窯系 15C末〜16C前半
9	B-3	〃	〃	青花	皿	−	4.5	−	巻物底 見込:「山水文」 福建・広東系 16C代
10	〃	〃	〃	染付	碗	−	4.0	−	畳付:無釉 高台内銘:「太明[illegible]」 二次被熱 肥前系 18C前半
11	〃	〃	〃	〃	筒形碗	7.3	3.9	6.5	畳付:無釉・砂目積痕 内面:「四方樽文」「コンニャク印判五弁花文」 外面:「斜格子文」「折松葉文」 肥前系 18C後半〜19C初頭
12	一括	〃	一括	〃	皿	21.0	11.2	5.7	内面:「岩に松文」 外面:「唐草文」 肥前系 18C前半?
13	A-2	〃	上層	〃	碗	10.6	3.9	5.8	高台内銘:「玩」? 外面:「草花文」肥前系(波佐見) 18C末〜19C前半
14	A-1	〃	上層・中層	〃	丸碗	11.0	4.3	6.1	蓋付碗? 畳付:無釉 高台:ぱち形 内面:白抜き「唐草文」「手描五弁花文」 外面:「区画花文」 肥前系 18C後半〜19C初頭
15	C-3	〃・SC7	中層	〃	碗	10.3	5.2	6.5	広東碗風 畳付:無釉 外面:「山水文」? 南九州系? 19C代?
16	B-3	〃	〃	〃	朝顔形碗	11.4	4.6	6.9	朝顔形蓋付碗 畳付:無釉・目積痕 内面:「四方樽文」「手描五弁花文」外面:「草花文」「団扇文」 肥前系 18C後半〜19C初頭
17	A-2	〃	上層	〃	広東碗	11.4	6.5	5.8	畳付:無釉 内面:「岩に波文」? 外面:「菊花文(半菊文)」 肥前系 18C末〜19C初頭
18	A-1	〃	〃	〃	皿	10.0	5.8	2.5	畳付:無釉 内面:「海浜風景文」? 南九州系? 19C代?
19	A-2	〃	〃	〃	〃	10.4	4.6	2.2	畳付:無釉 見込:蛇ノ目釉剥ぎ 内面:「岩に波文」 南九州系? 19C末?
20	C-3	〃	中層	〃	〃	9.6	4.0	2.6	畳付:無釉 見込:蛇ノ目釉剥ぎ 内面:「岩に波文」 南九州系? 19C末?
21	B-3	〃	〃	青磁色絵	輪花皿	19.2	−	−	口唇部:金金 内面:赤絵の「鳥文」 肥前系(有田) 18C代
22	A-2	〃	〃	染付	レンゲ	−	3.95	2.0	内面:「折松葉文」 肥前系 19C代
23	C-3	〃	上層	〃	端反碗	10.0	4.0	5.9	畳付:無釉・砂目積痕 外面:「山水文」? 薩摩系? 19C前半?
24	B-3	〃	〃	〃	碗	10.6	4.0	5.45	畳付:無釉 内面:「昆虫文」 薩摩系? 18C末〜19C前半?
25	C-3	〃	下層	陶器	擂鉢(片口)	25.0	−	−	外面:指頭痕 内面:1単位8条の斜方向櫛目 備前焼 15C末〜16C前半
26	B-3	〃	中・下層	〃	擂鉢	25.5	12.0	8.0	内面:1単位7条の縦・横方向櫛目(縦→横) 備前焼 15C末〜16C前半
27	〃	〃	上層	〃	溝縁皿	14.8	−	−	見込・外面体部下位:砂目積痕 京焼風 美濃系? 18C後半?
28	B-3・C-3	〃	上・中層	〃	天目碗	−	4.4	−	外面体部下半:無釉 瀬戸・美濃系 17C前半
29	A-1	〃	上層	〃	皿	20.8	8.0	4.4	内面:巻刷毛目・波状の打刷毛目 外面:打刷毛目 底部:別個体溶着(不良品を窯道具としての転用?) 肥前系(現川) 18C前半
30	一括	〃	一括	〃	〃	13.3	4.8	3.7	高台:無釉 見込:砂目積痕4ヶ所 内面:銅緑釉、外面体部下端:一部が釉ダレ状 肥前系(内野山) 17C末〜18C前半
31	B-3	〃	上層	〃	溝縁皿	13.8	−	−	体部上半:無釉 体部下位:砂目積痕 肥前系? 17C前半?
32	〃	〃	〃	〃	〃	13.8	−	−	外面体部下位:砂目積痕 美濃系? 18C後半?
33	C-3	〃	中層	〃	皿	−	4.0	−	底部:巻筒底状 高台内:兜巾状 体部下半:無釉 唐津焼 17C前半
34	B-3	〃	下層	〃	溝縁皿	−	4.2	−	体部下端以下:無釉 高台内:兜巾 見込・畳付:砂目積痕 唐津焼 17C前半
35	C-3	〃	上層	〃	水滴、つまみ	6.95	3.75	2.55	亀の意匠 八代系? 17C〜18C代?
36	〃	〃	中層	〃	碗	−	3.0	−	外面:赤・緑色の上絵 京焼風 高台壁厚 薩摩系 19C代
37	A-1・B-3	〃	下層	〃	〃	10.7	4.8	5.15	高台部:無釉 見込:蛇ノ目釉剥ぎ 薩摩系 19C代
38	C-3	〃	上層	〃	〃	11.1	4.6	7.0	口唇部・高台部無釉 内外面:白化粧土 外面:トビガンナ5段、見込:パミス状目積痕5ヶ所 薩摩系 17C末〜18C代
39	〃	〃	〃	〃	〃	9.8	4.4	4.6	内外面:白化粧土 見込:パミス状目積痕5ヶ所 高台部:無釉 高台内:兜巾状 薩摩系(元立院?) 18C初頭?
40	A-1 A-3	〃	〃	〃	鉢	20.7	6.4	9.0	内面:白化粧土 見込:蛇ノ目釉剥ぎ 内面:トビガンナ7段 高台部:無釉 高台内:兜巾状 薩摩系(龍門司系?) 18C末〜?
41	C-3	〃	中層	〃	〃	19.2	12.4	5.0	底部:無釉 焼き歪みで体部変形 薩摩系(龍門司系?) 19C代?
42	〃	〃	下層	〃	端反皿	13.2	4.3	3.85	畳付:無釉 見込:蛇ノ目釉剥ぎ 内面〜外面体部下端:白化粧土 高台内:兜巾状 南九州系? 19C代?
43	A-1	〃	上層	〃	灯明皿、燭台	8.7	4.9	5.5	口縁部・受皿部以下:無釉 底部:糸切り 薩摩系 19C代?
44	C-3	〃	〃	〃	土瓶(蓋)	9.8	13.1	4.4	底部以下:無釉 薩摩系 19C代?

表1　久玉遺跡第7次調査A地区出土遺物観察表①

遺物番号	出土地区	遺構	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	特徴 備考
45	A-1・A-3	SD3	上～下層	陶器	土瓶	6.7	4.4	7.8	外面体部下位～底部・脚部:無釉 底部:スス付着 薩摩系 19C代?
46	C-3	〃	中層	〃	火入	11.6	5.6	8.1	内外面(体部上半):白化粧土 外面:「笹文」(白化粧土の上に鉄絵) 薩摩系 18C末～19C代?
47	A-2	〃	上層	〃	仏飯器	6.4	4.0	5.15	坏部:白化粧土 脚部以下:無釉 底部:糸切り 薩摩系 19C代?
48	B-3	〃	上・下層	〃	碗	－	4.0	－	畳付:無釉 畳付・見込:砂目積痕 貫入多い 薩摩系?
49	C-3	〃	中層	〃	仏飯器	5.2	－	－	全面に白化粧土 薩摩系 19C代?
50	〃	〃	〃	〃	擂鉢	－	7.0	－	内面:1単位6条の櫛目 畳付:無釉 唐津系?
51	A-1	〃	上層	〃	水注?	2.0	－	－	頸部:把手剥離痕 内面:無釉 胴部:「雲木文」陽刻 美濃系?
52	A-2,B-2・3,C-3	〃・SC6・SC5	上層～床面	〃	鉢	30.4	16.8	12.0	口縁:断面「逆L字」で端部垂れ気味 口唇部・外面体部下位～底部:無釉 外面体部上位:5条の櫛目 薩摩系 18C末～19C代
53	B-3・C-3	SD3	上層～下層	〃	擂鉢	32.6	17.8	12.65	口唇内側:指頭痕 口唇部・底部:無釉 内面:1単位6条の櫛目 口縁:断面「逆L字」で端部垂れ気味 薩摩系 18C末～19C代
54	A-2	〃	〃	〃	〃	29.2	16.0	11.95	口唇部・底部:無釉 口唇部:目積痕 内面:1単位7条の櫛目 口縁:断面「逆L字」で端部垂れ気味 薩摩系 18C末～19C代
55	一括	〃	一括	〃	瓶	5.2	9.8	25.0	底部:無釉 焼成不良 薩摩系 19C代
56	C-3	〃	下層	〃	〃	4.2	8.2	19.4	畳付・高台内:無釉 コンブラ瓶か? 薩摩系? 19C後半～
57	一括	〃	上層	〃	壺	17.0	－	－	口縁:無釉・胎土目積痕 薩摩系
58	C-3	〃	〃	〃	〃	15.0	－	－	口唇部・高台内:無釉 徳利か? 薩摩系 18C末～19C代
59	〃	〃	中層	〃	甕	39.8	－	－	口唇部:無釉・貫目積痕 口縁:三角形に折返し 薩摩系
60	A-1・A-2	〃	上層・床面	〃	〃	31.3	－	－	口唇部:無釉 外面:ワラ灰釉による銹化・掻き落し 薩摩系(苗代川系) 18C代
61	C-3	〃	中層	土師器	焙烙	19.0	15.3	3.8	底部:ヘラ切り後に工具ナデ・スス付着
62	一括	〃	一括	〃	〃	22.2	19.2	4.5	底部:切り離し不明瞭
63	C-3	〃	中層	〃	〃	17.3	13.8	3.2	体部上位～口唇部:スス付着
64	一括	〃	一括	〃	坏?	7.8	－	－	焙烙か?
65	C-3	〃	上層	〃	〃	－	7.6	－	底部:糸切り 内面見込:スス付着
66	一括	〃	一括	〃	皿	9.6	4.1	2.3	底部:糸切り 内面:スス付着(灯明皿か?)
67	A-1	〃	上層	〃	〃	8.2	6.0	2.0	底部:糸切り後にナデ 体部下端:段を有す
68	一括	〃	一括	〃	〃	－	8.0	－	底部:糸切り 内面:黒変(灯明皿か?)
69	B-3	〃	下層	石製品	砥石	－	－	－	4面に使用痕・断面「V字」の擦痕 硬質砂石製
70	一括	〃	一括	軽石製品		－	－	－	方形の鉢状に掘り 底部:脚部削り出し 一部火熱により黒変
71	A-2	〃	下層	銭貨	寛永通寶	2.25	－	－	「ス」貫寶 古寛永 17C代
72	A-1	〃	中層	〃	〃	－	－	－	
73	〃	SD4	〃	陶器	瓶	－	5.5	－	白薩摩 畳付:無釉 貫入多い 外面体部下位:「千鳥文」 薩摩系(姫野系か?) 18C代
74	〃	〃	上層	〃	鉢?	－	－	－	口縁:断面「逆L字」 口唇部:無釉・貫目積痕 外面口縁下:折返しによる段あり 薩摩系(苗代川系か?) 17C～18C前半
75	〃	〃	床面	〃	土瓶(蓋)	7.2	4.6	3.7	底部以下:無釉 反り部:スス付着 薩摩系 19C代?
76	一括	SC1	一括	青磁	碗?	－	－	－	釉薬は気泡を多く含み、発色悪い 肥前系? 19C代?
77	〃	〃	〃	土師器	坏?	－	－	－	底部:糸切り・板状圧痕
78	D-3	SC5	中層	染付	蓋	9.4	5.4	2.8	端反碗の蓋 内面:二条圏線・崩れた「唐草波文」 外面:「区割草花文」 南九州系? 19C前半頃?
79	〃	〃	上層	〃	端反碗	9.4	3.6	4.7	畳付:無釉 高台内銘:「一重角枠内青」? 南九州系? 19C前半頃?
80	〃	〃	上・中層	陶器	火入?	－	6.8	－	底部:丁寧なケズリによる碁笥底状で火熱により黒変 外面体部:白化粧土 内面:丁寧なナデ 薩摩系 18C代?
81	〃	〃	床面	〃	碗	－	5.9	－	畳付:無釉・目積痕 見込:目積3ヶ所 薩摩系 18C後半?
82	〃	〃	上・下層	〃	擂鉢	12.8	5.6	4.9	底部・口唇部:無釉 内面:1単位5条の櫛目 薩摩系 19C代?
83	〃	〃	中層	瓦質土器	火鉢?	－	－	－	型押し成形か? 内面:指頭痕 外面:木目圧痕
84	〃	〃	下層	銭貨	寛永通寶	2.4	－	－	「ハ」貫寶 「コ」通頭 新寛永
85	C-3	SC6	上層	染付	碗	7.4	3.6	5.9	畳付:無釉 外面:「二重格子目文」 高台小ぶり 肥前系 18C前半頃?
86	一括	〃	一括	土師器	小皿?	－	－	－	
87	〃	〃	〃	染付	朝顔形蓋付碗	－	－	－	畳付:無釉・目積痕 内面:「四方襷文」「手描五弁花文」 外面:「草花文」「雨垂文」 肥前系 18C後半～19C初頭
88	〃	〃	〃	〃	端反碗	9.0	3.6	4.5	染付:無釉 南九州系? 19C前半頃?
89	D-2	SC7	中層	〃	碗	10.0	－	－	見込:「二重井桁文」 外面:「草花文」 熊本系? 19C代?

表2　久玉遺跡第7次調査A地区出土遺物観察表②

遺物番号	出土地区	遺構	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	特徴 備考
90	一括	SC7	一括	染付	碗	10.0	3.8	5.7	見込:「二重井桁文」外面:「草花文」畳付:無釉　鍋本系? 19C代?
91	〃	〃	〃	〃	〃	11.0	3.6	5.5	見込:蛇ノ目釉剥ぎ 畳付:無釉・砂目積痕 外面:「柳文」　19C代?
92	D-2	〃	下層	〃	皿	14.8	8.4	4.6	型打ち成形 底部:蛇ノ目凹形高台 口縁部:口銹 内面:「海浜風景文」 肥前系?19C前半
93	〃	〃	〃	陶器	仏花瓶、花生	6.5	7.5	−	底部:糸切り・砂目積痕 体部下端以下:無釉 薩摩系(龍門司系?) 17C末〜18C代
94	〃	〃	中・下層	〃	瓶	−	6.2	−	底部:胎土目積痕4ヶ所 内面底部:指押え痕
95	一括	〃	一括	〃	鉢	30.8	−	−	口唇部:無釉 口縁:断面「T字形」口縁肥厚部:指押えで波状に波飾 薩摩系(龍門司系?)19C代
96	D-2	〃	中層	土師器	焙烙	13.6	10.4	3.1	底部:糸切り 体部下端:ケズリの痕跡
97	一括	SE1	一括	陶器	土瓶?	10.2	−	−	口唇部:無釉　薩摩系(龍門司系?)19C代
98	〃	〃	〃	土師器	焙烙	18.7	−	−	口縁下部:工具凹線 口縁断面:玉縁状
99	〃	SE2	〃	染付	蓋	9.0	3.6	2.4	内部:白抜きの文様帯 外面:「区割草花文」 肥前系 18C後半〜19C初頭
100	〃	〃	〃	土師器	坏	−	7.7	−	底部:糸切り・板状圧痕
101	〃	SC8	〃	石製品	石臼	28.5	30.2	10.0	下臼 凝灰岩製
102	〃	〃	〃	〃	〃	−	−	10.0	上臼 凝灰岩製
103	B-3	PIT	下層	陶器	皿	25.0	7.1	7.55	内面:鉄絵「草文」見込:胎土目積痕4ヶ所 外面体部下半:無釉 口縁:外反し断面玉縁状 高台内:兜巾状　唐津焼 16C末〜17C前半
104	〃	〃	上層	〃	皿	−	4.2	−	内面:鉄絵「草文」見込:胎土目積痕5ヶ所 外面体部下半:無釉 唐津焼 17C前半
105	C-1	〃 (SB1)	上層	〃	瓶	−	5.5	−	底部:糸切り・パミス状目積痕
106	B-2	〃 (SB6)	中層	土師器	小皿	8.6	6.9	2.25	底部:糸切り 体部下端:工具切り込み
107	〃	〃	〃	銭貨	寛永通寶	2.1	−	−	「ス」貝寶　古寛永
108	〃	包含層	Ⅲa層	青磁	小杯?	−	−	−	15C後半〜16C前半
109	C-1	〃	Ⅲb層	染付	碗	11.2	4.4	6.2	畳付:無釉 外面:「雪輪草花文」　肥前系 18C前半
110	〃	〃	Ⅲa層	〃	蓋	10.2	−	−	鈕状つまみ 外面:「草花文」反り部分:無釉　肥前系? 18C前半
111	一括	〃	〃	〃	皿	11.7	5.0	2.9	畳付:無釉 内面:「草花文」「菊花文」　肥前系 17C末〜18C初頭?
112	〃	〃	〃	土師器	小皿	7.7	5.6	1.35	底部:糸切り
113	C-1	〃	Ⅲb層	〃	坏?	−	6.3	−	底部:糸切り 見込:スス付着 体部下端:切離りしの際の糸痕残る
114	一括	〃	Ⅲa層	〃	坏	−	8.4	−	底部:糸切り後ナデ
115	〃	〃	一括	土製品	土人形	−	−	−	素焼 童女を模した意匠 型押し成形で一部手彫り装飾
116	D-2	〃	Ⅰ層	銭貨	寛永通寶	2.0	−	−	「ハ」貝寶 「コ」通頭　新寛永
117	D-3	〃	〃	〃	〃	−	−	−	「ス」貝寶 「コ」通頭　古寛永
118	表採			〃	天保通寶	4.7	−	−	

表3　久玉遺跡第7次調査A地区出土遺物観察表③

存して区画の役割を果たしていたと推察される。また、SD3の北側部分では、拳大から人頭大の河原石を床面から40〜80cm程度積み上げたSS1（1号石組遺構）が検出されている。溝の掘り直しを行った際に脆弱な法面が崩壊するのを防ぐ目的で施された石組列とみられ、市内の中世城郭などでは面取りした軽石で同様の措置を講じた例がある。なお、このSD3では北半部を中心に幅広い年代の陶磁器が出土しており、またSS1を含め溝自体に掘り直しの痕跡も認められることから、長期間に亘って屋敷地の区割溝として利用されていたと考えられる。

掘立柱建物跡はいずれもこの時期の遺構で、SB1・2には根石とみられる礫群が伴っている。棟軸からみて、SB1〜4とSB5・7がそれぞれセットの建物群であると思われ、SD3にSB1〜4が伴い、柱穴がSD3を切っているSB5・7がこれに後出すると考えている。

SB1〜4は、第4次調査のA・D地区で検出された大型掘立柱建物跡の棟軸とも合致しており、これらを取り囲むように巡るSD3や第6次調査・D地区の8号溝、第4次調査・D地区の5号

溝の方向軸と、大型建物跡の周囲を方形状に区画する溝の軸もほぼ同一である。ちなみに、第2～5次調査で確認したこの大型建物跡を伴う屋敷地は、東西約46m、南北約26m、面積約1,196㎡（362坪）と推定されているが、今回のSD3と第6次調査・D地区の8号溝、第4次調査・D地区の5号溝の間（東西間）も約40mと近似値を示しており、同時期で同程度の規模の屋敷地であった可能性が高い。

2）B地区（KU7B区）の概要　　**［第21図～第25図，表4，図版4］**

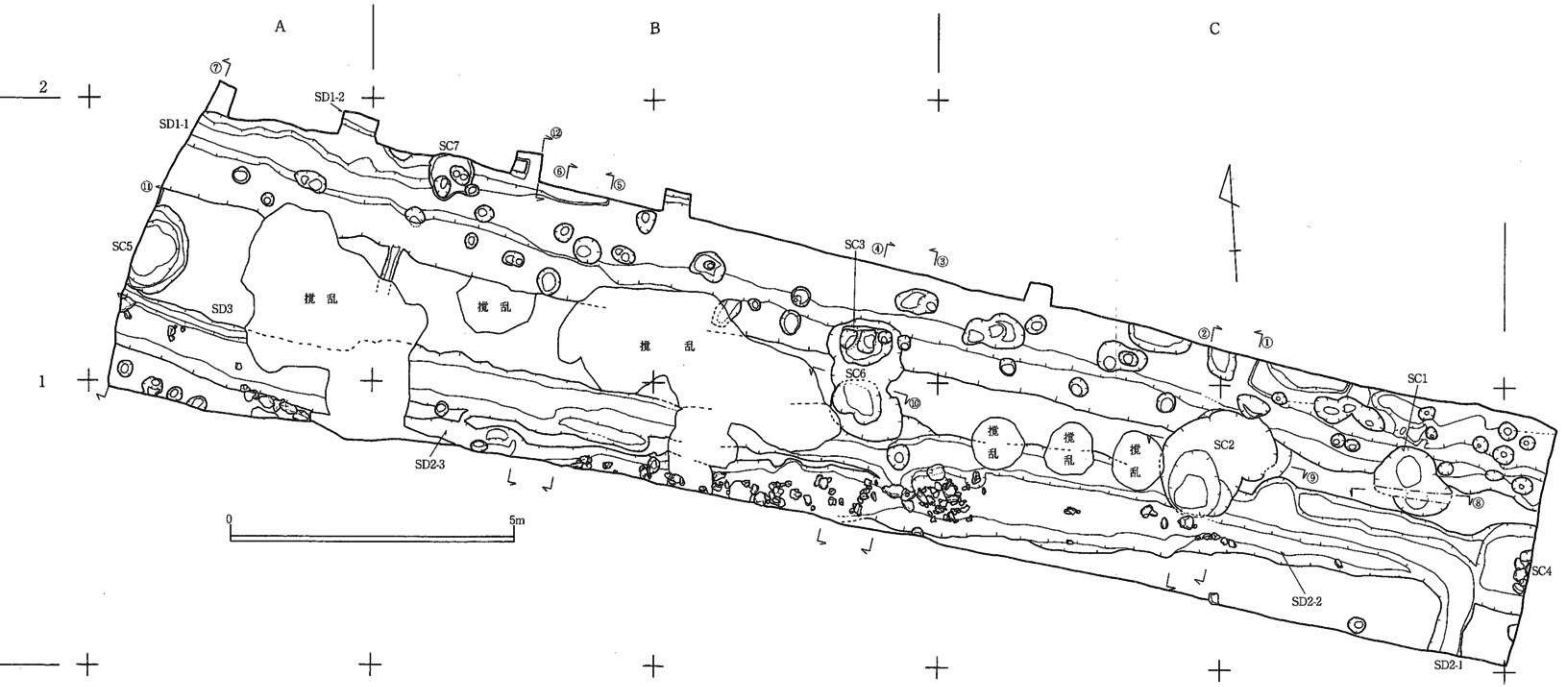
KU7B区では道路拡幅部分約122㎡を対象に、平成7年5月31日から同年6月30日にかけて調査を実施している。調査地点は、国道269号から稲荷神社（建久8年［1197年］創建）へ続く旧参道と直交する市道の南側で、稲荷神社に隣接する区域としては初めての調査である。

当区の現状も宅地で、一部に廃棄穴などの攪乱が認められたが、遺構の状態は概ね良好であった。なお、表土から検出面である第Ⅳb層までが約30cmと浅く、第Ⅲa・Ⅲb層もほとんど残存していなかったことから、近・現代の段階で切土を伴う造成が施されていると考えられる。

今回の調査では、中・近世期の溝状遺構3条、溝に伴うポットホール状の小ピット群、土坑7基を検出している。SD1-1は調査区に北接する市道とほぼ並走する溝で、北側の立ち上がり（法面）が道路建設の際に破壊を受けているため、幅員は不明である。最上層に黒色シルトを含む文明降下軽石層が堆積しており、埋土も御池降下軽石を含む黒色粘質シルトが主であることから、中世の遺構と考えている。断面形は東側が「逆台形」状の箱形であるのに対し、西側は「U」字状で基底部に小溝を伴う漏斗形を呈していることから、幾度かの掘り直しがあったと推測している。また、埋土の下位から中位にかけて形成された硬化面が面的に把握できるため、溝の埋没過程で道路として利用された時期があるようである。調査区西側で確認したSD1-2は、SD1-1と切り合い関係にある溝とみられるが、大部分が市道建設で消失しているため詳細は不明である。なお、これらの遺構に伴う遺物はほとんど出土していない。

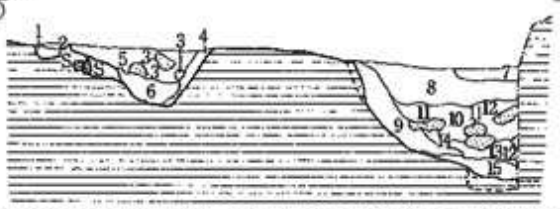
SD1-1の南側を東西方向に並走するSD2は近世の溝状遺構で、3条の溝（SD2-1～3）に細分される。SD2-1は断面形が深い「U」字状を呈し、SD2-2・3を切る溝で、東走して調査区東端部付近で南折している。また、埋土の中位から上位にかけては、硬化体のブロックが認められる。SD2-2は浅い「U」字状の溝で、SD2-3との切り合い部から東走し、SC4に切られている。多量の礫が埋土上層から床面にかけてみられ、陶磁器片がこれに混在して散見される。断面形が深い「U」字状を呈しているSD2-3は、SD2-1・2に切られており、その両端部は不明瞭である。埋土に陶磁器が混在した礫群が見られる点は、SD2-2と共通している。SD2-1と並走し、SD1-1に向けて「L」字形に屈折するSD3も当該期の遺構で、SD2-1に切られている。礫群を伴うSC4を含め、近世の土坑であるSC1～6はいずれも用途不明の遺構であるが、断面形はバリエーションに富む。

この時期も出土遺物は少なく、近世後半の薩摩焼や肥前系磁器、地焼の火鉢、羽釜などが主である。特筆すべきものとして、鮫肌釉を施し、底部に「■平」の陰刻が施された薩摩焼（龍門司窯系）の土瓶(9)があり、18世紀後半頃に同窯の陶工であった芳平の作品と推察される。



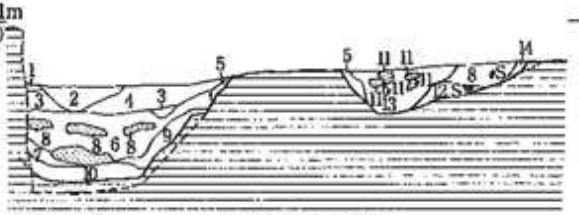
第21図　久玉遺跡（第７次調査）B地区遺構分布図

154.1m
①



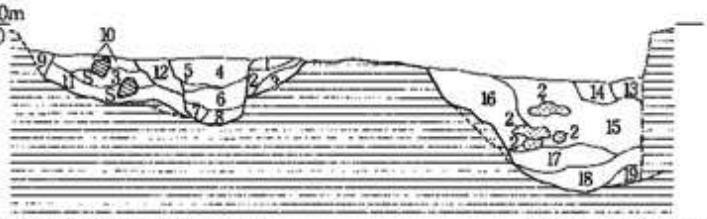
1. 霧島御池軽石をわずかに含む黒色シルト層
2. やや褐色がかった黒色シルト層
3. やや褐色がかった弱粘質黒色シルトブロック（全体的に硬化）
4. 霧島御池軽石をわずかに含む黒褐色シルト層
5. やや褐色がかった灰黒色シルト層
6. 灰黒色シルト層
7. 桜島文明軽石を含む黒色シルト層
8. 霧島御池軽石をまばらに含み、やや褐色がかった黒色シルト層
9. 霧島御池軽石をまんべんなく含む黒色シルト層
10. 弱粘質黒色シルト層
11. 黒色粘質シルトブロック（全体的に硬化）
12. 霧島御池軽石をわずかに含み、やや褐色がかった黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
13. アカホヤ火山灰ブロックを含む黒色シルト層（全体的に硬化）
14. 霧島御池軽石をわずかに含む弱粘質黒色シルト層
15. 霧島御池軽石・アカホヤ火山灰を含む弱粘質黒色シルト層

154.1m
②



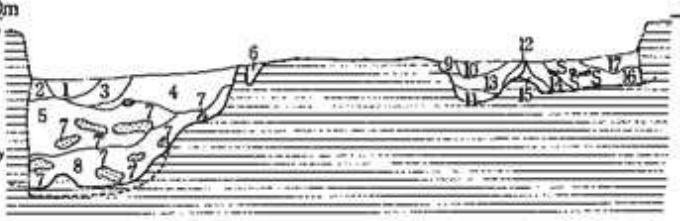
1. 桜島文明軽石を含む黒色シルト層
2. 霧島御池軽石をまばらに含む弱粘質黒色シルト層
3. 黒色シルト層
4. 霧島御池軽石をまんべんなく含む黒色シルト層
5. 霧島御池軽石を多量に含む黒色シルト層
6. 霧島御池軽石をまばらに含む弱粘質黒褐色シルト層
7. 黒色粘質シルト層
8. 霧島御池軽石をわずかに含む弱粘質黒色シルト層
9. 霧島御池軽石をまんべんなく含む黒色シルト層（全体的に硬化）
10. 霧島御池軽石をまんべんなく含む黒色粘質シルト層
11. 霧島御池軽石をごくわずかに含み、やや褐色がかった黒色シルト層（全体的に硬化）
12. 弱粘質黒色シルト層
13. 灰黒色砂質シルト層
14. 霧島御池軽石をまばらに含む黒色シルト層

154.0m
③



1. 霧島御池軽石・砂粒を含む黒色シルト層
2. 霧島御池軽石細粒をわずかに含む黒色シルト層（全体的に硬化）
3. 霧島御池軽石をまんべんなく含む黒色シルト層
4. 霧島御池軽石・砂粒を含む灰黒色砂質シルト層
5. やや灰色がかった黒色シルト層
6. 砂粒ブロックを含む灰黒色砂質シルト層
7. 黒色シルトをわずかに含む灰黒色シルト層
8. 灰黒色シルト層
9. 霧島御池軽石・黒褐色シルトの混土層
10. 霧島御池軽石をごくわずかに含む弱粘質黒色シルト層
11. やや灰色がかった弱粘質黒色シルト層
12. 灰黒色シルト・霧島御池軽石ブロックを含む黒色シルト層
13. 桜島文明軽石を多量に含む黒色シルト層
14. 霧島御池軽石・桜島文明軽石を含む弱粘質黒色シルト層
15. 霧島御池軽石をまんべんなく含む弱粘質黒褐色シルト層
16. 霧島御池軽石を多量に含む黒色粘質シルト層
17. 霧島御池軽石をわずかに含み、やや褐色がかった弱粘質黒色シルト層
18. 霧島御池軽石を多量に含む黒褐色シルト層
19. 霧島御池軽石をまんべんなく含む黒色粘質シルト層

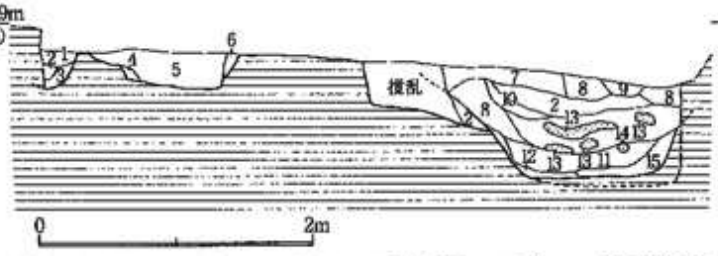
154.0m
④



1. 桜島文明軽石ブロックを含む弱粘質黒色シルト層
2. 桜島文明軽石をごくわずかに含む黒色シルト層
3. 霧島御池軽石をわずかに含む弱粘質黒色シルト層
4. 霧島御池軽石をまんべんなく含む黒色シルト層
5. 霧島御池軽石をまばらに含む黒色粘質シルト層
6. 霧島御池軽石を含む黒色シルト層
7. 霧島御池軽石をわずかに含む黒色粘質シルトブロック（全体的に硬化）
8. 霧島御池軽石を多量に含む黒色粘質シルト層
9. 霧島御池軽石・砂粒を含む黒色シルト層
10. 砂粒を含む灰黒色砂質シルト層
11. 灰黒色砂質シルト層
12. 霧島御池軽石・砂粒を含む灰黒色シルト層
13. 砂粒ブロックを含む灰黒色砂質シルト層
14. 霧島御池軽石をごくわずかに含む黒色シルト層
15. やや灰色がかった黒色シルト層
16. 霧島御池軽石をわずかに含み、やや褐色がかった黒色シルト層
17. 黒色シルト層

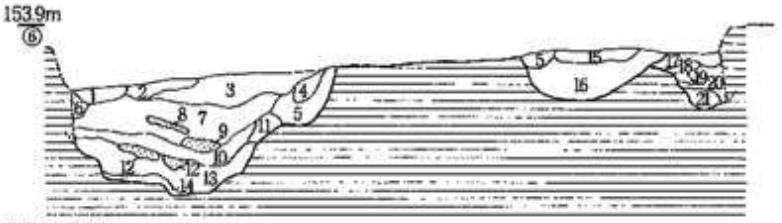
※アミかけ部分は、硬化体の範囲を示す。

153.9m
⑤

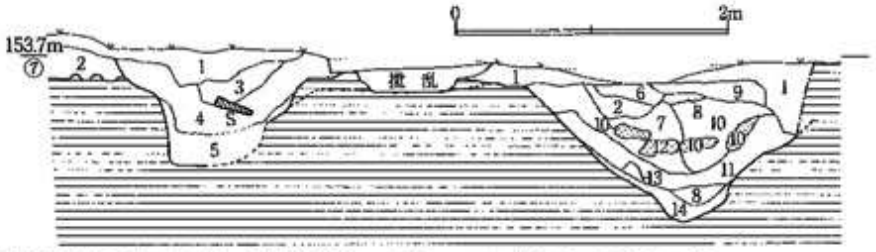


1. 霧島御池軽石をわずかに含む黒色シルト層
2. 黒色シルト層
3. 霧島御池軽石をまばらに含む黒色シルト層
4. 霧島御池軽石をごくわずかに含む灰黒色砂質シルト層
5. 灰黒色砂質シルト層
6. 霧島御池軽石をまばらに含む灰黒色砂質シルト層
7. 霧島御池軽石をまんべんなく含む黒色シルト層
8. 霧島御池軽石をごくわずかに含む黒色シルト層
9. 桜島文明軽石を含む黒色シルト層
10. 砂粒ブロックを含む黒色シルト層
11. 霧島御池軽石をまんべんなく含み、やや褐色がかった弱粘質黒色シルト層
12. 霧島御池軽石をごくわずかに含み、やや褐色がかった黒色シルト層
13. 霧島御池軽石をごくわずかに含む弱粘質黒色シルト層（全体的に硬化）
14. 霧島御池軽石をまんべんなく含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
15. 霧島御池軽石を多量に含む黒褐色粘質シルト層
16. 霧島御池軽石をわずかに含み、やや褐色がかった黒色シルト層

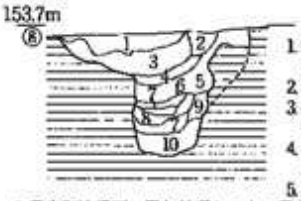
第22図　久玉遺跡（第７次調査）B地区土層断面図①



1. 霧島御池軽石・桜島文明軽石をわずかに含む黒色シルト層
2. 霧島御池軽石をまんべんなく含む黒色シルト層
3. 霧島御池軽石を多量に含む弱粘質黒色シルト層
4. 霧島御池軽石をまばらに含む黒色シルト層
5. 霧島御池軽石を多量に含む黒色シルト層
6. やや褐色がかった黒色シルト層
7. 弱粘質黒色シルト層
8. 黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
9. 霧島御池軽石・砂粒を含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
10. 霧島御池軽石をまばらに含み、やや褐色がかった黒色粘質シルト層
11. 霧島御池軽石をごくわずかに含む黒色シルト層
12. 霧島御池軽石細粒をごくわずかに含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
13. 霧島御池軽石を多量に含む黒色粘質シルト層
14. 霧島御池軽石をごくわずかに含む黒色粘質シルト層
15. 霧島御池軽石をまばらに含む灰黒色シルト層
16. 灰黒色砂質シルト層
17. 黒色シルト層
18. 霧島御池軽石細粒をわずかに含む黒色シルト層
19. 霧島御池軽石細粒を多量に含む黒色シルト層
20. 霧島御池軽石をわずかに含む黒色粘質シルト層
21. 霧島御池軽石をまんべんなく含む弱粘質黒色シルト層



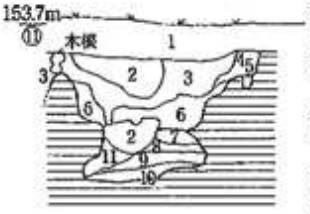
1. 表土層（灰オリーブ色砂質シルト層）
2. 霧島御池軽石をごくわずかに含む黒色シルト層
3. 霧島御池軽石をわずかに含む黒色シルト層
4. やや灰色がかった黒色シルト層
5. 灰黒色シルト層
6. 霧島御池軽石をまばらに含み、やや褐色がかった黒色シルト層
7. 霧島御池軽石細粒をごくわずかに含む弱粘質黒色シルト層
8. 黒色シルト層
9. 灰褐色シルト層
10. 弱粘質黒色シルト層（部分的に硬化）
11. やや褐色がかった黒色シルト層
12. 霧島御池軽石をごくわずかに含む黒色粘質シルト層
13. 霧島御池軽石をごくわずかに含む黒褐色シルト層
14. 霧島御池軽石を多量に含む黒色シルト層



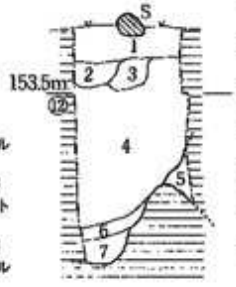
1. 霧島御池軽石をまばらに含む黒色シルト層
2. やや褐色がかった黒色シルト層
3. 霧島御池軽石を多量に含み、やや褐色がかった黒色シルト層
4. 霧島御池軽石・黒色シルトの混土層
5. 黒色シルトを含む霧島御池軽石層
6. 霧島御池軽石・黒色粘質シルトの混土層
7. アカホヤ火山灰・霧島御池軽石・黒色粘質シルトの混土層
8. アカホヤ火山灰・黒色粘質シルトの混土層
9. 黒色シルト層
10. 霧島御池軽石・黒色粘質シルトブロックを含む黒褐色シルト層

1. 霧島御池軽石をまんべんなく含み、やや褐色がかった黒色シルト層
2. 霧島御池軽石を多量に含む黒色シルト層
3. 黒色シルトを含む霧島御池軽石層
4. 霧島御池軽石をまんべんなく含む黒色シルト層
5. 霧島御池軽石をまんべんなく含む黒褐色シルト層
6. 霧島御池軽石ブロック
7. 霧島御池軽石・黒褐色シルトの混土層
8. 霧島御池軽石をわずかに含む黒色シルト層
9. 霧島御池軽石を多量に含み、やや褐色がかった黒色シルト層
10. 霧島御池軽石細粒・黒色シルトの混土層

1. 霧島御池軽石をまばらに含み、やや褐色がかった黒色シルト層
2. 霧島御池軽石を多量に含み、やや褐色がかった黒色シルト層
3. 霧島御池軽石をまんべんなく含む黒色シルト層
4. 黒色シルト層



1. 表土層（灰オリーブ色砂質シルト層）
2. 霧島御池軽石を多量に含む弱粘質黒色シルト層
3. 霧島御池軽石をわずかに含む黒色シルト層
4. 霧島御池軽石細粒を多量に含む黒色シルト層
5. 霧島御池軽石を多量に含む黒褐色シルト層
6. 霧島御池軽石をまんべんなく含む黒色シルト層
7. 霧島御池軽石・黒色シルトの混土層
8. 黒色シルト層
9. 霧島御池軽石細粒・黒色シルトブロックの混土層
10. 霧島御池軽石細粒を多量に含む黒色粘質シルト層

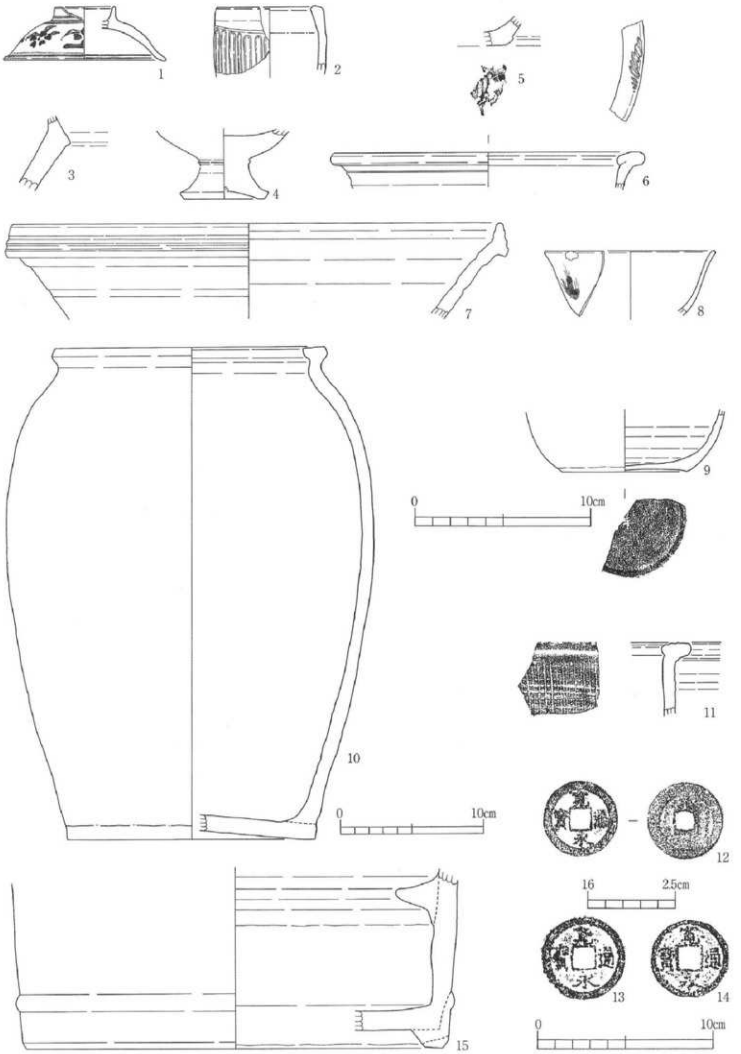


1. 表土層（灰オリーブ色砂質シルト層）
2. 霧島御池軽石をまばらに含み、やや灰色がかった黒色シルト層
3. 霧島御池軽石・桜島文明軽石をわずかに含む弱粘質黒色シルト層
4. 霧島御池軽石をまばらに含み、やや褐色がかった黒色シルト層
5. 霧島御池軽石をごくわずかに含む弱粘質黒色シルト層
6. 霧島御池軽石を多量に含む黒色シルト層
7. 霧島御池軽石をわずかに含み、やや褐色がかった黒色シルト層

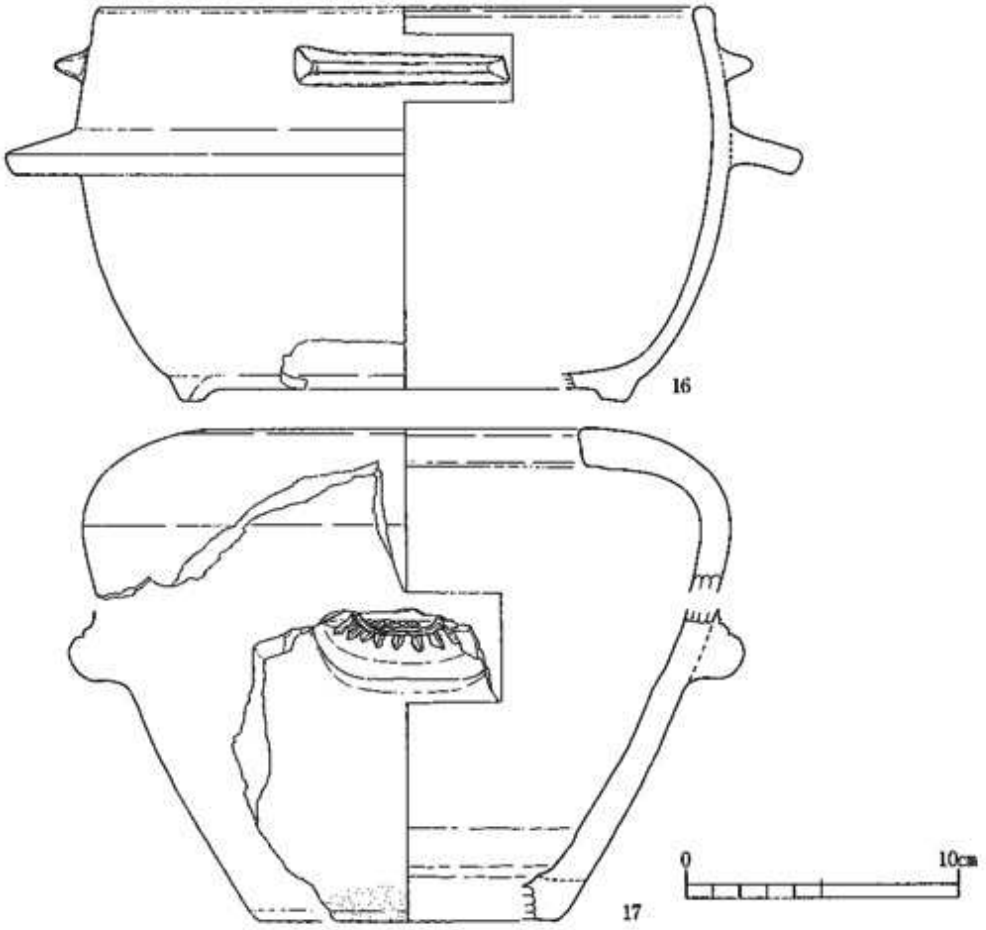
0　1m

※アミかけ部分は、硬化体の範囲を示す。

第23図　久玉遺跡（第７次調査）B地区土層断面図②



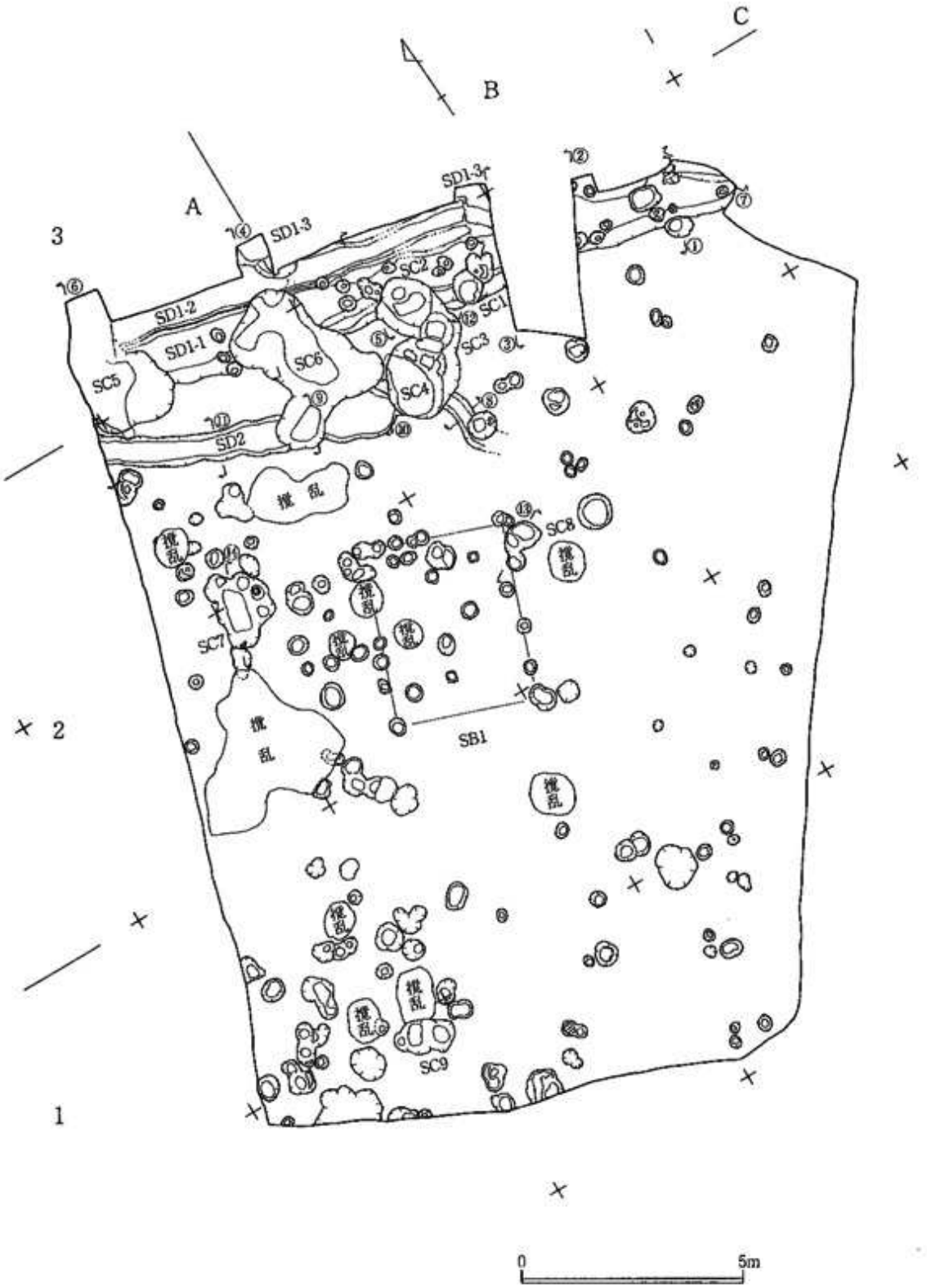
第24図　久玉遺跡（第７次調査）B地区出土遺物実測図①



第25図　久玉遺跡（第７次調査）B地区出土遺物実測図②

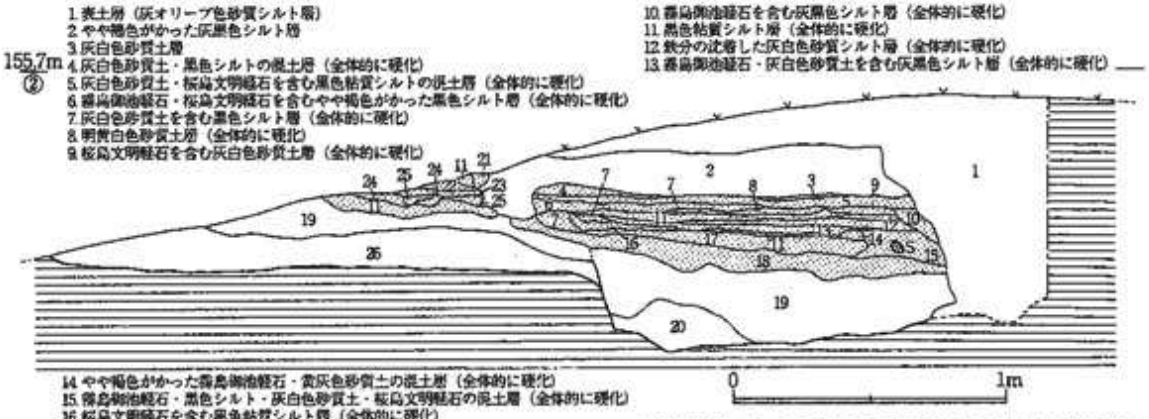
遺物番号	出土地区	遺構	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	特徴 備考
1	B-1	包含層	Ⅲa層	染付	蓋	9.2	3.4	3.0	外面:「桜花流水文」 南九州系? 19C代?
2	一括	SD2-1	上層	青磁	香炉?	6.0	－	－	口唇部:浴磨痕 内面:口縁部のみ施釉 肥前系?
3	B-1	包含層	一括	陶器	擂鉢	－	－	－	口縁:小ぶり 備前焼 14C後半～15C前半
4	〃	〃	〃	〃	仏飯器	－	4.4	－	見込:蛇ノ目釉剥ぎ 脚部下半～底部:無釉 薩摩系 18C末～19C
5	〃	〃	〃	土師器	坏?	－	－	－	底部:糸切り
6	一括	SD2-1	〃	陶器	鉢?	18.0	－	－	口唇部:貝目櫛状 薩摩系 17C末～18C前半
7	〃	SD2-2	〃	須恵質	捏ね鉢	28.6	－	－	口縁外面:自然釉 東播系(魚住系?) 13C代
8	〃	〃	〃	染付	碗(小杯?)	9.8	－	－	口縁:端反 17C代
9	〃	〃	〃	陶器	土瓶	－	7.0	－	体部下半～底部:無釉 外面体部:鮫肌釉 底部:「■平」(芳平か?)の陰刻 薩摩系(龍門司系) 18C後半
10	〃	SD1 SD2-2	〃	〃	甕	19.5	17.5	34.9	底部:無釉 薩摩系 18C末～19C
11	〃	SD2-2	〃	〃	擂鉢	－	－	－	口唇部:銀化 薩摩系 18C末～19C
12	〃	〃	〃	銭貨	寛永通寶	2.1	－	－	「ハ」貝寶「コ」通頭 背銘:「元」 新寛永 18C後半～
13	〃	〃	〃	〃	〃	2.4	－	－	「ハ」貝寶「コ」通頭 新寛永 18C後半～
14	〃	包含層	〃	〃	〃	2.2	－	－	「ハ」貝寶「コ」通頭 新寛永 18C後半～
15	〃	〃	〃	土製品	火鉢?	－	26.0	－	金ウンモ多く含む 見込:ハケメ
16	〃	〃	〃	瓦質土器	羽釜?	23.0	－	－	内面～外面上半:施釉 鍔部上:帯:把手状貼付突帯
17	〃	〃	〃	土製品	火鉢? 土風呂?	12.9	10.8	18.0	内面:スス付着 外面:顔料塗布後に磨研? 肩部:動物か人物をモチーフにした貼付把手

表３　久玉遺跡第７次調査Ａ地区出土遺物観察表③

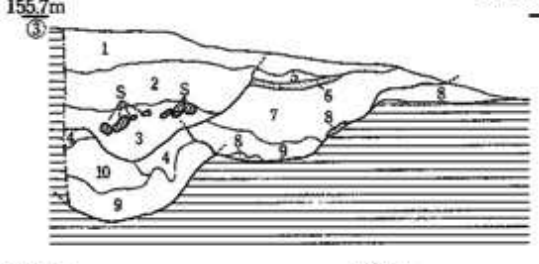


第26図　久玉遺跡（第７次調査）C地区遺構分布図

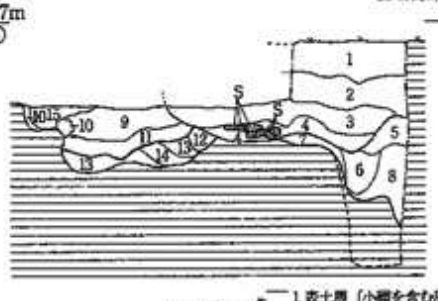
1. やや褐色がかった灰黒色砂質シルト層
2. 黒色粘質シルト層
3. 霧島御池軽石をまんべんなく含む黒色粘質シルト層



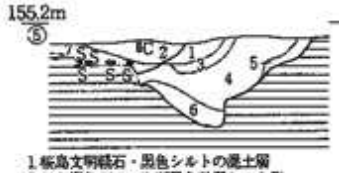
1. 表土層（灰オリーブ色砂質シルト層）
2. やや褐色がかった灰黒色シルト層
3. 灰白色砂質土層
4. 灰白色砂質土・黒色シルトの混土層（全体的に硬化）
5. 灰白色砂質土・桜島文明軽石を含む黒色粘質シルトの混土層（全体的に硬化）
6. 霧島御池軽石・桜島文明軽石を含むやや褐色がかった黒色シルト層（全体的に硬化）
7. 灰白色砂質土を含む黒色シルト層（全体的に硬化）
8. 明黄白色砂質土層（全体的に硬化）
9. 桜島文明軽石を含む灰白色砂質土層（全体的に硬化）
10. 霧島御池軽石を含む灰黒色シルト層（全体的に硬化）
11. 黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
12. 鉄分の沈着した灰白色砂質シルト層（全体的に硬化）
13. 霧島御池軽石・灰白色砂質土を含む灰黒色シルト層（全体的に硬化）
14. やや褐色がかった霧島御池軽石・黄灰色砂質土の混土層（全体的に硬化）
15. 霧島御池軽石・黒色シルト・灰白色砂質土・桜島文明軽石の混土層（全体的に硬化）
16. 桜島文明軽石を含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
17. 霧島御池軽石・黄灰色砂質土の混土層（全体的に硬化）
18. やや褐色がかった黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
19. 霧島御池軽石をまばらに含む黒色粘質シルト層
20. 霧島御池軽石をまんべんなく含む、やや褐色がかった黒色粘質シルト層
21. 砂粒ブロック層
22. 黒色粘質シルト・霧島御池軽石・灰白色砂質土の混土層（全体的に硬化）
23. 砂粒・黒色粘質シルトの混土層（全体的に硬化）
24. 霧島御池軽石をわずかに含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
25. 砂粒を多量に含む灰黒色砂質シルト層（全体的に硬化）
26. 霧島御池軽石層の漸移層



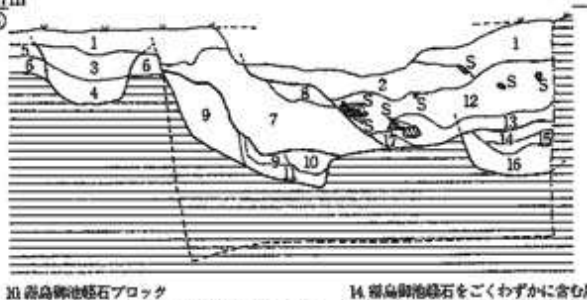
1. 表土層（灰オリーブ色砂質シルト層）
2. 灰褐色シルト層
3. 霧島御池軽石をわずかに含み、やや褐色がかった灰黒色シルト層
4. やや褐色がかった黒色粘質シルト層
5. 黒色シルト層
6. 霧島御池軽石をわずかに含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
7. 霧島御池軽石をまばらに含む黒色粘質シルト層
8. 霧島御池軽石の漸移層
9. 霧島御池軽石をまんべんなく含む黒色粘質シルト層
10. 霧島御池軽石をまんべんなく含み、やや褐色がかった黒色粘質シルト層



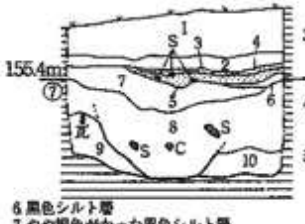
1. 表土層（灰オリーブ色砂質シルト層）
2. 小礫を含み、やや褐色がかった灰黒色シルト層
3. 灰褐色シルト層
4. 霧島御池軽石をわずかに含み、やや褐色がかった灰黒色シルト層
5. 霧島御池軽石をまんべんなく含み、やや褐色がかった黒色シルト層
6. 黒色シルト層
7. 霧島御池軽石をまばらに含む黒褐色シルト層
8. 霧島御池軽石・黒色粘質シルトの混土層
9. 霧島御池軽石をまばらに含む黒色粘質シルト層
10. 霧島御池軽層の漸移層
11. 霧島御池軽石をまんべんなく含み、やや褐色がかった黒色粘質シルト層
12. 霧島御池軽石をまんべんなく含む黒色粘質シルト層
13. やや褐色がかった黒色粘質シルト層
14. 霧島御池軽石をまばらに含む黒色シルト層
15. やや灰色がかった黒色シルト層



1. 桜島文明軽石・黒色シルトの混土層
2. やや褐色がかった灰黒色砂質シルト層
3. やや褐色がかった黒色シルト層
4. 霧島御池軽石をわずかに含む黒色粘質シルト層
5. 霧島御池軽石をまんべんなく含む黒色粘質シルト層
6. 霧島御池軽石ブロックを含む黒色粘質シルト層
7. 灰黒色砂質シルト層

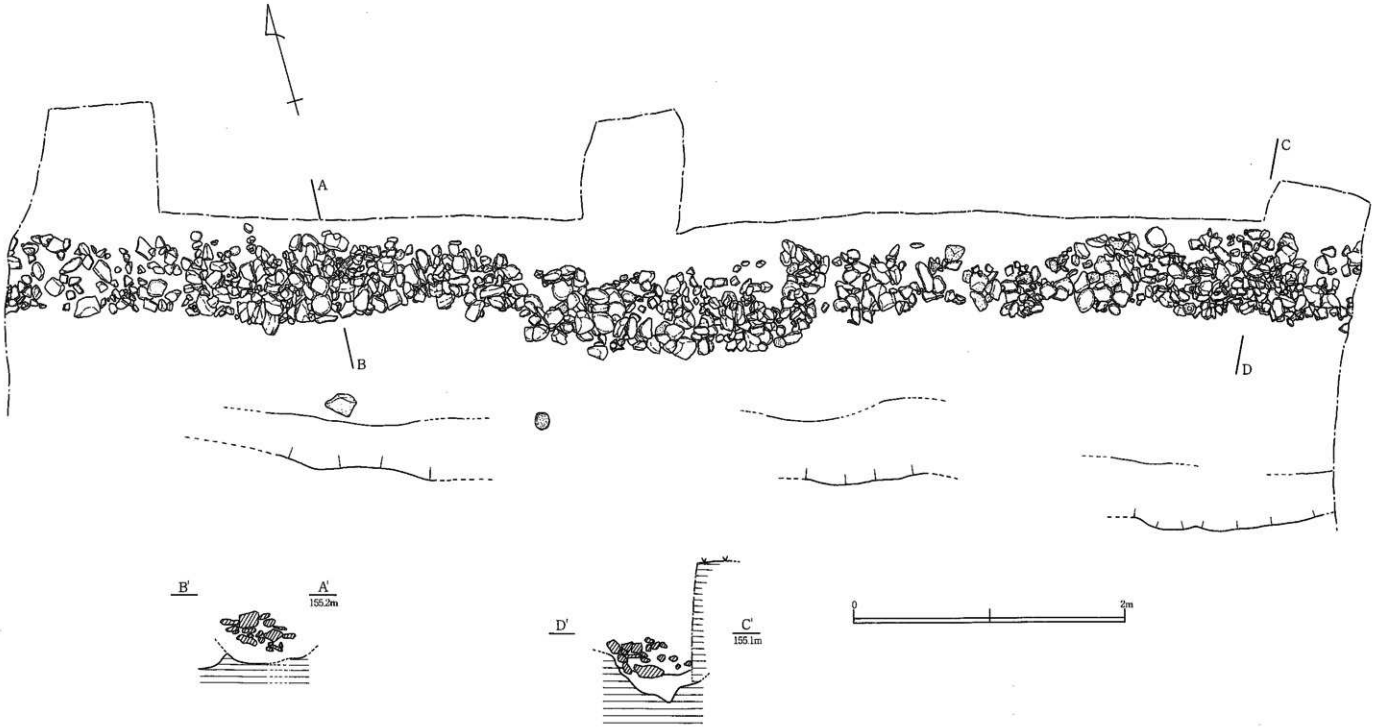


1. 表土層（小礫を含む灰オリーブ色砂質シルト層）
2. 霧島御池軽石をわずかに含み、やや灰色がかった黒色シルト層
3. 霧島御池軽石をまんべんなく含み、やや褐色がかった灰黒色シルト層
4. 霧島御池軽石をごくわずかに含む黒褐色シルト層
5. 黒色粘質シルト層
6. 霧島御池軽石層の漸移層
7. 霧島御池軽石をまんべんなく含む黒色粘質シルト層
8. やや褐色がかった黒色シルト層
9. 霧島御池軽石を多量に含む黒色粘質シルト層
10. 霧島御池軽石ブロック
11. 霧島御池軽石をまばらに含む黒色粘質シルト層
12. やや褐色がかった灰黒色シルト層
13. 黒褐色シルト層
14. 霧島御池軽石をごくわずかに含む黒褐色シルト層
15. 砂粒・霧島御池軽石細粒をまんべんなく含む黒褐色シルト層
16. 霧島御池軽石細粒をまんべんなく含む黒褐色シルト層
17. やや褐色がかった灰黒色シルト・黒褐色シルトの混土層

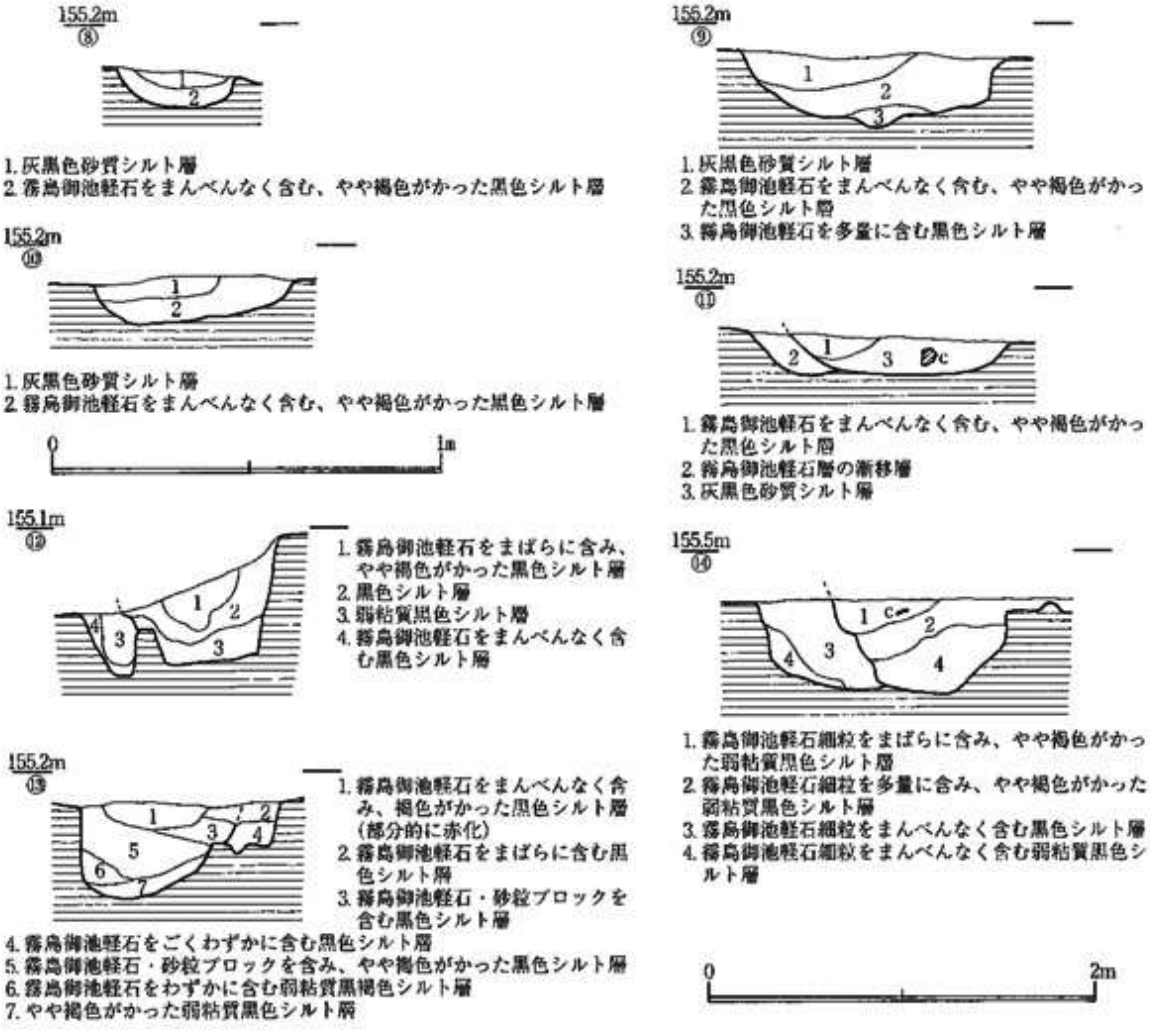


1. 表土層（灰オリーブ色砂質シルト層）
2. やや褐色がかった灰黒色シルト層
3. 桜島文明軽石を含む灰黒色シルト層（全体的に硬化）
4. 灰白色砂質土層（全体的に硬化）
5. 霧島御池軽石・桜島文明軽石を含む弱粘質黒色シルト層（全体的に硬化）
6. 黒色シルト層
7. やや褐色がかった黒色シルト層
8. 黒色粘質シルト層
9. 霧島御池軽石をまばらに含む黒色粘質シルト層
10. 霧島御池軽石をわずかに含む黒色粘質シルト層

第27図　久玉遺跡（第7次調査）C地区土層断面図①



第28図　久玉遺跡（第７次調査）C地区SS-1 平面・断面図

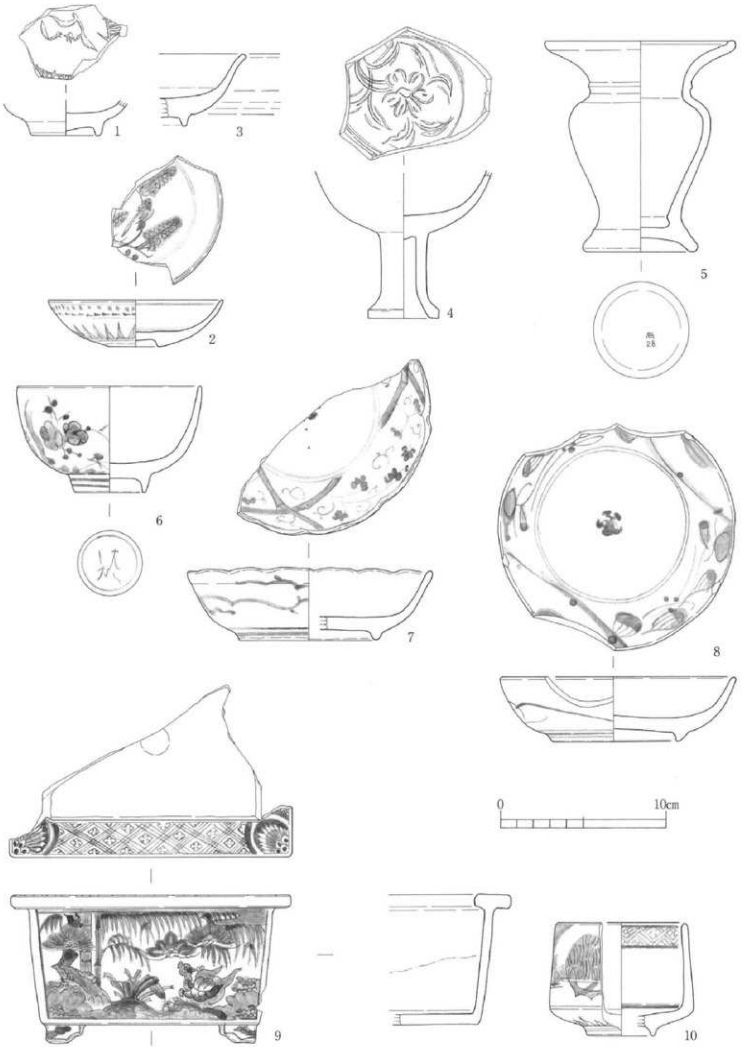


第29図　久玉遺跡（第７次調査）C地区土層断面図②

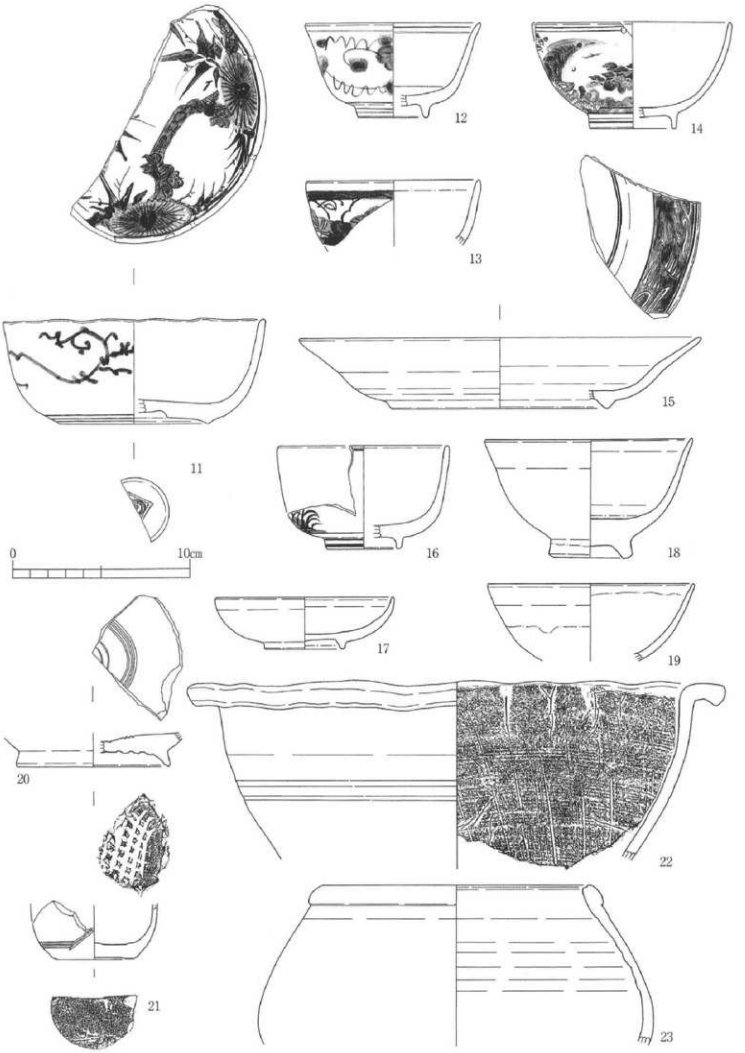
３）C地区（KU7C区）の概要　　［第26図～第33図，表５，図版５］

KU7C区は、第７次調査・Ｂ地区の東側、国道269号に面した地点で、稲荷神社旧参道と直交する市道の拡幅予定部分及び宅地換地部分約277㎡を対象に、平成７年７月７日から同年７月27日まで調査を実施している。当区も調査直前まで宅地として利用されていたが、攪乱などはほとんど認められず、遺構検出面である第Ⅳa・b層の残存状態は良好であった。

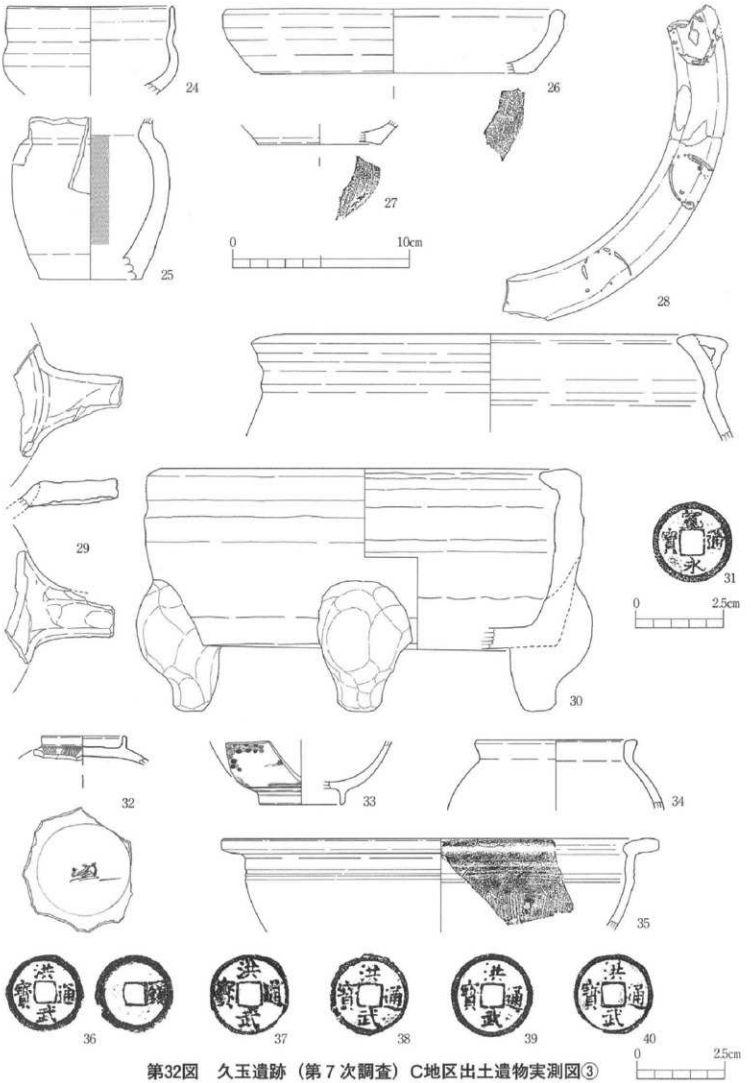
調査の結果、当区では縄文時代の土坑、中・近世の溝状遺構、掘立柱建物跡、土坑、柱穴群が確認されている。SC2～6はSD1-1・2やSD2に切られた土坑群で、平面プラン・断面形ともに不整形を呈している。主な埋土は御池降下軽石を多く含む黒色粘質シルト層で、全体的に堅くしまっており、一部の土坑では御池降下軽石ブロックと黒色粘質シルト層が互層に堆積している様子も認められる。いずれも共伴遺物がないため時期の特定は難しいが、埋土の状態を市内の他の事例と比較して、縄文時代後期～晩期頃の土坑群であると推察している。



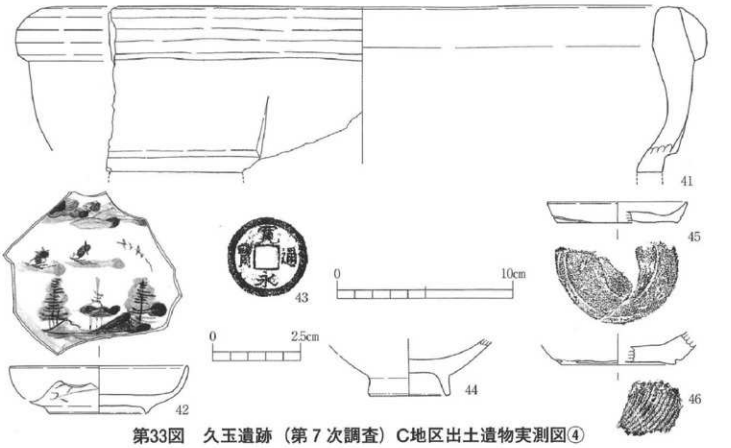
第30図　久玉遺跡（第７次調査）C地区出土遺物実測図①



第31図　久玉遺跡（第７次調査）C地区出土遺物実測図②



第32図　久玉遺跡（第７次調査）C地区出土遺物実測図③



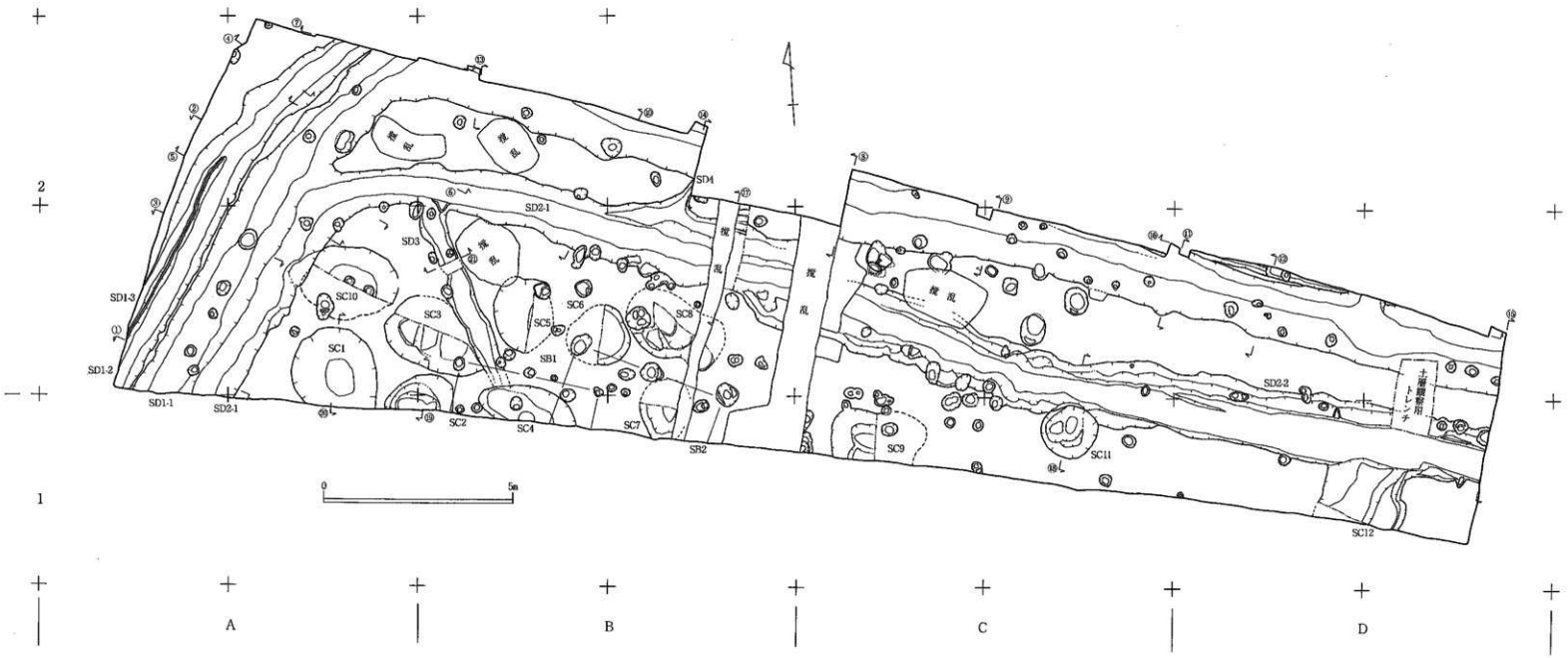
第33図　久玉遺跡（第７次調査）C地区出土遺物実測図④

中世の遺構としては、SD1-1・3、SC1のほか柱穴群も検出しているが、掘立柱建物跡は確認していない。埋土の状況からみて、SD1-3が先行するとみられるSD1-1とSD1-3は、第７次調査・Ｂ地区で検出したSD1-1・2に連結する溝と考えられ、北接する市道と並走して、国道269号下まで続くようである。また、SD1-1の上部には、第７次調査・Ｂ地区のSD1-1と同様に溝の埋没過程で形成された硬化面（層）が複数面認められ、最終面は近世段階まで継続使用されていたとみられる。なお、この時期の遺構に伴う出土遺物は皆無であり、良好な状態の文明降下軽石層の堆積も認められなかったが、これらを切るSD1-2の埋土中に混入した遺物の年代から、14世紀～15世紀代の遺構群であると推測している。

近世の遺構としては、SD1-2、SD2、SC7～9、SB1、柱穴群がある。SD1-2はSD1-1・3を切りながら東西方向に走行する溝であるが、セクションベルト東側ではその痕跡が確認できないことから、主軸をやや北東寄りに振りながら調査区外へ延びていると推察される。また、この溝でも埋土中から複数の陶磁器片を含む礫群（SS1）が出土しており、第７次調査・B地区のSD2などと類似した傾向が認められる。ただし、他の溝に伴う礫群が廃棄されて散在している状況を示しているのに対し、当区のSS1については、一見すると埋没途中のSD2の窪みに人為的に小礫を敷き詰めたような状態で検出されている。そのため、SD1-1の上部に形成され、近世段階でも永続的に使用されていた硬化面（道路状遺構）との関わりも含め、その用途・目的については今後検討していく余地があろう。なお、この時期の遺物としては18世紀～19世紀代の肥前系磁器や薩摩焼などがあり、それらの大半がSD1-2に伴うものである。（※挿図番号１～31について遺物観察表では所属遺構をSD1としているが、これは遺物取上げの初期段階でSD1-1～3を明確に峻別せず、まとめてSD1と取り扱ったためであり、層位的にみるとこれらの大半がSD1-2に所属している。）

遺物番号	出土地区	遺構	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	特徴備考
1	B-2	SD1	中層	青磁	碗	−	4.1	−	見込:印花 高台内:鉄泥紫塗布 龍泉窯系 15C後半〜16C
2	一括	＊	一括	青花	皿	10.0	2.6	2.65	外面:「芭蕉葉文」 内面:「花鳥文」 底部:巻筒底 畳付:無釉 福建・広東系 16C代
3	B-2	＊	中層	白磁	碗	−	−	−	見込:蛇ノ目釉剥ぎ 畳付:無釉 薩摩系? 19C代?
4	A-3	＊	下層	＊	高脚付杯	−	4.0	−	脚部:中空 見込:片彫りの「花文」「圏線」 脚部内面〜畳付:鉄泥紫塗布 薩摩系?(平佐系?) 19C代?
5	一括	＊	一括	青磁	仏花瓶	11.0	6.2	12.0	畳付:無釉 高台内:染付「有28」(戦時統制下のメーカー番号) 肥前系(有田) 近代
6	B-3	＊	下層	染付	碗	10.5	4.2	6.1	畳付:無釉 外面:「梅樹文」 高台内銘:崩れた「太明年製」 肥前系 18C前半
7	一括	＊	一括	＊	輪花皿	13.8	7.9	4.0	内面:「竹唐草文」「コンニャク印判五弁花文」 外面:「蔓唐草文」? 肥前系 18C後半
8	A-3・B-3	＊	下層	＊	皿	13.3	7.1	3.7	内面:「草花文」「コンニャク印判五弁花文」 外面:「唐草文」 高台内銘:「渦福」 見込:砂目積痕 畳付:無釉 肥前系 18C中葉頃?
9	A-3	＊	＊	＊	香炉、盆栽鉢	15.9	12.2	8.4	外面:「四方梅文」「菊花文」「松竹梅に亀文」 脚部:施釉・染付 内面下半〜見込・外面底部:無釉 肥前系(有田) 18C前半
10	一括	＊	一括	＊	筒形碗	7.4	3.8	6.4	畳付:無釉 内面:「四方襷文」 外面:「松樹文」 体部屈曲部下:「芭蕉葉文」 肥前系 18C後半〜19C初頭頃
11	B-3	＊	下層	＊	深皿	15.0	8.5	5.9	内面:「松竹梅文」? 高台内銘:「二重角枠内鳳凰」 底部:蛇ノ目凹形高台・砂目積痕 口縁:輪花状 肥前系 18C中〜18C末
12	＊	＊	＊	＊	端反碗	10.0	4.0	5.4	見込:「岩に松文」? 外面:「捻り草花」? 畳付:無釉 肥前系 18C後半〜19C
13	B-2	＊	＊	＊	蓋付鉢	10.0	−	−	外面:「梅樹文」? 口縁内面:無釉 肥前系 18C後半〜19C初頭
14	一括	＊	一括	＊	丸形碗	11.4	4.8	6.1	畳付:無釉 外面:「山水文」? 肥前系 18C末〜19C初頭
15	A-3	＊	下層	＊	皿	23.0	12.4	4.1	畳付:無釉 内面口縁:墨はじきの文様帯 肥前系 18C前半
16	一括	＊	中層	＊	碗	9.8	4.2	5.85	畳付:無釉 高台内:兜巾状 外面:「草花文」? 貫入多く釉黄濁 薩摩系?
17	B-3	＊	＊	陶器	皿	10.0	4.5	3.0	畳付:無釉 薩摩系?
18	＊	＊	中・下層	＊	碗	11.7	4.8	6.8	高台内外面:無釉 見込:蛇ノ目釉剥ぎ 薩摩系 19C代?
19	A-3	＊	中層	＊	＊	11.7	−	−	内外面上半:白化粘土 薩摩系
20	B-3	＊	下層	＊	底目卸皿	−	8.8	−	高台内:無釉・卸目 古瀬戸(中1〜II期)14C前半
21	B-2	＊	＊	＊	瓶	−	4.8	−	底部:無釉・糸切り 薩摩系?
22	A-3 B-2・3	＊	中・下層	＊	擂鉢	30.6	−	−	口唇〜内面:無釉 内面:1単位6条の櫛目 口唇部:15mm角の粘土目積痕2ヶ所 口縁:波状 薩摩系 19C代
23	B-3	＊	＊	＊	壺	15.5	−	−	口縁〜内面:無釉 内面:ロクロ痕 薩摩系
24	＊	＊	下層	＊	火入、香炉	9.5	−	−	外面上半〜内面頸部:白化粘土 薩摩系
25	A-3・B-3	＊	中・下層	土製品	壺	−	−	−	外面:ロクロ痕 内面口縁以下:スス付着 小型の消し炭入れ?
26	一括	＊	一括	土師器	焙烙	18.8	−	−	底部:糸切り 外面:ロクロ痕・スス付着
27	＊	＊	＊	＊	坏	−	7.1	−	底部:糸切り
28	B-3	＊	下層	陶器	甕	27.2	−	−	口唇:無釉・貝目積痕3ヶ所 口縁:断面「三角形」折返し 薩摩系 18C末〜19C
29	一括	＊	一括	土師器	焙烙把手	−	−	−	接合痕明瞭
30	A-3	＊	下層	瓦質土器	火鉢	23.0	21.8	13.7	底部:三足脚(猫足) 線香立の可能性あり
31	B-2	＊	中層	銭貨	寛永通寶	2.2	−	−	「ハ」貝寶 新寛永
32	一括	SD1-2	一括	染付	蓋	−	4.6	−	内面:「岩に波文」 外面:「竹文」 肥前系 18C後半〜
33	＊	＊	＊	＊	碗	−	4.8	−	畳付:無釉・砂目積痕 釉青味強く気泡多い 肥前系? 18C前半?
34	＊	＊	＊	陶器	壺	9.3	−	−	口縁:無釉 薩摩系?
35	＊	＊	＊	＊	擂鉢	25.0	−	−	口唇:無釉 内面:1単位5条の櫛目 薩摩系
36	＊	SC1	一括	銭貨	洪武通寶	2.1	−	−	背銘:「一銭」
37	＊	＊	＊	＊	＊	2.25	−	−	
38	＊	＊	＊	＊	＊	2.25	−	−	
39	＊	＊	＊	＊	＊	2.35	−	−	
40	＊	＊	＊	＊	＊	2.25	−	−	
41	＊	包含層	＊	瓦質土器	火鉢	34.0	−	−	外面:ナデ・ケズリ 内面:ナデ 透かし有り?
42	＊	＊	＊	染付	皿	10.1	5.55	2.7	内面:「海浜風景文」 外面:「唐草文」 肥前系? 18C後半〜?
43	＊	＊	＊	銭貨	寛永通寶		−	−	「ハ」貝寶 「コ」通頭 新寛永
44	A-1	PIT	下層	陶器	碗	−	4.2	−	畳付:無釉 高台内:兜巾状 兵器手高台 薩摩系 18C代
45	＊	＊	＊	土師器	小皿	8.0	7.0	1.2	底部:ヘラ切り 外面下位:ヘラ状工具による鋭利な切り込み
46	A-2	＊	中層	＊	坏	−	6.5	−	底部:ヘラ切り? 外面下位:ヘラ状工具による切り込み

表5　久玉遺跡第7次調査C地区出土遺物観察表



第34図　久玉遺跡（第８次調査）A地区遺構分布図

2．第８次調査

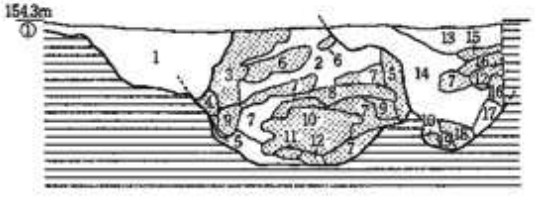
１）A地区（KU8A区）の概要　　［第34図～第41図，表６・７，図版６・７］

KU8A区は、市道を挟んで第4次調査・Ｂ地区と第７次調査・Ｂ地区に隣接する地点で、道路拡幅部分約251㎡を対象に、平成７年４月５日から同年５月17日にかけて調査を実施している。当区の現状も宅地で、建物の基礎や水道管敷設に伴う撹乱などが一部で認められたものの、遺構の遺存状態は概ね良好であった。なお、今回の調査では、中・近世期の溝状遺構7条、掘立柱建物跡２棟、土坑１基、柱穴のほか、縄文時代の遺構とみられる土坑11基を確認している。

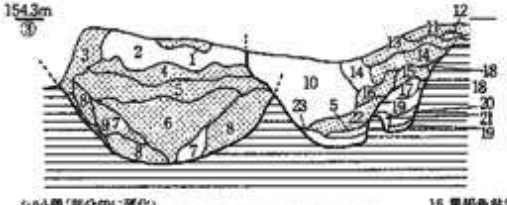
SC1～11は円形ないし不整楕円形の平面プランを呈す土坑群で、埋土は第７次調査・C地区で検出した土坑群と同様に、全体的に堅くしまった御池降下軽石と黒色粘質シルトの混土層を主とする。断面形態はやや不整形の「U」字状を呈すものが多く、基底部にピットを伴う土坑や2基以上の切り合い関係が認められるものもあるが、いずれも用途は不明である。共伴遺物はないが、埋土の状況より縄文時代後期から晩期にかけての遺構群と位置付けている。

SD1-1～3、SD3は中世の遺構群である。これらは御池降下軽石を含む黒色粘質シルトを主たる埋土にもつ溝状遺構で、SD1-1～3については、断面観察によりSD1-3→SD1-1→SD1-2という構築順序が推察される。さらに、最終段階のSD1-2最上層に文明降下軽石層の堆積が認められることから、少なくとも15世紀後半の段階ではすべての溝がほぼ埋没していたと考えられる。また、SD1-1においては埋土の中位層以下で、SD1-2では西側法面寄りの最下層から上層部にかけて硬化面（層）の形成が確認されていることから、これらの溝もその埋没過程で道路として利用していたことが示唆できる。とくにSD1-2に伴う硬化面は、溝の掘り込み範囲にとどまらず、西側法面付近からさらにその外側まで形成範囲が広がる一方で、東側法面付近には全くその痕跡が認められないことから、東側に小溝状の側溝を伴う道路状遺構であった可能性も想定されよう。なお、東側から西走し、調査区北西部付近で南折するSD1-1～3は、方向軸や埋土中に硬化面が形成されている点などが共通することから、第７次調査・C地区で検出したSD1-1・3や、第７次調査・Ｂ地区のSD1-1・2と連結する溝であると考えている。今回、当地区のSD1-1～3が屈曲して南走することが確認されたことで、これら一連の溝状遺構が一辺140m以上という、当遺跡最大級の方形区割を意図した区画溝であった可能性が高まったといえ、今後周辺部の調査によってその全容が明らかになることが期待される。また、直接的な因果関係の有無は不明であるが、この溝の軌跡を追うように現在の市道が整備されている点は、中世段階の土地区割が近世を経て近・現代まで影響している可能性を示す事象として大変興味深い。

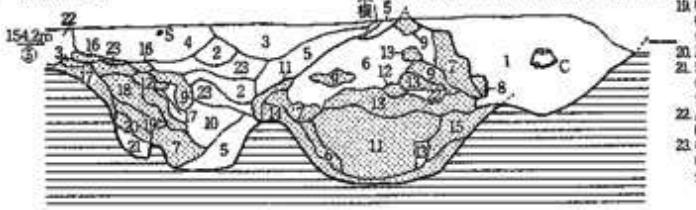
これらの遺構に伴う遺物はかなり少なく、遺構群の時期幅を限定するには心もとない状況であるが、舶載磁器や東播系（神出窯系？）の捏鉢等が散見されることから、現時点ではその上限を12世紀後半から13世紀代と想定し、下限については文明軽石の降下時期に拠って15世紀後半頃とした。ちなみにこの時期幅に収まる当調査区周辺の事例としては、久玉遺跡・第１次調査や松原地区第Ｉ遺跡で検出された大溝を伴う館跡などがあり、当地域一帯に中世前期段階で出現する大規模遺構群の一つとして、今回の方形区画溝を理解することも可能かもしれない。



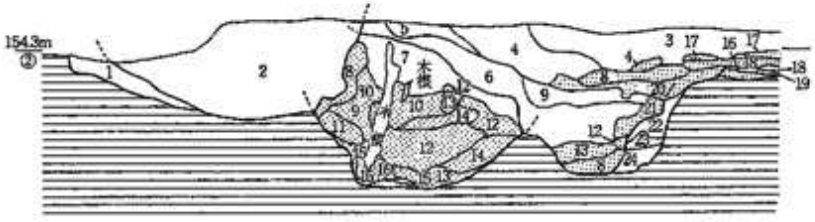
1. 灰黄色砂質シルト層
2. 薩島御池軽石細粒をまばらに含む黒褐色粘質シルト層
3. 薩島御池軽石をまんべんなく含む黒褐色粘質シルト層（全体的に硬化）
4. 薩島御池軽石を多量に含む黒褐色粘質シルト層（全体的に硬化）
5. 黒褐色粘質シルト層（全体的に硬化）
6. 薩島御池軽石細粒をわずかに含む黒褐色粘質シルト層（全体的に硬化）
7. 薩島御池軽石細粒をまばらに含む黒色粘質シルト層（部分的に硬化）
8. 薩島御池軽石ブロックを含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
9. 薩島御池軽石をわずかに含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
10. 黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
11. 黒色粘質シルト層を含む薩島御池軽石ブロック（全体的に硬化）
12. 薩島御池軽石をまんべんなく含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
13. 桜島文明軽石層
14. 薩島御池軽石をまばらに含み、やや褐色がかった黒色シルト層
15. 桜島文明軽石を含む黒褐色粘質シルト層（全体的に硬化）
16. 薩島御池軽石をごくわずかに含む黒褐色粘質シルト層（全体的に硬化）
17. 薩島御池軽石・黒褐色シルトの混土層（全体的に硬化）
18. 薩島御池軽石を多量に含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
19. 薩島御池軽石をわずかに含む黒色シルト層



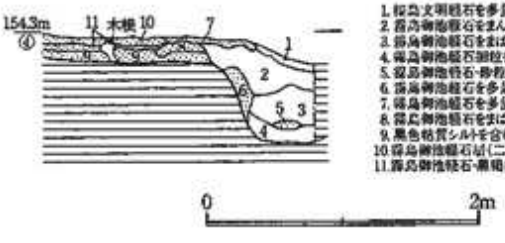
1. 桜島文明軽石をわずかに含む黒褐色粘質シルト層（全体的に硬化）
2. 薩島御池軽石細粒をまばらに含む黒褐色粘質シルト層
3. 薩島御池軽石細粒をまんべんなく含む黒褐色粘質シルト層（全体的に硬化）
4. 薩島御池軽石細粒をわずかに含む黒褐色粘質シルト層（全体的に硬化）
5. 薩島御池軽石細粒をまばらに含む黒褐色粘質シルト層（全体的に硬化）
6. 黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
7. 薩島御池軽石細粒をまんべんなく含む黒色粘質シルト層（部分的に硬化）
8. 薩島御池軽石層を多量に含む黒色粘質シルト層（部分的に硬化）
9. 薩島御池軽石層の漸移層（全体的に硬化）
10. 薩島御池軽石をまばらに含み、やや褐色がかった黒色シルト層
11. 黒色シルトを含む桜島文明軽石層（全体的に硬化）
12. 薩島御池軽石・黒色シルトの混土層（全体的に硬化）
13. 薩島御池軽石をごくわずかに含む黒褐色粘質シルト層（全体的に硬化）
14. 薩島御池軽石をまばらに含む黒褐色粘質シルト層
15. 黒色シルトを含む薩島御池軽石ブロックの混土層
16. 黒褐色粘質シルト層（全体的に硬化）
17. 薩島御池軽石を多量に含む黒褐色粘質シルト層
18. 黒色シルト層
19. 黒色粘質土層
20. 薩島御池軽石を多数に含む黒褐色粘質シルト・黒色シルトの混土層
21. 薩島御池軽石ブロック
22. 薩島御池軽石をわずかに含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
23. やや褐色がかった黒色シルト・薩島御池軽石ブロックの混土層



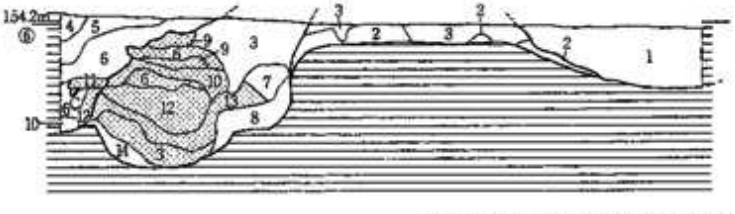
1. 小礫を含む灰黄色砂質シルト層
2. 桜島文明軽石を含む黒色シルト層（部分的に硬化）
3. 桜島文明軽石層
4. 桜島文明軽石を含む褐粘質黄色シルト層
5. 薩島御池軽石をまんべんなく含む黒色粘質シルト層
6. 薩島御池軽石をまばらに含む黒色粘質シルト層
7. 薩島御池軽石をまばらに含む黒褐色粘質シルト層（全体的に硬化）
8. 薩島御池軽石をまばらに含む黒褐色シルト層（全体的に硬化）
9. 薩島御池軽石をわずかに含み、やや褐色がかった黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
10. 薩島御池軽石細粒をまんべんなく含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
11. 黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
12. 薩島御池軽石をごくわずかに含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
13. 薩島御池軽石細粒をまばらに含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
14. 薩島御池軽石・黒色粘質シルト層の混土層（全体的に硬化）
15. 薩島御池軽石細粒を多量に含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
16. 薩島御池軽石・桜島文明軽石の混土層（全体的に硬化）
17. 薩島御池軽石をわずかに含む黒褐色粘質シルト層（全体的に硬化）
18. 薩島御池軽石細粒をまんべんなく含む黒褐色シルト層（全体的に硬化）
19. 薩島御池軽石細粒をわずかに含む黒色シルト層
20. 黒色粘質土層
21. 薩島御池軽石細粒を多量に含む黒色シルト層
22. 黒色シルト層（部分的に硬化）
23. 桜島文明軽石を含む黒色シルト層（部分的に硬化）



1. 黒色シルト・薩島御池軽石の混土層（表面は鉄分が沈着し、全体的に硬化）
2. 小礫を含む灰黒色砂質シルト層
3. 灰白色砂質土層
4. 桜島文明軽石を含む黒色シルト層（部分的に硬化）
5. 桜島文明軽石を含む褐粘質黒色シルト層
6. 薩島御池軽石をまんべんなく含む黒色粘質シルト層
7. 薩島御池軽石をまばらに含む黒色粘質シルト層
8. 薩島御池軽石をまばらに含む黒褐色粘質シルト層（全体的に硬化）
9. 薩島御池軽石をわずかに含み、やや褐色がかった黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
10. 薩島御池軽石細粒をまんべんなく含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
11. 薩島御池軽石細粒をまんべんなく含み、やや褐色がかった黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
12. 黒色粘質シルトブロック（全体的に硬化）
13. 薩島御池軽石をごくわずかに含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
14. 薩島御池軽石細粒をまばらに含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
15. 薩島御池軽石細粒を多量に含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
16. 薩島御池軽石・黒色粘質シルトの混土層（全体的に硬化）
17. 薩島御池軽石・桜島文明軽石の混土層（全体的に硬化）
18. 黒色シルトを含む薩島御池軽石ブロック（全体的に硬化）
19. 薩島御池軽石細粒・黒色シルトの混土層（全体的に硬化）
20. 薩島御池軽石をわずかに含む黒褐色粘質シルト層（全体的に硬化）
21. 薩島御池軽石細粒をまんべんなく含む黒褐色シルト層（全体的に硬化）
22. 薩島御池軽石細粒をわずかに含む黒色シルト層
23. 黒色粘質土層
24. 薩島御池軽石細粒を多量に含む黒色シルト層



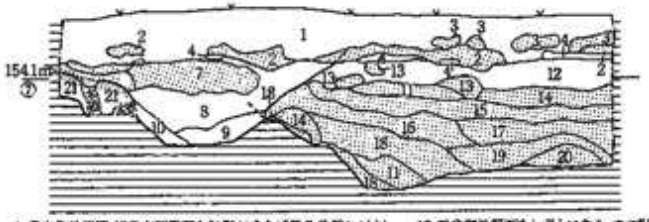
1. 桜島文明軽石を多量に含む黒色シルト層
2. 薩島御池軽石をまんべんなく含む黒褐色粘質シルト層
3. 薩島御池軽石をまばらに含む黒褐色粘質シルト層
4. 薩島御池軽石細粒をごくわずかに含む黒褐色粘質シルト層
5. 薩島御池軽石・骨粒を含む黒褐色シルト層
6. 薩島御池軽石を多量に含む黒褐色粘質シルト層
7. 薩島御池軽石を多量に含む黒色粘質シルト層
8. 薩島御池軽石をまばらに含む黒色粘質シルト層
9. 黒色粘質シルトを含む薩島御池軽石層
10. 薩島御池軽石層（二次堆積層）
11. 薩島御池軽石・黒褐色シルトの混土層



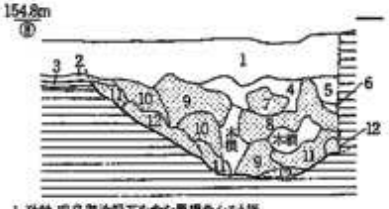
1. 小礫・薩島御池軽石ブロックを含む灰黒色砂質シルト層
2. 薩島御池軽石層の漸移層
3. 薩島御池軽石細粒を多量に含む黒色粘質シルト層（部分的に硬化）
4. 桜島文明軽石・黒色シルトの混土層
5. 桜島文明軽石を多量に含む黒色シルト層
6. 薩島御池軽石をまばらに含む黒褐色粘質シルト層（部分的に硬化）
7. 薩島御池軽石をまんべんなく含む黒色粘質シルト層
8. 薩島御池軽石を多量に含み、やや褐色がかった黒色シルト層
9. 骨粒ブロック・薩島御池軽石を含む黒褐色粘質シルト層（全体的に硬化）
10. 薩島御池軽石細粒をごくわずかに含む黒褐色粘質シルト層（部分的に硬化）
11. 黒褐色粘質シルト層（全体的に硬化）
12. 黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
13. 薩島御池軽石細粒をわずかに含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
14. 薩島御池軽石・黒色シルトの混土層

※アミかけ部分は、硬化体の範囲を示す。

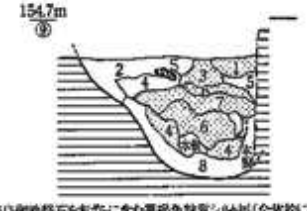
第35図　久玉遺跡（第8次調査）A地区土層断面図①



1. 霧島御池軽石・桜島文明軽石をまばらに含む灰黒色砂質シルト層
2. 霧島御池軽石をわずかに含み、やや褐色がかった黒色シルト層（全体的に硬化）
3. やや褐色がかった黒色シルト層（全体的に硬化）
4. 砂粒を多量に含む黒褐色シルト層
5. 霧島御池軽石をまんべんなく含む黒褐色シルト層（全体的に硬化）
6. 霧島御池軽石をまばらに含む黒褐色シルト層（全体的に硬化）
7. 霧島御池軽石をまばらに含む粗粒質黒色シルト層（全体的に硬化）
8. 霧島御池軽石をごくわずかに含む弱粘質黒色シルト層
9. 粗粒質黒色シルト層
10. 霧島御池軽石を多量に含む黒褐色シルト層
11. 霧島御池軽石をまばらに含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
12. 霧島御池軽石をわずかに含み、やや褐色がかった黒色粘質シルト層
13. 霧島御池軽石をまばらに含み、やや褐色がかった黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
14. 霧島御池軽石をごくわずかに含み、やや褐色がかった黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
15. やや褐色がかった黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
16. 霧島御池軽石細粒をまばらに含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
17. 霧島御池軽石細粒をまんべんなく含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
18. 霧島御池軽石細粒を多量に含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
19. 霧島御池軽石をまんべんなく含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
20. 霧島御池軽石ブロックを多量に含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
21. 黒色シルトを含む霧島御池軽石ブロック（全体的に硬化）

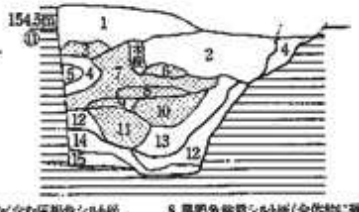


1. 砂粒・霧島御池軽石を含む黒褐色シルト層
2. 霧島御池軽石をごくわずかに含む黒色シルト層
3. 霧島御池軽石をまんべんなく含む黒色シルト層
4. やや褐色がかった黒色シルト層
5. 桜島文明軽石を多量に含む黒褐色シルト層
6. 黒褐色シルト層
7. 霧島御池軽石をごくわずかに含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
8. 黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
9. 霧島御池軽石をまばらに含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
10. 霧島御池軽石をまんべんなく含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
11. 霧島御池軽石を多量に含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
12. 霧島御池軽石・黒色粘質シルトの混土層（全体的に硬化）

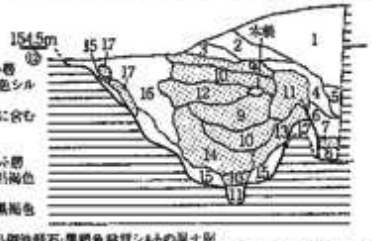


1. 霧島御池軽石をまばらに含む黒褐色粘質シルト層（全体的に硬化）
2. 霧島御池軽石をまんべんなく含む褐色粘質シルト層
3. 霧島御池軽石をまばらに含む褐色粘質シルト層（全体的に硬化）
4. 霧島御池軽石をわずかに含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
5. 桜島文明軽石をわずかに含む黒褐色シルト層（全体的に硬化）
6. 黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
7. 霧島御池軽石細粒をごくわずかに含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
8. 霧島御池軽石を多量に含み、やや褐色がかった黒色粘質シルト層

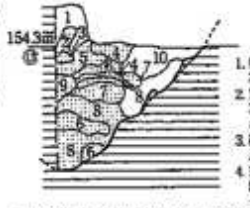
1. コンクリート塊・霧島御池軽石を含む灰黒色砂質シルト層
2. 霧島御池軽石層の崩落層
3. 霧島御池軽石をまばらに含む黒色粘質シルト層（部分的に硬化）
4. 桜島御池軽石をわずかに含む黒色粘質シルト層
5. 黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
6. 霧島御池軽石細粒をごくわずかに含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
7. 黒褐色粘質シルト層（全体的に硬化）



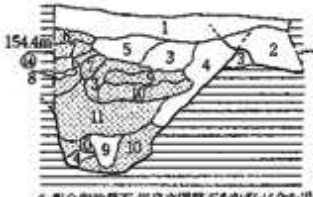
1. 霧島御池軽石・桜島文明軽石をまんべんなく含む灰褐色シルト層
2. 桜島御池軽石を多量に含む黒色シルト層
3. 霧島御池軽石・桜島文明軽石をごくわずかに含む黒褐色シルト層（全体的に硬化）
4. 霧島御池軽石・桜島文明軽石・黒褐色シルトの混土層
5. 黒褐色シルトを含む桜島文明軽石ブロック
6. 霧島御池軽石をまばらに含み、やや褐色がかった黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
7. 霧島御池軽石細粒をまんべんなく含む黒色粘質シルト層
8. 黒褐色粘質シルト層（全体的に硬化）
9. 霧島御池軽石をごくわずかに含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
10. 霧島御池軽石を多量に含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
11. 霧島御池軽石を多量に含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
12. 霧島御池軽石・黒褐色粘質シルトの混土層
13. 霧島御池軽石をまんべんなく含む黒色シルト層
14. 桜島御池軽石をごくわずかに含む黒色粘質土層
15. 黒褐色シルトを含む霧島御池軽石層



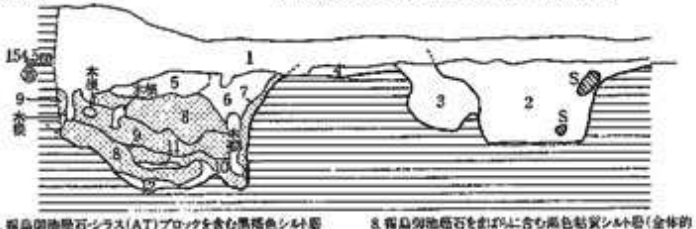
1. 砂粒・霧島御池軽石を含む黒褐色シルト層
2. 桜島文明軽石をまんべんなく含む黒褐色シルト層
3. 霧島御池軽石・桜島文明軽石をまばらに含む黒褐色シルト層
4. 黒褐色シルト層
5. 桜島文明軽石を多量に含む黒褐色シルト層
6. 下半部に桜島文明軽石を多量に含む黒褐色シルト層
7. 霧島御池軽石細粒をまんべんなく含む黒褐色粘質シルト層（全体的に硬化）
8. 霧島御池軽石・黒褐色粘質シルトの混土層
9. 霧島御池軽石をごくわずかに含み、やや褐色がかった黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
10. 霧島御池軽石をまばらに含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
11. 黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
12. 霧島御池軽石をごくわずかに含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
13. 霧島御池軽石をまばらに含む黒色シルト層（全体的に硬化）
14. 桜島御池軽石をまんべんなく含む黒色シルト層
15. 霧島御池軽石を多量に含む黒褐色粘質シルト層
16. 桜島御池軽石をまんべんなく含む黒色シルト層
17. 黒褐色シルトを含む霧島御池軽石ブロック（全体的に硬化）



1. 桜島御池軽石・桜島文明軽石を含む灰褐色シルト層
2. 霧島御池軽石・桜島文明軽石をわずかに含む黒褐色シルト層（全体的に硬化）
3. 砂粒ブロックを含む黒褐色シルト層
4. 霧島御池軽石をごくわずかに含む黒褐色粘質シルト層（全体的に硬化）
5. 桜島文明軽石をわずかに含む黒褐色粘質シルト層（全体的に硬化）
6. 黒褐色粘質シルト層（全体的に硬化）
7. 霧島御池軽石をまばらに含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
8. 桜島御池軽石をまばらに含む黒褐色粘質シルト層（全体的に硬化）
9. 黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
10. 霧島御池軽石をまんべんなく含む黒色粘質シルト層



1. 霧島御池軽石・桜島文明軽石をまばらに含む黒褐色シルト層
2. 霧島御池軽石・桜島文明軽石をわずかに含む灰褐色シルト層
3. 霧島御池軽石をまばらに含む黒色粘質シルト層（部分的に硬化）
4. 霧島御池軽石をわずかに含む黒褐色粘質シルト層
5. 霧島御池軽石・桜島文明軽石をまばらに含む黒色シルト層
6. 霧島御池軽石をわずかに含む黒褐色シルト層（部分的に硬化）
7. 黒褐色粘質シルト層（全体的に硬化）
8. 砂粒ブロックを含む黒褐色粘質シルト層
9. 黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
10. 霧島御池軽石を多量に含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
11. 霧島御池軽石をまんべんなく含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）

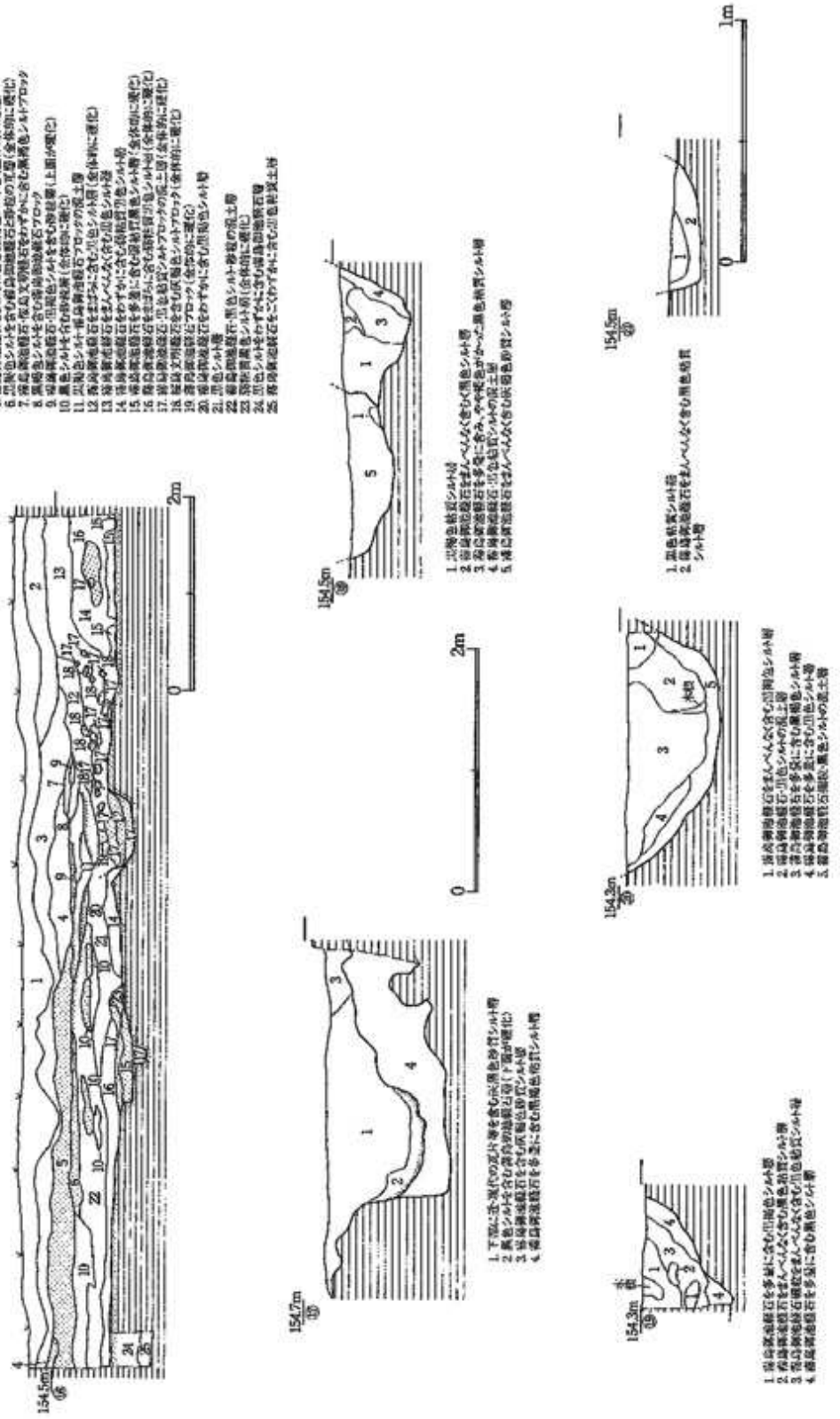


1. 霧島御池軽石・シラス（AT）ブロックを含む黒褐色シルト層
2. 霧島御池軽石を含む灰褐色砂質シルト層
3. 霧島御池軽石を多量に含む黒褐色シルト層（木根?）
4. 霧島御池軽石をわずかに含む黒色シルト層
5. 霧島御池軽石をまんべんなく含む黒色シルト層
6. 霧島御池軽石をまばらに含む黒色シルト層
7. 霧島御池軽石を多量に含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
8. 霧島御池軽石をまばらに含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
9. 霧島御池軽石をごくわずかに含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
10. 黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
11. 砂粒・霧島御池軽石を含む黒色粘質シルト層
12. 霧島御池軽石を多量に含む黒褐色粘質シルト層

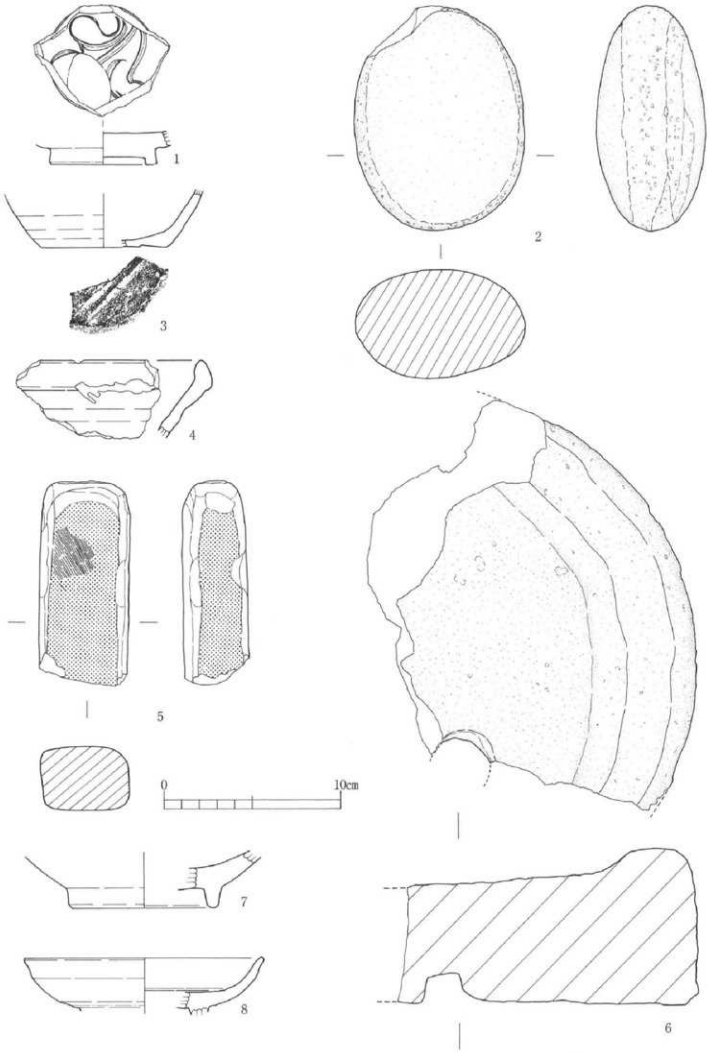
0　2m

※アミかけ部分は、硬化体の範囲を示す。

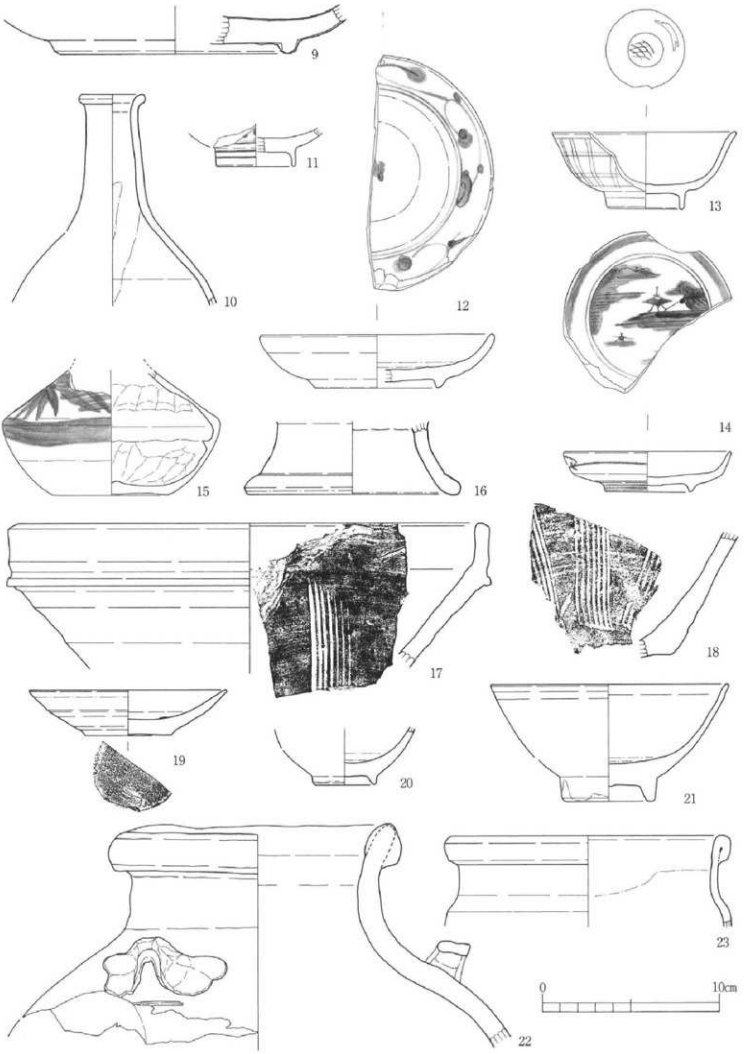
第36図　久玉遺跡（第8次調査）A地区土層断面図②



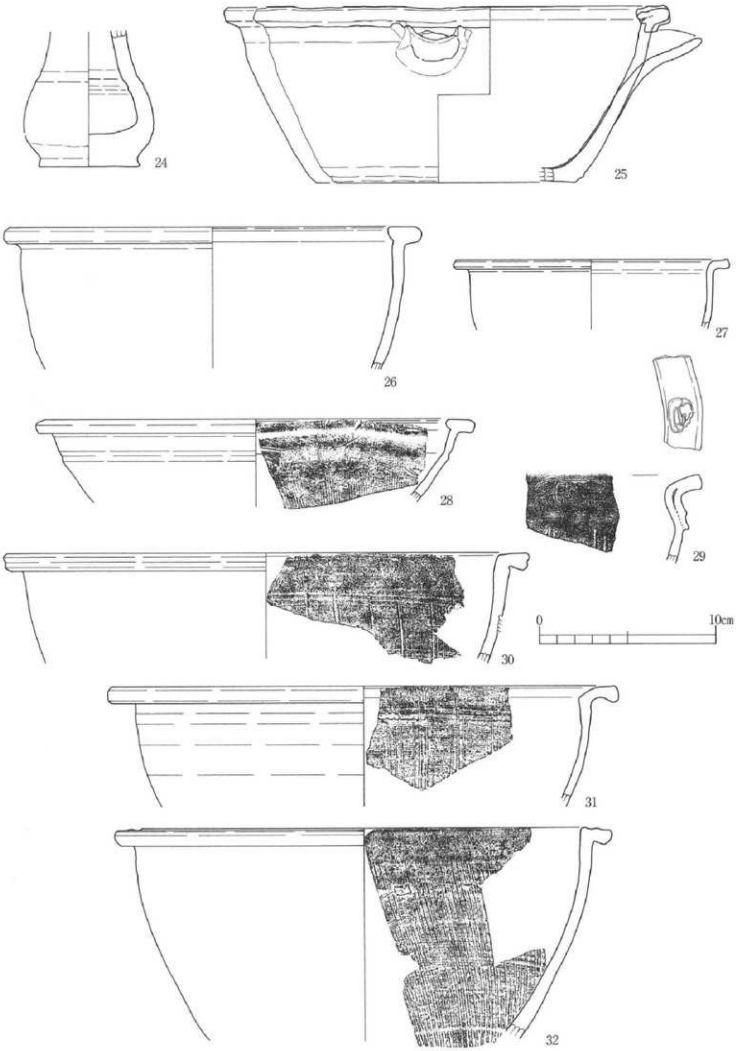
第37図　久玉遺跡（第８次調査）A地区土層断面図③



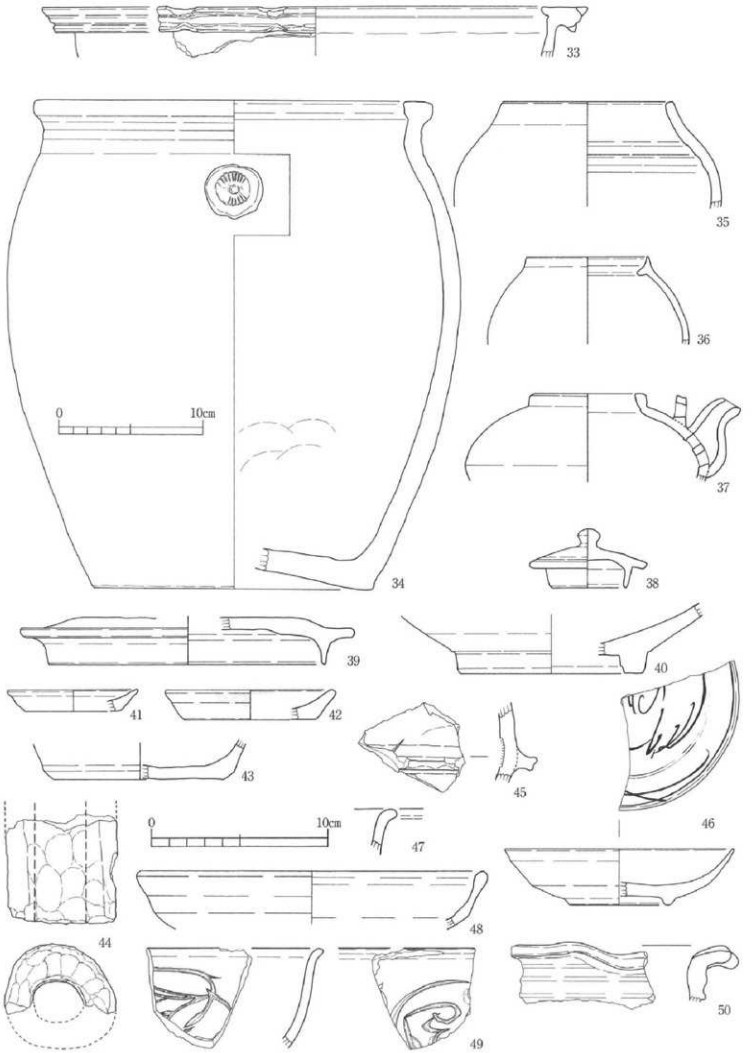
第38図　久玉遺跡（第８次調査）A地区出土遺物実測図①



第39図　久玉遺跡（第８次調査）A地区出土遺物実測図②



第40図　久玉遺跡（第８次調査）A地区出土遺物実測図③



第41図　久玉遺跡（第８次調査）A地区出土遺物実測図④

遺物番号	出土地区	遺構	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	特徴 備考
1	一括	SD1-1	中層	青磁	碗	−	5.8	−	見込:「片刃彫花文」蛇付〜高台内:無釉 龍泉窯系 12C後半〜13C初
2	D-2	〃	〃	石器	磨石?	12.8	9.7	6.2	硬質砂岩製
3	A-2	〃	〃	土師器	坏	−	7.0	−	底部:切り離し技法不明・板状圧痕 全体摩耗
4	〃	SD1-2	中層	須恵質	捏鉢	−	−	−	口縁外面:自然釉 口縁屈曲部:内外面とも浅い凹み有り 東播系(神出系?) 12C末〜13C前半
5	〃	SD1	上層	石器	砥石	−	−	−	
6	一括	〃	〃	〃	石臼	−	−	−	
7	〃	〃	中層	青磁	碗	−	8.0	−	高台内:鉄泥漿塗布 龍泉窯系 15C代
8	〃	〃	〃	白磁	皿	13.6	−	−	高台部:無釉 型打成形?
9	〃	SD2	一括	青磁	鉢	−	13.8	−	高台内:無釉・鉄泥漿塗布・チャツの溶着痕 釉厚く濃緑色 内面:1単位2条の櫛目状除刷 肥前系(波佐見?) 17C後半?
10	〃	〃	〃	〃	瓶	3.4	−	−	内面頸部以下:無釉 外面頸部以下:櫛目状除刷 肥前系?
11	〃	〃	〃	染付	碗	−	4.5	−	畳付:無釉 肥前系 18C前半?
12	〃	〃	〃	〃	皿	13.4	6.8	3.0	見込:蛇ノ目釉剥ぎ・「コンニャク印判五弁花文」・アルミナ砂痕 内面:「菊唐草文」 畳付:無釉 肥前系 18C後半〜19C初
13	〃	〃	〃	〃	碗	10.6	4.0	4.4	見込:蛇ノ目釉剥ぎ・重ね焼きの釉溶着痕有り・「斜格子文」 外面:「二重格子文」 肥前系(波佐見) 19C前半
14	〃	〃	〃	〃	皿	9.6	4.8	2.4	畳付:無釉 外面:「折松葉文」 内面:「山水楼閣文」 南九州系? 19C代
15	〃	〃	〃	〃	瓶	−	6.4	−	胴部下半〜底部:無釉 外面:「菊花文」 内面:ケズリ痕明瞭 薩摩系(平佐系?) 18C末〜19C
16	〃	〃	〃	青磁	瓶	−	11.8	−	畳付:無釉 掘部:沈線 貫入多く釉青味強い
17	〃	〃	〃	陶器	擂鉢	27.4	−	−	内面:1単位7条の櫛目 備前焼 16C前半
18	〃	〃	〃	〃	〃	−	−	−	内面:1単位7条の櫛目 備前焼? 16C前半?
19	〃	〃	〃	〃	皿	11.2	4.9	2.6	外面:無釉 見込:雑石組粒目積痕2ヶ所・重ね焼きの釉溶着痕有り 底部:糸切り(右回転) 薩摩系(元立院系?) 17C後半〜18C前半?
20	〃	〃	〃	〃	碗	−	3.3	−	高台内:無釉 見込:蛇ノ目釉剥ぎ 内面:炭化物膠着(灯明器として使用?) 薩摩系 18C後半〜19C
21	〃	〃	〃	〃	〃	13.6	5.3	6.65	見込:蛇ノ目釉剥ぎ 高台部:無釉 高台内:兜巾状 施釉時の指掛け痕3ヶ所 薩摩系(龍門司系?) 19C代
22	〃 表採	〃	〃	〃	三耳壺?	16.7	−	−	口縁部:アルミナ砂目積痕4ヶ所 薩摩系(苗代川系?) 18C後半〜19C前半
23	一括	〃	〃	〃	壺	15.4	−	−	内面口縁以下:無釉 外面:刻み目3ヶ所 薩摩系(龍門司系?) 19C代
24	〃	〃	〃	〃	瓶	−	5.7	−	外面:白化粧土 底部:糸切り(右回転) 薩摩系
25	〃	〃	〃	〃	注口付鉢	26.6	15.8	9.9	口唇:無釉・貫目積痕1ヶ所 底部:無釉・胎土目の剥離痕 口縁:断面「T字形」・内面に折返しの凹線 薩摩系(苗代川系?)
26	〃	〃	〃	〃	鉢	23.8	−	−	口唇:無釉 口縁:断面「T字形」・内面に折返しの凹線 薩摩系
27	〃	〃	〃	〃	〃	15.8	−	−	口唇:無釉 口縁:断面「逆L字形」 植木鉢か? 薩摩系
28	〃	〃	〃	〃	擂鉢	25.0	−	−	口唇:無釉 口縁:断面「T字形」・内面に折返しの凹線 内面:1単位5条の櫛目 外面口縁下:凹線 薩摩系
29	〃	〃	〃	〃	〃	−	−	−	口唇:無釉・貫目積痕1ヶ所 口縁:断面「逆L字形」・外面折返し 外面口縁下:突帯状の肥厚部 薩摩系
30	〃	〃	〃	〃	〃	29.6	−	−	口唇:無釉 口縁:断面「逆L字形」 外面口縁下:凹線 薩摩系
31	〃	〃	〃	〃	〃	28.7	−	−	口唇:無釉 口縁:断面「逆L字形」 内・外面:ロクロ痕明瞭 内面:1単位4ないし5条の櫛目 薩摩系
32	〃	〃	〃	〃	〃	28.2	−	−	口唇:無釉・凹線2条巡る 口縁:断面「逆L字形」 内面:1単位7条の櫛目 内・外面:ロクロ痕明瞭 薩摩系
33	〃	〃	〃	〃	甕	31.0	−	−	口唇:無釉・15mm角の胎土目積痕 口縁:断面「T字形」・内面折返しによる凹線 口縁端部:等間隔にリボン状につまむ・凹線2条巡る 薩摩系
34	〃	〃	〃	〃	〃	28.4	19.6	35.0	口唇:無釉 底部:無釉・20mm角の胎土目積痕 菊花様の貼付 薩摩系
35	〃	〃	〃	〃	土瓶?	9.8	−	−	口唇:無釉 内面:ロクロ痕明瞭 薩摩系
36	〃	〃	〃	〃	〃?	6.9	−	−	口唇〜内面:無釉 外面:鮫肌釉 薩摩系 18C末〜19C
37	〃	〃	〃	〃	〃	6.7	−	−	口唇〜内面口縁・内面下半:無釉 外面下半:無釉・スス付着 薩摩系
38	〃	〃	〃	〃	〃(蓋)	4.3	6.8	3.3	底部〜反り部〜天井部:無釉 薩摩系
39	〃	〃	〃	〃	〃(〃)	15.6	19.0	−	底部〜反り部〜天井部:無釉 つまみ部:リボン状? 薩摩系
40	〃	〃	〃	〃	鐙?	−	10.4	−	内面:鉄絵 外面:鉄泥漿
41	〃	〃	〃	土師器	小皿	7.2	5.4	1.2	底部:切り離し不明

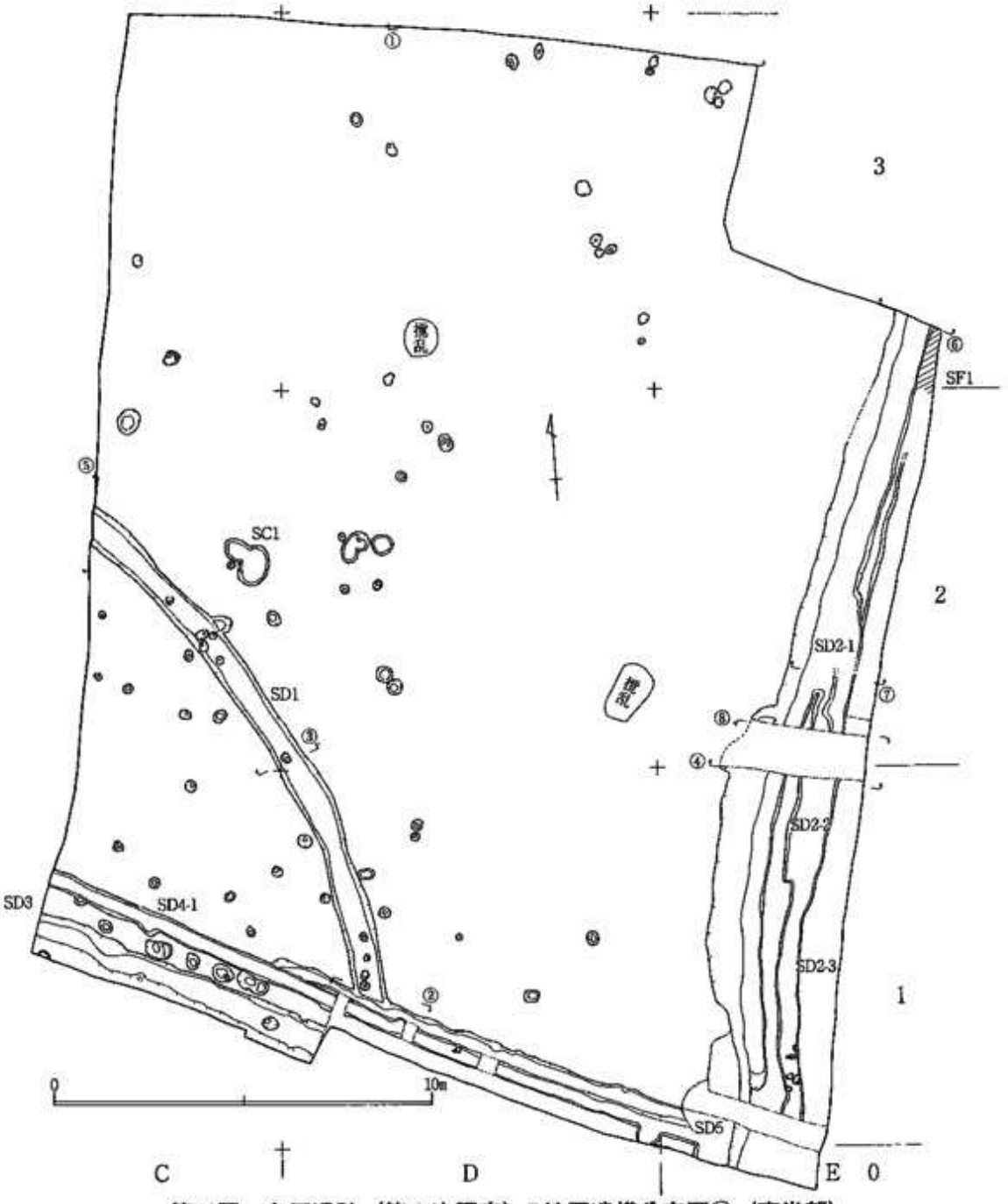
表6　久玉遺跡第8次調査A地区出土遺物観察表①

遺物番号	出土地区	遺構	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	特徴備考
42	一括	SD2	一括	土師器	小皿	9.2	7.5	1.7	底部:糸切り? 口縁:スス付着灯明皿か?
43	〃	〃	〃	〃	坏	−	8.4	−	ヘラ切り後に工具ナデか?
44	〃	〃	下層	土製品	ふいご羽口	−	−	−	直径6.3cm 孔径2.9cm
45	〃	〃	〃	瓦質土器	羽釜?	−	−	−	鍔部の貼付痕明瞭に残る
46	B-2	PIT	中層	染付	皿	13.2	5.9	3.2	染付:無釉・アルミナ付着見込「折松紫文」 肥前系18C末〜19C初
47	A-2	包含層	Ⅱ層	青磁	端反碗	−	−	−	龍泉窯系15C代
48	〃	〃	〃	土師器	焙烙	20.0	−	−	外面:スス付着
49	〃	〃	Ⅰ層	青磁	端反碗	−	−	−	龍泉窯系14C代
50	C-1	SC11	上層	陶器	擂鉢	−	−	−	口縁:無釉・貝目積痕1ヶ所 口縁:断面「逆L字形」・外面折返し・片口? 外面口縁下:突帯状の肥厚部 薩摩系

表7　久玉遺跡第8次調査A地区出土遺物観察表②

灰黒色砂質シルトを埋土とするSD2やSD4は近世の溝状遺構で、SD2は第7次調査・B地区で検出したSD2と同一の溝と考えている。この溝でも切り合い関係が認められ、2条の溝(SD2-1・2)に細分される。SD2-1は中世の遺構であるSD1-1〜3と並走しながら西に進み、調査区北西部付近でSD1-1に合流して、これを切りながら南折している。断面形は箱形ないし「U」字状を呈しており、埋土中に硬化体のブロックは認められないが、礫群を伴わない点や遺構規模などから判断して、第7次調査・B地区のSD2-1に連結すると考えられる。第7次調査・B地区のSD2-1も調査区東側で南折していることから、これらの溝が一体となって両屈曲部間(東西間)約62mの区画溝として機能していた可能性があり、第2〜5次調査で確認した大型建物跡を伴う屋敷地や、第7次調査・A地区のSD3、第6次調査・D地区の8号溝、第4次調査・D地区の5号溝が連結して区画する屋敷地などと同規模の屋敷地が隣接して存在していたことも想定される。なお、SD2-2は不整「U」字形の溝で、SD2-1に切られており、西走してSD4との合流部付近で消失している。こうした溝状遺構からは、17世紀後半〜19世紀代の国産陶磁器類が出土しており、第7・8次調査の各調査区で検出した近世の溝状遺構内出土遺物の年代幅と概ね合致している。ただし、今回の調査で検出したSD2-1・2にはやや古手(17世紀代)の遺物が含まれており、時期的に若干先行する傾向が認められることに加え、出土陶磁器類と礫群の混在した廃棄状況も認められないことから、他の遺構との機能的な差異についても検討する必要があるかもしれない。

なお、SD2-1の南側、いわゆる屋敷地の内区部分では近世の柱穴を複数検出しているが、掘立柱建物跡として確認できたのはSB1・2の2軒のみである。2軒とも調査区外に広がっているためその全体規模は不明であるが、SB1の東西棟軸、SB2の南北棟軸がそれぞれSD2-1の方向軸と合致していることから、時期差は当然想定されるものの、いずれもSD2-1に区画された屋敷を構成していた建物跡であると考えている。

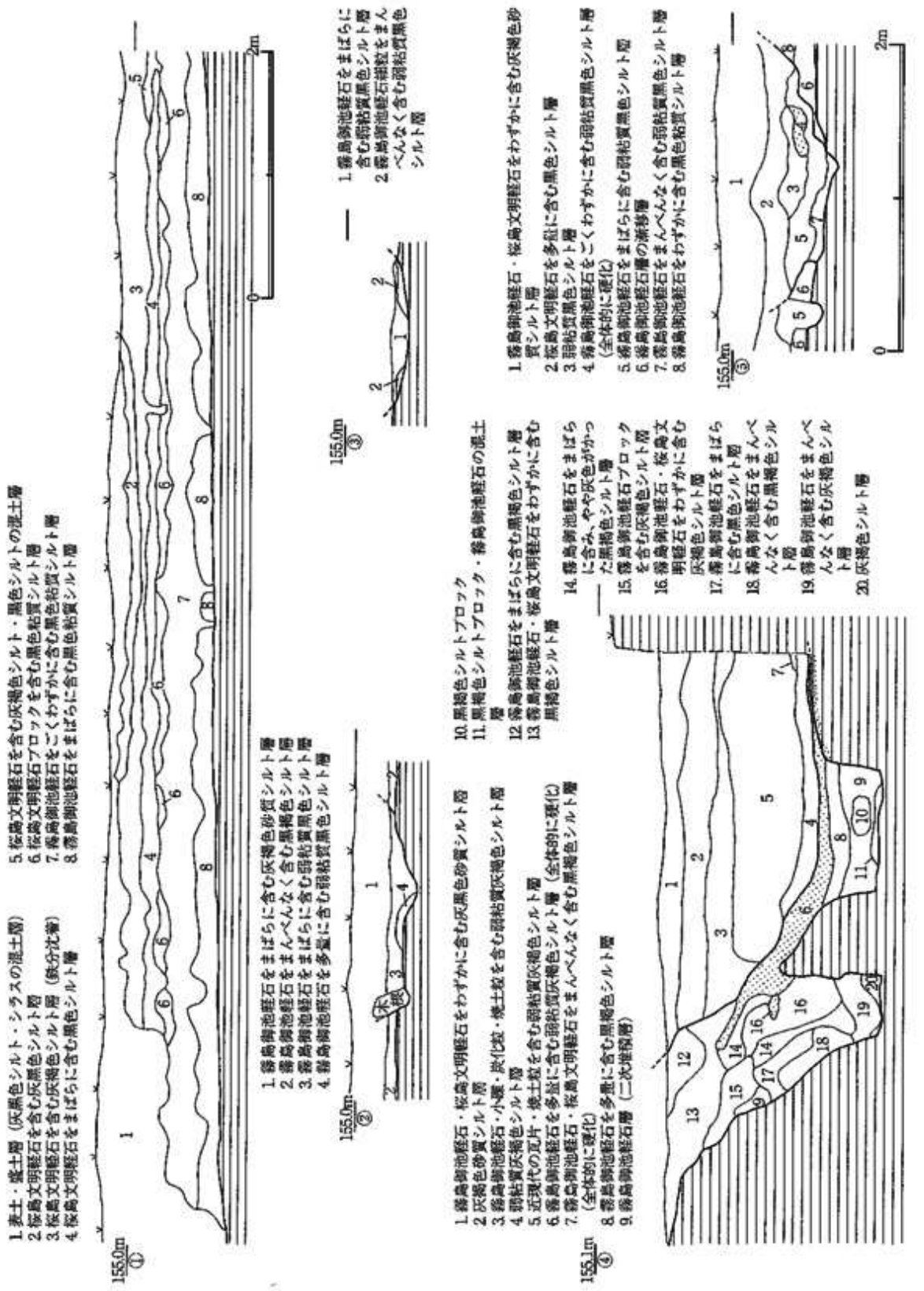


第42図　久玉遺跡（第８次調査）B地区遺構分布図①（東半部）

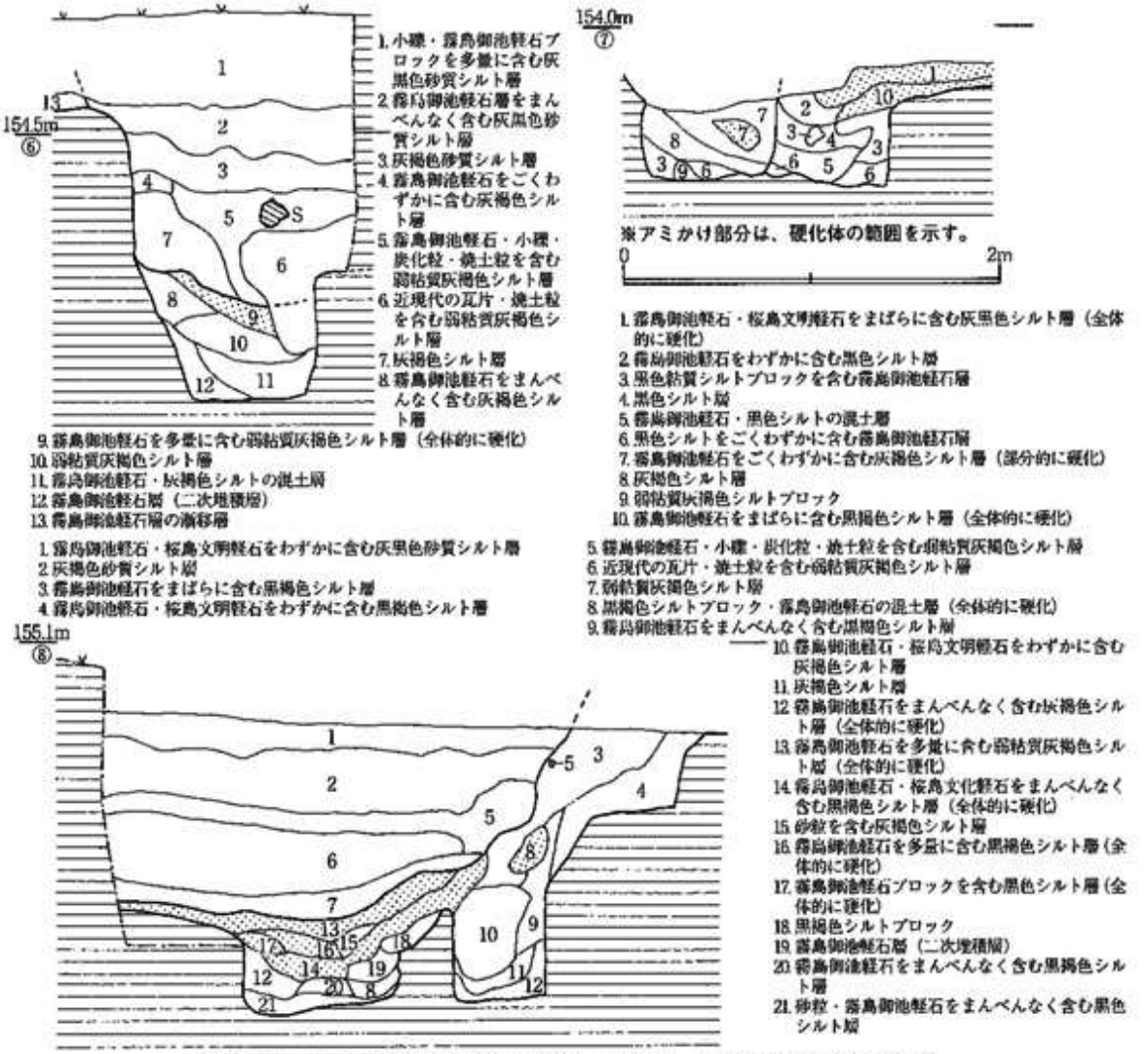
２）B地区［KU8B区］の概要　　**［第42図～第49図，表８，図版８］**

KU8B区は、第２次調査・Ａ地区と第３次調査・Ａ地区の東側、第４次調査・Ｃ地区の南側に位置している。調査は、廃土処理の関係で対象区域を東西に分割して交互に発掘を実施したため、便宜上それぞれを東半部、西半部と呼称している。調査期間は、平成８年５月９日から同年８月19日までで、最終的な調査面積は約987㎡である。なお、当区の現状は畑地で、文明降下軽石層（第Ⅱ層）から遺構検出面となる御池降下軽石層まで遺存状態は良好であった。

今回の調査では、東西両区域を合わせて、溝状遺構８条、道路状遺構１条、石組遺構１基、

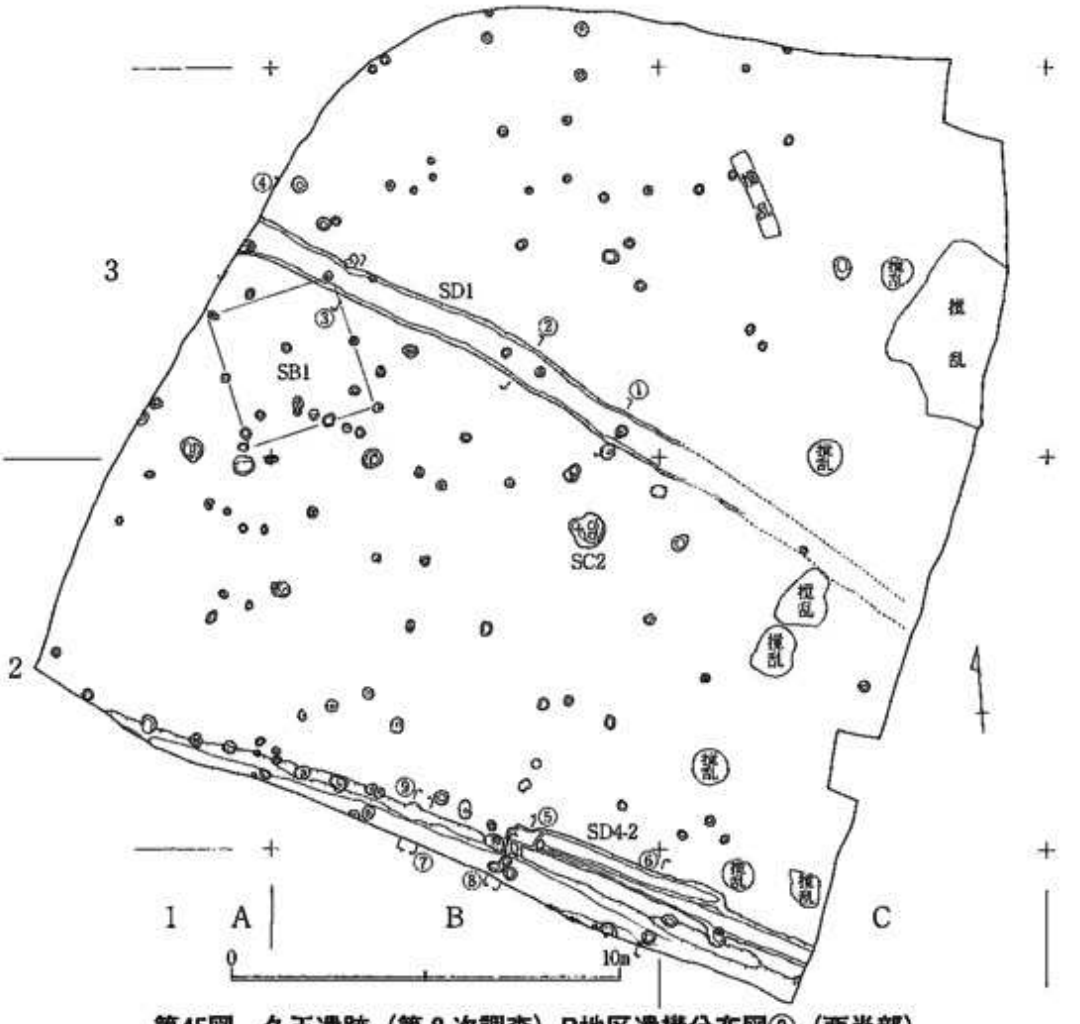


第43図　久玉遺跡（第８次調査）B地区・東半部土層断面図①



第44図　久玉遺跡（第８次調査）B地区・東半部土層断面図②

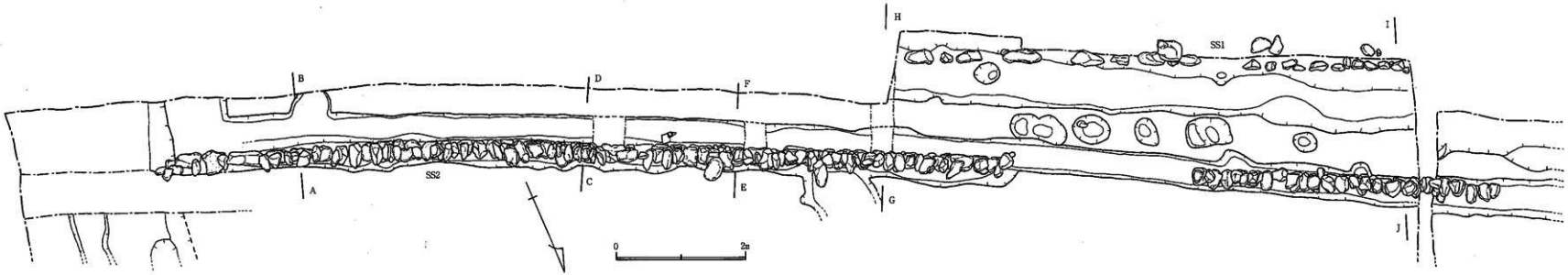
土坑２基、掘立柱建物跡１軒と柱穴群を確認している。まず、中世段階の遺構としては、調査区西側から弧を描きながら東走し、SD4-1・5に切られて消失するSD1、調査区南端部を北西から南東方向に延びるSD3、土坑２基が挙げられる。周辺部の調査結果から、SD1は当地区西側の第２次調査・A地区で検出された３号溝と連接し、その後北に折れて進むと考えられるが、同調査区の１号溝と３号溝の切り合い関係が不明瞭なため、南走して第２次調査・A地区の１号溝から第３次調査・A地区の３号溝へと連なり、最終的に同調査区の４号溝まで到達して消失する可能性も否めない。SD3は、調査区壁際で北側法面部分を確認したため、調査区域外を一部拡張して検出した溝状遺構である。そのため溝の東端部については不明であるが、西側は第３次調査・A地区の４号溝に連結して閉じると推測している。また、断面観察で掘り直しの痕跡が認められることから、複数の溝が切り合っている可能性もある。断面形はSD1が箱形に近い浅めの「U」字状、SD3が一部「V」字に近い深めの「U」字形を呈しており、区画溝としてはSD3の方がしっかりした印象を受ける。両溝とも時期特定につながる共伴遺物は皆無で、

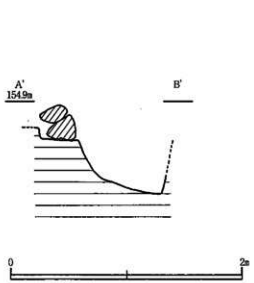


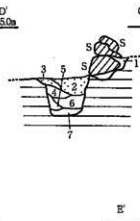
第45図　久玉遺跡（第８次調査）B地区遺構分布図②（西半部）

SD3下層で出土した16世紀代の舶載磁器(4)が唯一の資料である。

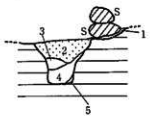
近世の遺構には、SD2-1～3、SD4-1・2、SD5、SF1、SS1・2、SB1、柱穴群がある。SD2-1～3は、第４次調査・C地区で確認された硬化面を伴う溝と同一の遺構と考えられ、断面観察から、法面がやや「V」字に開いた箱形のSD2-1が箱堀状のSD2-2を切って構築され、その埋没過程で浅い「U」字状のSD2-3が掘り込まれたと推察される。その機能については、箱堀状のSD2-1・2が区画を強く意識していると考えられる一方で、SD2-3は基底部に硬化面を伴い、断面が緩い「U」字形を呈していることから、堀底道としての利用を前提に構築されたものと推測している。SD4-1・2とSD5は、SD3を切りながら並走し、途中で消滅する溝群で、これらの埋没後その上部に築かれるのがSS2である。扁平な河原石を２～３段積み上げたこの石組列は、SD2-1に切られる東端からSD4-2の手前の西端部まで約22mを計り、SD3の上部に石組の第１段だけが遺存しているSS1とは本来対になっていたと想像される。また、この２列の石組の間には硬化面の残存も確認されており、当初は幅員約1.8mの通路（道路）の脇に区画の意味を込めて掘られていた小溝（SD4-1・2やSD5）が埋没した後、これらの石組列を同様の目的のために築いた、という位置付けが最も有力であろう。なお、こうした近世の遺構群の年代については、傍証資料が少ないものの、SD2内の出土遺物から18世紀中頃～19世紀代と想定している。





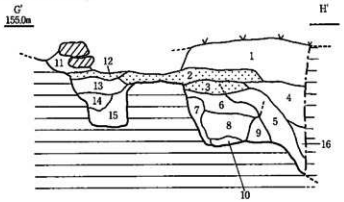


1. 灰オリーブ色砂質シルト層
2. 霧島御池軽石・桜島文明軽石を含む灰褐色シルト層(全体的に硬化)
3. 霧島御池軽石をまんべんなく含む灰褐色シルト層(全体的に硬化)
4. 灰褐色シルトを含む霧島御池軽石ブロック
5. 霧島御池軽石をわずかに含む黒色シルト層
6. 霧島御池軽石をまばらに含む灰褐色シルト層
7. 霧島御池軽石をわずかに含む灰褐色シルト層

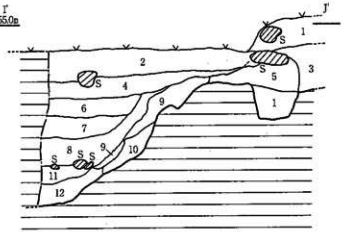


1. 灰オリーブ色砂質シルト層
2. 霧島御池軽石・桜島文明軽石を含む灰褐色シルト層(全体的に硬化)
3. 霧島御池軽石をまばらに含む灰褐色シルト層
4. 霧島御池軽石をわずかに含む黒色シルト層
5. 灰褐色シルトを含む霧島御池軽石ブロック

1. 小瓶・現代の瓦片を多量に含む灰オリーブ色砂質シルト層
2. 霧島御池軽石をまんべんなく含む灰褐色シルト層(全体的に硬化)
3. 霧島御池軽石をまばらに含む弱粘質灰褐色シルト層(全体的に硬化)
4. 霧島御池軽石をわずかに含む弱粘質灰褐色シルト層
5. 霧島御池軽石をまばらに含み、やや灰褐色がかった黒色シルト層
6. 霧島御池軽石をまんべんなく含む黒色シルト層
7. 霧島御池軽石・黒褐色シルトの混土層
8. 霧島御池軽石をわずかに含む黒色シルト層
9. 霧島御池軽石をまんべんなく含む黒色シルト・やや灰褐色がかった黒色シルトの混土層
10. 霧島御池軽石をわずかに含む黒色シルト・黒褐色シルトの混土層
11. 灰オリーブ色砂質シルト層
12. 霧島御池軽石・桜島文明軽石を含む灰褐色シルト層(全体的に硬化)
13. 霧島御池軽石をまばらに含む灰褐色シルト層
14. 霧島御池軽石ブロック・灰褐色シルトの混土層
15. 霧島御池軽石をわずかに含む灰褐色シルト層
16. 弱粘質灰褐色シルト層

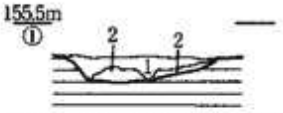


1. 表土層(灰オリーブ色砂質シルト層)
2. 霧島御池軽石・小瓶・シラス(A-T)を含む灰黒色シルト層
3. 霧島御池軽石をまばらに含む灰褐色シルト層
4. 霧島御池軽石をわずかに含む黒褐色シルト層
5. 現代の瓦片を多量に含む灰オリーブ色砂質シルト層
6. 霧島御池軽石・桜島文明軽石をまばらに含む黒色シルト層
7. 黒色シルト層
8. やや褐色がかった黒色シルト層
9. 霧島御池軽石をまばらに含む弱粘質黒色シルト層
10. 霧島御池軽石をまんべんなく含む弱粘質黒色シルト層
11. 砂粒・霧島御池軽石をまばらに含む弱粘質黒色シルト層
12. 砂粒・霧島御池軽石をまばらに含む弱粘質黒色シルト層(鉄分沈着)

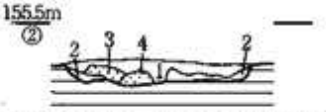


第46図　久玉遺跡（第８次調査）B地区SS-1・2 平面・断面図

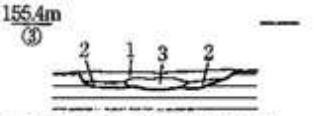
※アミかけ部分は、硬化体の範囲を示す。



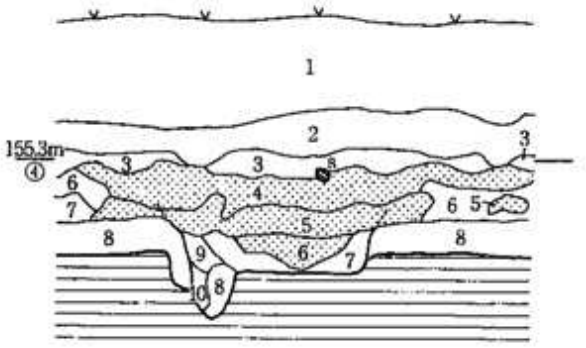
1. 霧島御池軽石をわずかに含む黒色粘質シルト層
2. 黒色粘質シルトを含む霧島御池軽石ブロック



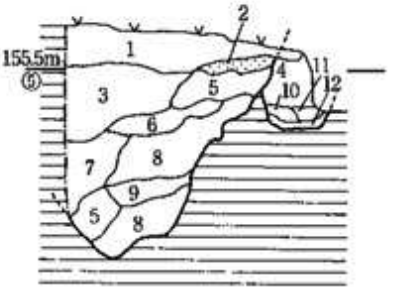
1. 霧島御池軽石をわずかに含む黒色粘質シルト層
2. 黒色粘質シルトを含む霧島御池軽石ブロック
3. 霧島御池軽石をまばらに含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
4. 霧島御池軽石を多量に含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）



1. 霧島御池軽石をごくわずかに含む黒色粘質シルト層
2. 黒色粘質シルトを含む霧島御池軽石ブロック
3. 霧島御池軽石をまばらに含む黒色粘質シルト層

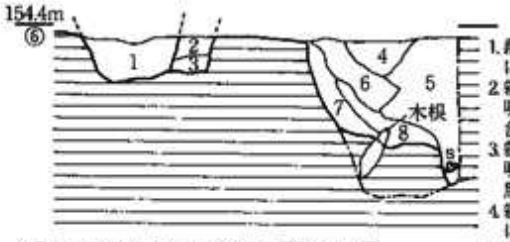


1. 表土層（桜島文明軽石をわずかに含む灰オリーブ色砂質シルト層）
2. 霧島御池軽石・桜島文明軽石をまんべんなく含む黒色シルト層
3. 桜島文明軽石を多量に含む黒色シルト層
4. 霧島御池軽石・桜島文明軽石をごくわずかに含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
5. 霧島御池軽石をまばらに含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
6. 黒色粘質シルト層
7. 霧島御池軽石をごくわずかに含む黒色粘質シルト層
8. 霧島御池軽石をまんべんなく含む黒色粘質シルト層（全体的に硬化）
9. 霧島御池軽石をまばらに含む黒色シルト層
10. 黒色シルト層



1. 表土層（霧島御池軽石・桜島文明軽石を含む黒色シルト層）
2. 桜島文明軽石をまんべんなく含む黒色シルト層（全体的に硬化）
3. 弱粘質黒褐色シルト層
4. 霧島御池軽石・桜島文明軽石をわずかに含む灰オリーブ色砂質シルト層
5. 霧島御池軽石をまばらに含む黒色シルト層
6. 霧島御池軽石をまばらに含む弱粘質黒褐色シルト層
7. 霧島御池軽石をごくわずかに含む弱粘質黒褐色シルト層
8. 霧島御池軽石をまんべんなく含む弱粘質黒色シルト層
9. 霧島御池軽石をわずかに含む弱粘質黒色シルト層
10. 霧島御池軽石を多量に含む黒褐色シルト層
11. 霧島御池軽石をわずかに含む灰褐色シルト層
12. 霧島御池軽石をまばらに含む黒色シルト層

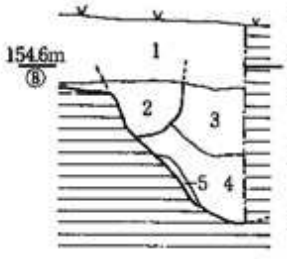
※アミかけ部分は、硬化体の範囲を示す。



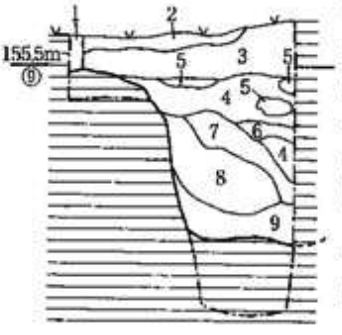
1. 霧島御池軽石をわずかに含む灰黒色シルト層
2. 霧島御池軽石・桜島文明軽石をまんべんなく含む灰褐色シルト層
3. 霧島御池軽石・桜島文明軽石をわずかに含む黒色シルト層
4. 霧島御池軽石をまばらに含む黒色シルト層
5. 霧島御池軽石をわずかに含む弱粘質黒褐色シルト層
6. 霧島御池軽石をまんべんなく含む黒色シルト層
7. 霧島御池軽石ブロックを含む黒色シルト層
8. 霧島御池軽石をわずかに含む弱粘質黒色シルト層

1. 霧島御池軽石・桜島文明軽石をごくわずかに含む弱粘質黒褐色シルト層
2. 霧島御池軽石をまばらに含む黒色シルト層
3. 黒色シルトを含む霧島御池軽石ブロック
4. 霧島御池軽石をまんべんなく含む弱粘質黒色シルト層
5. 霧島御池軽石をわずかに含む弱粘質黒色シルト層
6. 霧島御池軽石を多量に含む弱粘質黒色シルト層
7. 霧島御池軽石をまばらに含む弱粘質黒色シルト層

0　2m

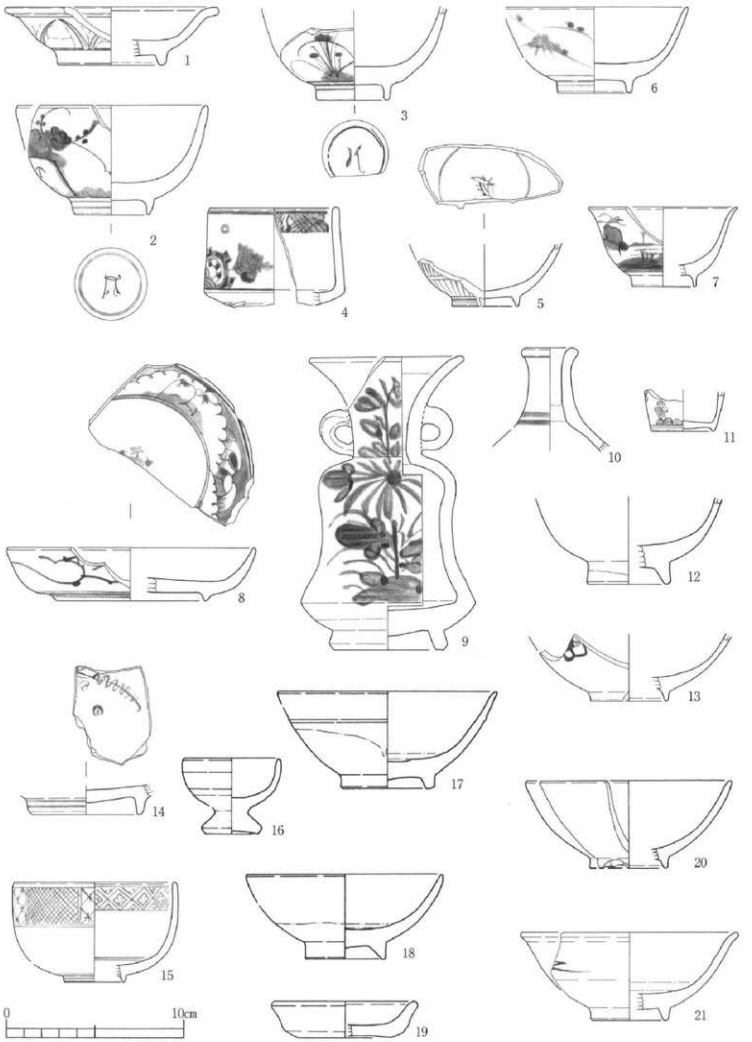


1. 表土層（瓦片を含む灰褐色シルト層）
2. 霧島御池軽石をまばらに含む灰黒色シルト層
3. 霧島御池軽石をまばらに含む弱粘質黒褐色シルト層
4. 霧島御池軽石をまんべんなく含む弱粘質黒色シルト層
5. 霧島御池軽石をまばらに含む弱粘質黒色シルト層

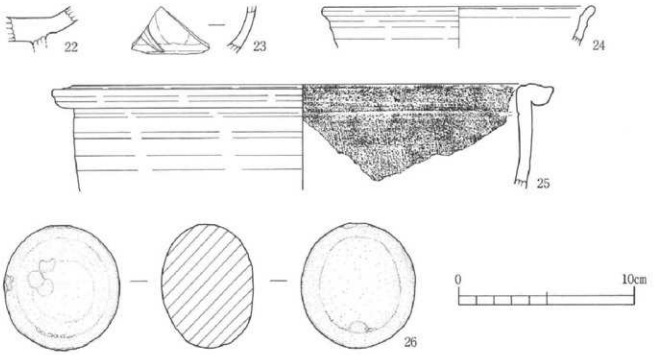


1. 霧島御池軽石・桜島文明軽石をわずかに含む灰オリーブ色砂質シルト層
2. 表土層（霧島御池軽石・桜島文明軽石をまばらに含む灰黒色シルト層）
3. 桜島文明軽石をまんべんなく含む灰褐色シルト層
4. 霧島御池軽石をわずかに含む弱粘質黒褐色シルト層
5. 黒色シルトブロック
6. 弱粘質黒褐色シルト層
7. 霧島御池軽石をわずかに含む黒色シルト層
8. 霧島御池軽石をまんべんなく含む弱粘質黒色シルト層
9. 霧島御池軽石を多量に含む弱粘質黒色シルト層

第47図　久玉遺跡（第８次調査）B地区・西半部　土層断面図



第48図　久玉遺跡（第８次調査）B地区出土遺物実測図①



第49図　久玉遺跡（第８次調査）B地区出土遺物実測図②

遺物番号	出土地区	遺構	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	特徴 備考
1	一括	SD2	一括	青磁	坏	12.2	6.1	3.3	外面:連弁文 高台内:無釉　龍泉窯系 13C後半～14C
2	〃	〃	〃	染付	碗	10.8	4.2	6.2	畳付:無釉 外面:「草花文」 高台内:「太明」の崩れ字?　肥前系 18C末～19C初
3	〃	〃	〃	〃	〃	－	4.0	－	畳付:無釉 外面:「草花文」 高台内:「太明」の崩れ字?　肥前系 18C末～19C初
4	〃	〃	〃	〃	筒型碗	7.4	－	－	口縁内面:「四方襷文」 外面:「車輪文」 外面体部屈曲部下:「折松葉文」 全体的に青味を帯びた釉薬　肥前系 18C後半～19C初
5	〃	〃	〃	〃	碗	－	3.8	－	見込:「昆虫文」 外面:「梵字文」 畳付:無釉・鉄泥襞塗布　薩摩系? 18C末～19C初
6	〃	〃	〃	〃	〃	10.8	4.2	4.9	畳付:無釉 外面:「雪持笹文」 見込:蛇ノ目釉剥ぎ・アルミナ砂付着　肥前系 19C前半頃?
7	〃	〃	〃	〃	端反碗	4.6	3.6	4.5	畳付:無釉 外面:「海浜風景文」　薩摩系? 19C代
8	〃	〃	〃	〃	皿	14.2	8.4	3.0	畳付:無釉 高台内:「太明年製」の崩れ字? 外面:「唐草文」 見込:「コンニャク印判五弁花文」　肥前系 18C後半～19C初
9	〃	〃	〃	〃	仏花瓶	8.8	6.2	16.7	二耳瓶 口縁上半以下・高台内:無釉 外面:「菊花文」・「反蝶文」 染付は群青色 貫入多い　薩摩系(平佐系?) 18C末～19C初
10	〃	〃	〃	〃	瓶	3.3	－	－	内面頸部以下:無釉 外面頸部:二条圏線　肥前系?
11	〃	〃	〃	〃	猪口	－	3.6	－	畳付:無釉 焼成不良　肥前系 18C末～19C初
12	〃	〃	〃	陶器	碗	－	4.8	－	見込:蛇ノ目釉剥ぎ 高台部:無釉　薩摩系(龍門司?)
13	〃	〃	〃	〃	〃	10.6	4.0	4.4	見込:蛇ノ目釉剥ぎ・重ね焼きの釉溶着痕有り・「斜格子文」 外面:「二重格子文」　肥前系(波佐見) 19C前半
14	〃	SD3	下層	青花	皿	－	6.2	－	畳付:無釉 見込:「玉取獅子文」　福建・広東系 16C代
15	〃	〃	上層	染付	碗	9.3	3.5	5.7	外面上半:「斜格子文+四方襷文」 外面下半:「格子文」 内面上半:「四方襷文」　肥前系 18C末～19C初
16	〃	〃	〃	陶器	仏飯器	5.6	3.0	4.3	底部:無釉・ヘラ切? 坏部:白化粧土　薩摩系 19C代
17	〃	〃	〃	〃	碗	12.5	5.4	5.5	畳付:無釉 高台内:兜巾状 外面上半～内面:白化粧土 見込:鉈ノ目釉剥ぎ・砂目積痕あり　薩摩系
18	〃	〃	〃	〃	〃	11.2	4.6	4.8	畳付:無釉 外面上半～内面:白化粧土 見込:鉈ノ目釉剥ぎ・砂目積痕あり　薩摩系
19	〃	SD4	一括	白磁	〃	11.6	4.4	5.0	畳付:無釉 釉薬乳白色呈す　産地不詳 近世?
20	〃	〃	〃	染付	〃	12.5	4.4	5.0	畳付:無釉 見込:蛇ノ目釉剥ぎ・赤色膠着物あり 外面:「折松葉文」　肥前系? 19C代?
21	〃	SD3	下層	土師器	小皿	8.3	5.3	2.05	内面:スス付着 底部:切り離し技法不明瞭 灯明皿?
22	〃	一括	一括	青磁	碗	－	－	－	高台内:無釉 外面:蓮弁文　龍泉窯系 14C後半～15C
23	〃	〃	〃	〃	〃	－	－	－	外面:蓮弁文　龍泉窯系 14C後半～15C
24	表採	〃	〃	〃	端反碗	15.4	－	－	龍泉窯系 14C後半～15C
25	〃	〃	〃	陶器	擂鉢	28.6	－	－	口唇:無釉 口縁:断面「逆L字形」・外面折返し 内面:1単位5条の櫛目　薩摩系
26	〃	〃	〃	石器	磨石	7.1	6.5	5.2	端部に使用痕あり硬質砂岩製

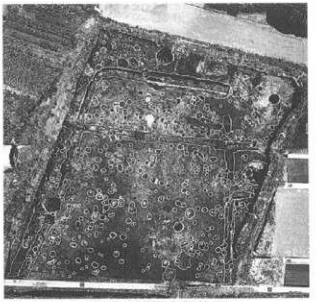
表８　久玉遺跡第８次調査Ｂ地区出土遺物観察表

V. 小結

今回の第７・８次調査では、これまでに蓄積されてきたデータとのすり合わせにより、当遺跡の中・近世期の様相について新たな知見をいくつか得ることができた。そこで、ここでは新たに明らかとなった各期の遺構分布とその性格について簡単に触れ、まとめにかえたいと思う。

当地区の中世集落は、新田開発の拠点として沖水川を望む舌状台地の端部に自然地形と大溝で方形に区画された居館（松原第Ⅰ遺跡・久玉遺跡第１次調査で検出）が構築される時期を出現期と捉え、それに付随するように成立した小規模かつ集約的な集落を発生段階の様相と認識している。その後、次第に集落域は拡大し、内陸域へもその版図を広げていくが、16世紀代に入って徐々に縮小傾向を辿り、近世に至ると再編された集落へと変化する、というのが現段階で想定している集落変遷のプロセスである。今回の調査では、こうした中世集落の発展段階にあたる13世紀～15世紀後半頃の区画溝が、これまで大規模遺構が確認されていない遺跡のやや内陸域（第７次調査Ｂ・Ｃ地区、第８次調査Ａ地区）において検出されている。これは総延長140m以上を計り、居館址の周囲に巡る大規模区画溝を除けば当該期最大級の遺構である。この区画溝の全容や内区部分の様相が明らかでない現時点においてその性格を想定するのは時期尚早であるが、発生期集落の中核を担っていた居館的施設と比較して、要害となる崖地形を利用するといった占地上の配慮を欠いている点や、「Ｖ」字溝のように防御を意識した構造を採っていない点などは、この区画溝が居館等とは目的の異なる遺構であったことを物語っているように思われる。さらに、この区画溝の北側には1197年創建とされる稲荷神社が立地しており、宗教関連施設においてもアジール権（庇護）や結界の概念に基づいて周囲に溝を巡らす事例があることを考えると、稲荷神社の社域との関連性も念頭に置いてその性格を検討していく必要性があると思われる。いずれにせよ、今後の調査の進展により、集落変遷プロセスの中での位置付けも含めて、この遺構の全容が明らかになることを期待したいと思う。

当地区の集落は、再編成の画期となる17世紀以降、その地理的特性を背景としながら、従来の生産拠点としての性格に加え、通運・通商などの流通機構の拠点、あるいは交通の要衝といった側面が付加され、その範囲も徐々に内陸域へと拡大したと推察している。こうした近世集落の様相の一つとして、規模の類似した屋敷地がある程度の間隔を保ちながら分布していることは先に触れたとおりであるが、第８次調査・Ｂ地区ではこのような近世段階に成立した集落構造の基盤が、最終的に現代まで継承されていることを物語る遺構が出土している。これまでも現在の土地区画と遺構のラインが符合する事例は確認されていたが、今回は同地区南端に近世の屋敷地を区割する目的で施されたSD4-1・2やSD5の軸と、埋没後これらの上部に形成されたSS1・SS2に挟まれた通路状空間の軌跡、そして現在では茶木が植栽され、土地の境界線の役割を果たしているラインがほぼ同一軸線上に位置していることが明らかになっている。これは中世末から現代に至る過程で、溝状遺構→通路・道路→植栽・塀等とその区画方法は変容するものの、基本的な土地の区割自体は変化することなく現代まで継承されている事象として大変興味深く、集落を面的に把握する上でも重要な事例であるといえよう。



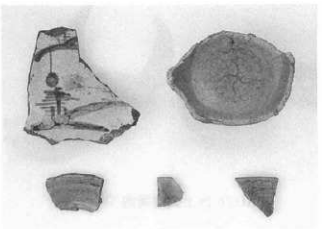
KU7A・遺構完掘状況

KU7A・SD3 内廃棄礫出土状況

KU7A・SS1 検出状況

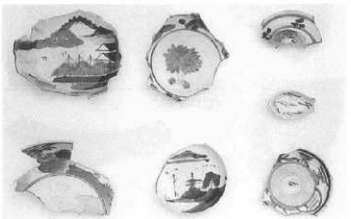
KU7A・SC5 内廃棄礫出土状況

KU7A・SD3 完掘状況

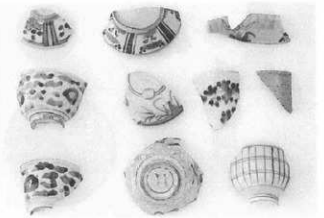


KU7A 出土船載磁器

KU7A 出土国産磁器①

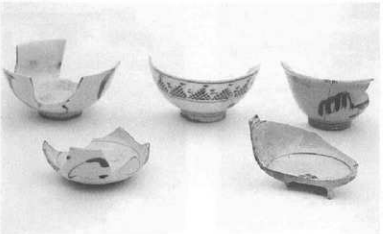


KU7A 出土国産磁器②

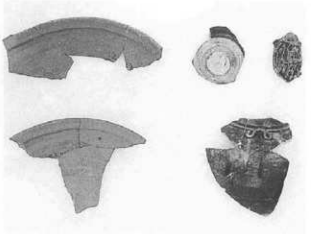


KU7A 出土国産磁器③

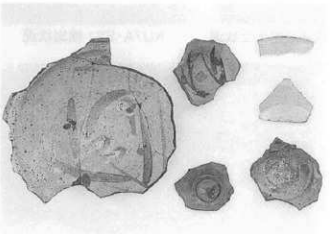
図版 2



KU7A 出土国産磁器④



KU7A 出土国産陶器①



KU7A 出土国産陶器②

KU7A 出土国産陶器③

KU7A 出土国産陶器④

KU7A 出土国産陶器⑤

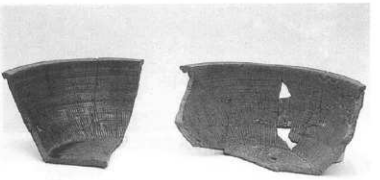
KU7A 出土国産陶器⑥

KU7A 出土国産陶器⑦

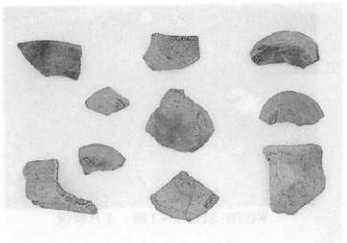
KU7A 出土国産陶器⑧

KU7A 出土国産陶器⑨

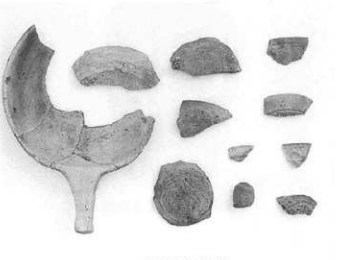
KU7A 出土国産陶器⑩



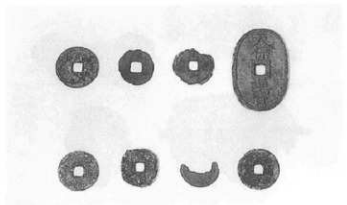
KU7A 出土国産陶器⑪



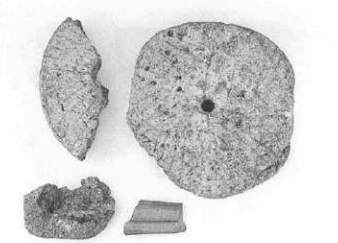
KU7A 出土土師器①



KU7A 出土土師器②

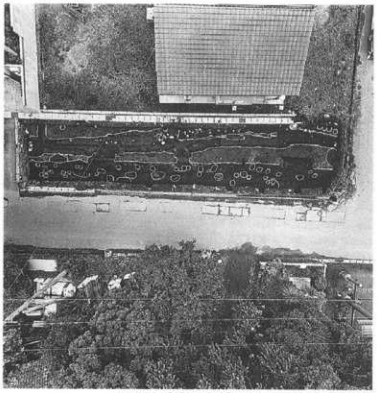


KU7A 出土銭貨

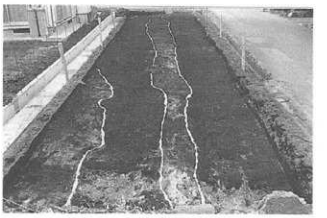


KU7A 出土石製品

図版 4



KU7B・遺構完掘状況

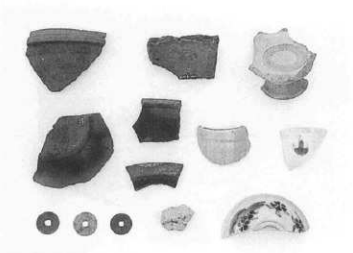


KU7B・遺構検出状況

KU7B・SD1-1, 2 掘り下げ状況

KU7B 出土国産陶器

KU7B・SD2-1～3 掘り下げ状況



KU7B 出土国産陶磁器・銭貨・土師器

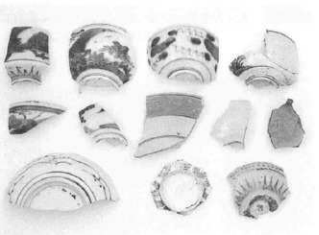
KU7B 出土土製品

KU7C・遺構完掘状況

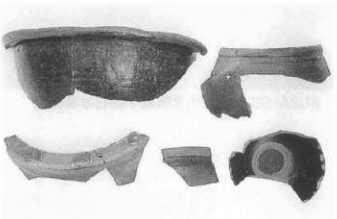
KU7C・SS1 検出状況①

KU7C・SS1 検出状況②

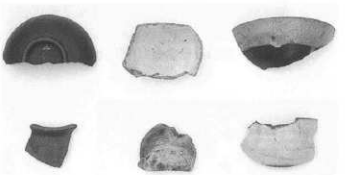
KU7C 出土国産磁器



KU7C 出土船載・国産磁器

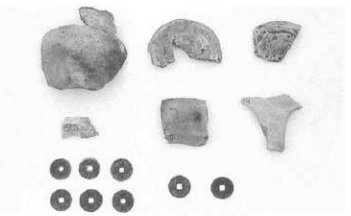


KU7C 出土国産陶器①



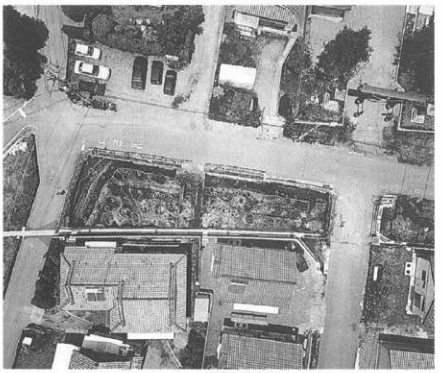
KU7C 出土国産陶器②

KU7C 出土土製品



KU7C 出土土師器・銭貨

図版 6



KU8A・遺構完掘状況

KU8A・SD1-1～3 掘り下げ状況①

KU8A・SD1-1～3 掘り下げ状況②

KU8A・SD1-1～3 内文明降下軽石堆積状況

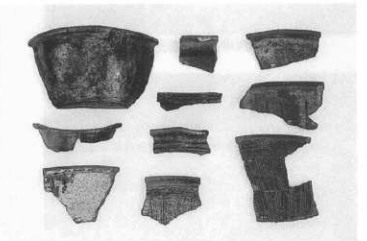
KU8A・SD1-1～3 完掘状況

KU8A 出土舶載・国産磁器

KU8A 出土国産磁器

KU8A 出土国産陶器①

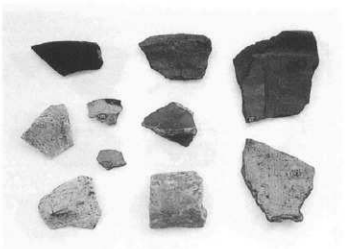
KU8A 出土国産陶器②



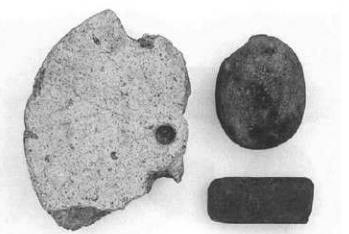
KU8A 出土国産陶器③

KU8A 出土国産陶器④

KU8A 出土国産陶器⑤

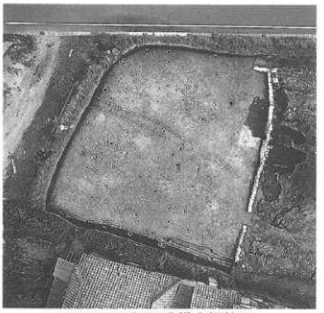


KU8A 出土国産陶器・土師器・土製品

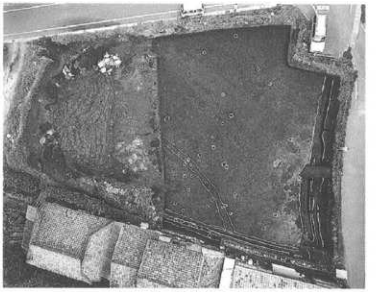


KU8A 出土石製品

図版 8



KU8B 西地区・遺構完掘状況



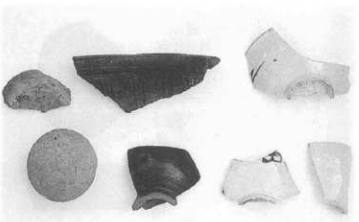
KU8B 東地区・遺構完掘状況

KU8B 東地区・遺構検出状況

KU8B・SD1～3 完掘状況

KU8B・SS1, SS2 検出状況

KU8B 出土国産陶磁器



KU8B 出土国産陶磁器・土師器・石製品

KU8B 出土舶載・国産磁器

報告書抄録

フリガナ 書名	クダマイセキ 久玉遺跡第7・8次調査概要報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	都城市文化財調査報告書
シリーズ番号	第39集
編著者名	横山哲英
編集機関	都城市教育委員会
所在地	宮崎県都城市姫城街6街区21号
発行年月日	1997年3月31日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積(㎡)	調査原因
クダマイセキ 久玉遺跡 (第7次)	ミヤザキケン 宮崎県 ミヤコノジョウシ 都城市 コオリモトチョウ 郡元町 アザクダマ 字久玉	31°41′40″ 付近	131°05′40″ 付近	1995.04.10～ 1995.07.27	1,058	区画整理 事業関連
クダマイセキ 久玉遺跡 (第8次)				1996.04.05～ 1996.08.19	1,238	

遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
久玉遺跡 (第7次)	集落跡	縄文時代	土坑		
		中世	溝状遺構　柱穴群 道路状遺構　土坑	舶載磁器（青磁・青花） 東播系須恵器　備前焼 土師器　銭貨	
		近世	溝状遺構　柱穴群 道路状遺構　土坑 掘立柱建物跡 石組遺構	肥前系陶磁器　土師器 薩摩系陶磁器　銭貨 土製品（焙烙・羽釜等） 美濃系陶器　砥石	
久玉遺跡 (第8次)	集落跡	縄文時代	土坑		
		中世	溝状遺構　柱穴群 道路状遺構　土坑	舶載磁器（青磁・青花） 東播系須恵器　備前焼	
		近世	溝状遺構　柱穴群 道路状遺構　土坑 掘立柱建物跡 井戸　石組遺構	肥前系陶磁器　土師器 薩摩系陶磁器 土製品（焙烙・羽釜等）	

都城市文化財調査報告書第39集

久　玉　遺　跡

―第7・8次調査概要報告書―

1997年3月

編　集　宮崎県都城市教育委員会
発　行　〒885 宮崎県都城市姫城町6街区21号
TEL(0986)23-9547　FAX(0986)24-1989

印　刷　有限会社 都城新生社印刷
〒885 宮崎県都城市都北町7284-1
TEL(0986)38-3500